Integra®

AV センター

DTX-7

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書とともに大切に保管してください。

目次

基本編

はじめに

接続をする

初期設定をする

映画・音楽を鑑賞する（基本編）

その他

こんなこともできます

応用編

接続した製品を本機のリモコンで操作する

設定をする（応用編）

映画・音楽を鑑賞する（応用編）

ネットオーディオを使う

ZONE 2(別室)で映画･音楽を鑑賞する

主な特長

■ ドルビー*1デジタル、ドルビープロロジック II サラウンド、ドルビーデジタルEX再生可能
■ THX社が提唱する「THX®*2 Select」規格に準拠
■ THXサラウンドEX、DTS*3、DTS-ES Discrete、DTS-ES Matrix、DTS Neo:6、DTS 96/24サラウンド再生可能
■ MPEG-2 AAC再生可能
■ 高音域が強調された劇場用サウンドを家庭で適切なバランスに補正する「Re-EQ*4（シネマ・リ・イコライザー）」機能
■ 小音量でもサラウンドを楽しめるLATE NIGHT機能（ドルビーデジタル時のみ）
■ MP3/WAV/WMAフォーマットの音楽ファイルを再生可能、ネットオーディオ機能*5
■ 入力機器に名前をつけるキャラクターインプット機能
■ 他機の操作および短縮操作を可能にするラーニング＆プリプログラムド、マクロ機能搭載のバックライト付きリモコンを付属
■ モニターを見ながら、初期設定や各種設定が簡単にできるオンスクリーンディスプレイ（OSD）機能
■ 再生周波数の広帯域化(10Hz～100kHz)を実現する技術WRAT(Wide Range Amplifier Technology)
■ 飛躍的な音質向上、デジタル信号からピュアなアナログ信号を生成するVLSC（Vector Linear Shaping Circuitry）搭載（フロントL/R、センター）
■ 信号のノイズ領域との近接を回避して聴感上のS/Nを向上させるオプティマム・ゲイン・ボリューム回路
■ 32bit DSPを2つ使用した高精度デジタル処理回路
■ ダウンミックスによるフロントL/Rチャンネルのダイナミックレンジの減少や、S/N劣化を防ぐ技術「ノン・スケーリング・コンフィグレーション」採用の回路
■ DVD-Audioプレーヤーなどへの拡張性を実現する7.1チャンネル入力端子装備
■ パワーアンプが接続できるマルチチャンネル（7.1ch）プリ出力端子装備
■ D4/コンポーネント映像入力端子2系統、出力端子1系統装備
■ S映像入力端子6系統/出力端子3系統装備
■ デジタル入力端子として光5系統、同軸3系統、デジタル出力端子として光2系統装備
■ ビデオ（コンポジット）やSビデオ信号をコンポーネント/D4端子に出力するビデオコンバーター搭載
■ レコードもお楽しみいただけるPHONO端子装備

*1 ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
“Dolby”、“ドルビー”、“Pro Logic”、“Surround EX”およびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。
*2 THXはTHX社の登録商標です。
*3 本機は、デジタル・シアター・システムズ社からのライセンスに基づき製造されています。
“DTS”、“DTS96/24”、“DTS-ES”および“Neo:6”は、デジタル・シアター・システムズ社の商標です。
*4 Re-Equalization、Re-EQロゴは、THX社の商標です。
*5 Net-Tuneおよびネットチューンは、オンキヨー株式会社の商標です。
Windows Media、Windowsロゴは、米国マイクロソフト社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
Intel、Pentiumは、米国インテル社の登録商標です。
“Xiva”は、Imerge社の登録商標です。
Theater-Dimensionalは、オンキヨー株式会社の商標です。

AAC パテントマーキング
Pat.5,848,391 5,291,557 5,451,954 5 400 433 5,222,189 5,357,594 5 752 225
5,394,473 5,583,962 5,274,740 5,633,981 5 297 236 4,914,701 5,235,671
07/640,550 5,579,430 08/678,666 98/03037 97/02875 97/02874 98/03036
5,227,788 5,285,498 5,481,614 5,592,584 5,781,888 08/039,478 08/211,547
5,703,999 08/557,046 08/894,844 5,299,238 5,299,239 5,299,240 5,197,087
5,490,170 5,264,846 5,268,685 5,375,189 5,581,654 5,548,574 5,717,821

THX Select
THX Selectの認証を取得したホーム･シアター･コンポーネントは､いずれも一連の厳しい品質/性能試験に合格しています｡このような製品にのみ付与されているTHX Select のロゴは、ご購入いただいたホーム・シアター製品が、長期間にわたって卓越した性能を発揮することを保証するものです。THX Select の要件には、パワーアンプ性能、プリアンプ性能、デジタル/アナログ空間での動作などをはじめとする、何百ものパラメータが定義されています。またTHX Select レシーバーは、劇場用映画のサウンドトラックを正確にホーム・シアターで再現するための特許技術である、THX技術を備えています。

**カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後にあるアルファベットは、製品の色を表す記号です。
色は異なっても操作方法は同じです。**

オーディオ機器の正しい使いかた

オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

絵表示について
この「取扱説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中や近傍に具体的な指示内容（左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠警告

■ 故障したままの使用はしない

電源プラグをコンセントから抜いてください

●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。
煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■ 絶対に裏ぶた、カバーははずさない、改造しない

●本機の裏ぶた、カバーは絶対にはずさないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。
●本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 100V以外の電圧で使用しない

●本機を使用できるのは日本国内のみです。
●表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧や船舶などの直流（DC）電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 放熱を妨げない

●本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。
次の点に気をつけてご使用ください。
• 本機を逆さまや横倒しにして使用しないでください。
• 本機を、専用ラック以外の押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。
• テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、ふとんの上に置いて使用しないでください。
• 本機を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は、少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面、横から20cm以上、背面から10cm以上のすきまをあけてください。

■ 水のかかるところに置かない

水場での
使用禁止

●風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

水ぬれ
禁止

●本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

■ 水の入った容器を置かない

●本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。中に入った場合、火災・感電の原因となります。

■ 中に物を入れない

●本機の通風孔などから金属類や燃えやすいものを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■ 中に水や異物が入ったら

電源プラグをコンセント
から抜いてください

●万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐに本機の電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

■ 電源コードを傷つけたり、加工しない

●電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

●電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがありますのでご注意ください。
●電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

■ 電源コンセントにはオーディオ機器以外接続しない

●本機の電源コンセントはオーディオ機器専用です。表示された定格以内でご使用ください。表示された定格以上の機器やヘヤードライヤー、電気こたつなどの電熱器具、オーブン・レンジなどの調理器具は絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 落としたり、破損した状態で使用しない

電源プラグをコンセント
から抜いてください

●万一、誤って本機を落とした場合や、キャビネットを破損した場合には、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

■ 雷が鳴りだしたら機器に触れない

接触
禁止

●雷が鳴りだしたら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

■ 乾電池を充電しない

●乾電池は充電しないでください。電池の破裂や液もれにより、火災、けがの原因となります。

⚠注意

■ 設置上の注意

●強度の足りない台やぐらついたり、傾いたりした所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。
●本機の上に他のオーディオ機器を乗せたまま移動しないでください。倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。
●この機器は非常に重いので持ち運びは必ず二人以上で行ってください。けがや腰痛の原因となることがあります。
●本機の上に10kg以上の重い物や外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。

■ 次のような場所に置かない

●調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 接続について

●本機を他のオーディオ機器やテレビなどの機器に接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源スイッチを切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると、発熱し、やけどの原因となることがあります。

■ 使用上の注意

●長時間音が歪んだ状態で使わないでください。アンプ、スピーカー等が発熱し、火災の原因となることがあります。
●ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
●本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。

■ 電源コード、電源プラグの注意

●電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
●ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
●電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
●電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜いてください

●旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
●移動させる場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

■ 電池について

●電池をリモコンに挿入する場合、極性表示（プラス＋とマイナス－の向き）に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

●指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより火災、けがや周囲の汚損の原因となることがあります。
●電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

■ スピーカーコードについて

●スピーカーコードを傷つけたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 点検・工事について

電源プラグをコンセントから抜いてください

●お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

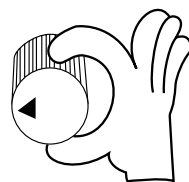
●使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をお勧めします。もよりの販売店にご相談ください。
本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除、点検費用等についても販売店にご相談ください。

●電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。

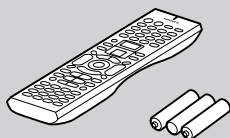
●シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装がはげたり変形することがあります。

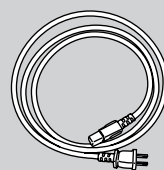
●表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと、乾いた布で拭いてください。
化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。

音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

付属品を確認する

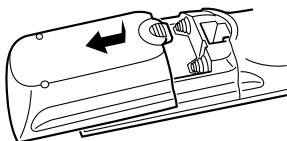
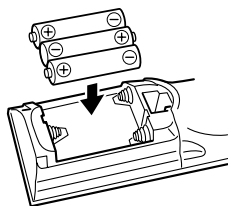
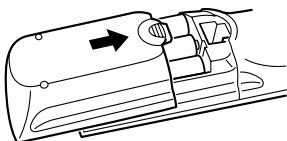
■付属品

ご使用の前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。
（ ）内の数字は数量を表しています。

電源コード…（1）

リモコン（RC-564M）…（1）
乾電池（単三形、R6）…（3）

スピーカーコード用ラベル…（1）

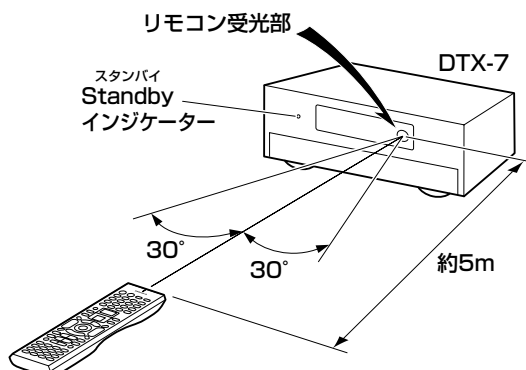
取扱説明書…（本書1）
保証書…（1）

リモコンを準備する

1. カバーを矢印の方向にずらして開ける

2. 中の極性表示にしたがって、付属の乾電池3個を＋（プラス）と－（マイナス）を間違えないように入れる

3. カバーを戻す

ご注意

- 種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混用しないでください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出しておいてください。
- 寿命がなくなった電池を入れたままにしておきますと腐食によりリモコンをいためることがあります。リモコン操作の反応が悪くなったときは、古い電池を取り出して3本とも新しい電池と交換してください。
- 使用頻度にもよりますが、付属の電池の寿命は約6ヵ月です。電池の交換時には、単3形をご使用ください。

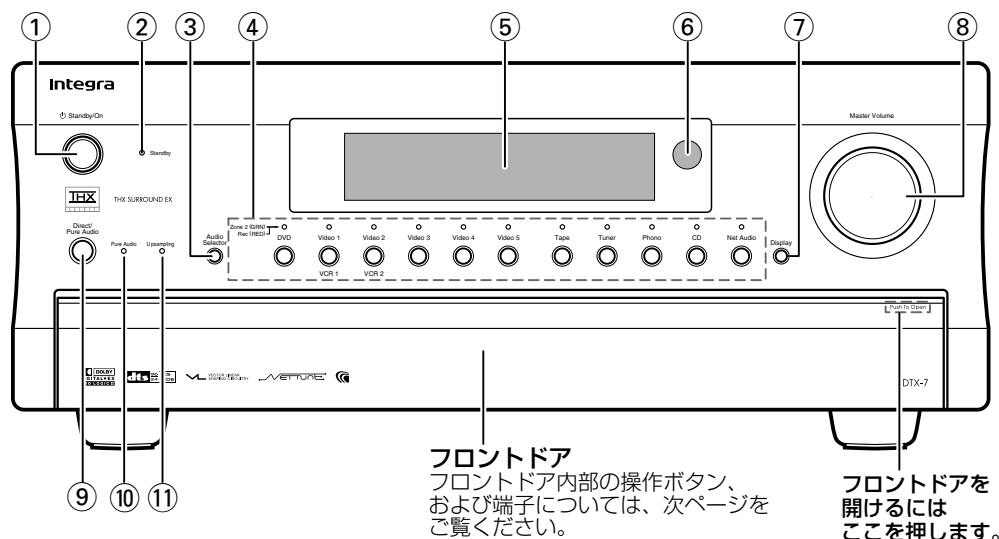
リモコンを使う

リモコンを本機のリモコン受光部に向けて使用してください。リモコンからの信号を受信すると、本機のSTANDBY（スタンバイ）インジケーターが点灯します。

ご注意

- リモコン受光部に日光やインバーター蛍光灯などの強い光を直接当てると正しく動作しないことがあります。
- 赤外線を使った機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- リモコンの上に本など、ものを置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスを使っていると、リモコンが正常に機能しないことがあります。
- リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると操作できません。

本体、リモコンボタンの名前と働き

前面パネル

詳しい説明は〔　　〕内のページをご覧ください。

① **Standby/Onボタン〔45〕**
電源のスタンバイ/オンを切り換えます。

② **Standbyインジケーター〔45〕**
スタンバイ状態のときやリモコンからの信号を受信すると点灯します。

③ **Audio Selectorボタン〔47〕**
音声信号の種類を選びます。

④ **入力切換ボタンとインジケーター（DVD、Video1～5、Tape、Tuner、Phono、CD、Net Audio）〔40～42、44、45、47、51、56、58～69、80〕**
再生するソースを選びます。

！ヒント

ZONE 2端子のソースを選ぶには、Zone 2ボタンを押してから、入力切換ボタンを押します。インジケーターが緑色に点灯している入力はZONE 2端子に信号が出力されています。

REC OUT（録音出力）端子用のソースを選ぶには、Rec Outボタンを押してから入力切換ボタンを押します。インジケーターが赤色に点灯している入力は、REC OUT端子に信号が出力されています。

⑤ **表示部**
次ページをご覧ください。

⑥ **リモコン受光部〔8〕**
リモコンからの信号を受信します。

⑦ **Displayボタン〔54〕**
表示部の情報を切り換えます。

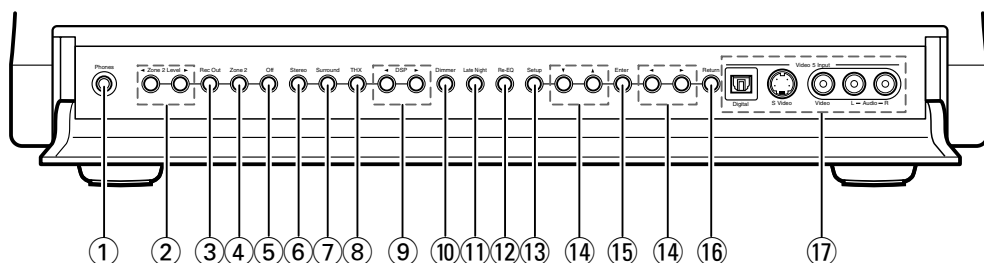
⑧ **Master Volumeつまみ〔45〕**
音量を調整します。
音量は基本的に0～100の範囲で調整できます。

⑨ **Direct/Pure Audio切換ボタン〔51〕**
リスニングモードの「ダイレクト」と「ピュアオーディオ」を切り換えます。

⑩ **Pure Audioインジケーター〔51〕**
リスニングモードが「ピュアオーディオ」のとき、点灯します。

⑪ **Upsamplingインジケーター〔62〕**
アップサンプリング処理時に点灯します。

本体、リモコンボタンの名前と働き

■前面パネルフロントドア内ボタンおよび端子

① **Phones端子〔46〕**
標準プラグのステレオヘッドホンを接続します。

② **Zone 2 Level◀/▶ボタン〔81〕**
ZONE 2（別室）の音量を調整します。

③ **Rec Outボタン〔58、59〕**
本機の信号出力先を切り換えます。本機に接続した機器を使って録音･録画をするときに押します。「SOURCE」と表示された場合は、現在の再生ソースと同じソースが選択されています。「SOURCE」にするにはボタンを2回押します。

④ **Zone 2ボタン〔81〕**
本機の信号出力先を切り換えます。ZONE 2（別室）で音楽を楽しむときに押します。「SOURCE」と表示された場合は、現在の再生ソースと同じソースが選択されています。「SOURCE」にするにはボタンを2回押します。

⑤ **Offボタン**
本機の信号出力を録音機器にもZONE 2（別室）にも出力させない場合に押します。Rec OutボタンまたはZone 2ボタンを押してから、8秒以内に押します。

⑥ **Stereoボタン〔51〕**
リスニングモードを「ステレオ」に切り換えます。

⑦ **Surroundボタン〔51〕**
ドルビーデジタル、ドルビープロロジックII、DTS、AACのリスニングモードを切り換えます。

⑧ **THXボタン〔51〕**
THXで聞くときに押します。

⑨ **DSP◀/▶ボタン〔51〕**
オンキヨー独自のリスニングモードを切り換えます。

⑩ **Dimmerボタン〔46〕**
表示部の明るさを切り換えます。

⑪ **Late Nightボタン〔55〕**
レイトナイト機能を切り換えます。

⑫ **Re－EQボタン〔55〕**
Re－EQのオン/オフを切り換えます。

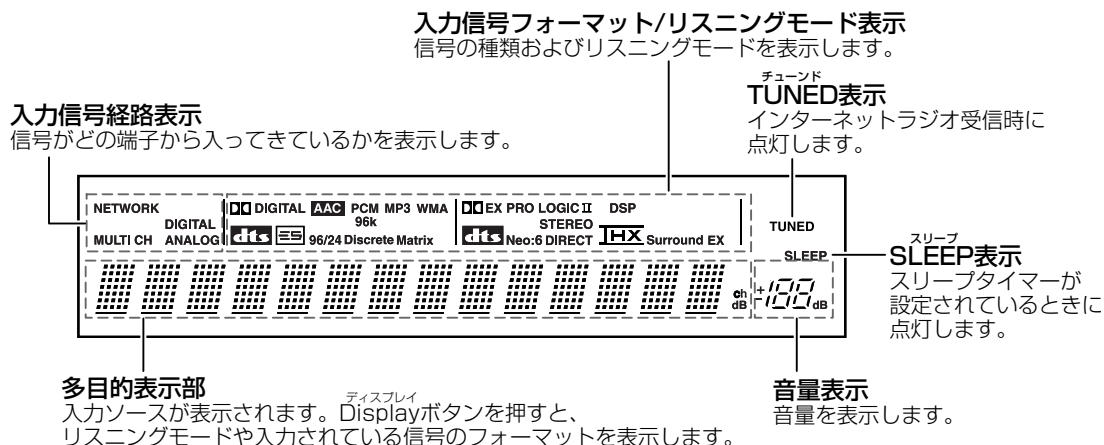
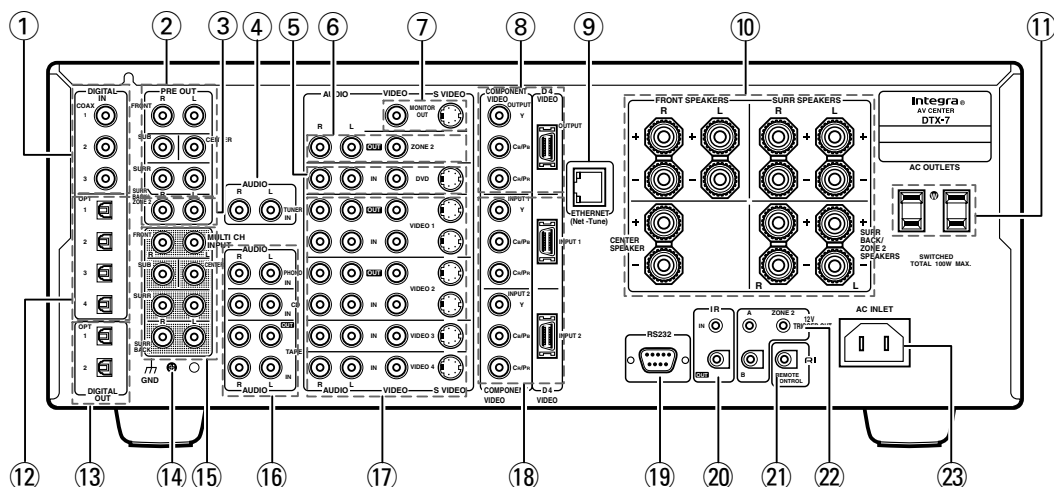
⑬ **Setupボタン〔35〜43、47、56、59〜61、66〜69、80〕**
テレビと表示部にメニュー項目を表示します。

⑭ **カーソル▲/▼/◀/▶ボタン〔35〜43、47、56、59〜61、66〜69、80〕**
メニュー項目を選択します。

⑮ **Enterボタン〔35〜43、47、56、59〜61、66〜69、80〕**
選択している項目を確定します。

⑯ **Returnボタン**
メニュー操作時に押すと、1つ前の画面に戻ります。メインメニュー画面で押すと、メニュー操作を終了します。

⑰ **Video 5 Input端子〔27、59〕**
ビデオカメラやゲーム機などを接続します。

表示部

後面パネル

① DIGITAL IN 1～3端子（COAX）
デジタル音声の入力端子。同軸デジタルケーブルを使ってデジタル再生機器を接続します。

② PRE OUT端子
本機をプリアンプとして使用する場合、パワーアンプと接続します。サブウーファーはここに接続します。

③ SURR BACK/ZONE 2端子
パワーアンプまたはZONE 2（別室）用パワーアンプを接続します。

④ TUNER IN端子
オーディオ用ピンコードを使ってチューナーを接続します。

⑤ DVD IN端子
DVDプレーヤーを接続します。

⑥ ZONE 2 AUDIO/VIDEO OUT端子
ZONE 2（別室）で使用するプリメインアンプなどを接続します。

⑦ MONITOR OUT端子
接続した映像機器の映像を、本機を通してテレビなどのモニターに映します。

⑧ COMPONENT/D4 VIDEO OUTPUT端子
本機からコンポーネント映像やD映像を出力する端子。コンポーネントビデオコードまたはD端子用接続コードを使って接続します。S映像より良い画質が得られます。

⑨ ETHERNET（Net-Tune）端子
ホームネットワークと接続するための端子。イーサネットケーブルなどを使ってルータやハブに接続します。

⑩ スピーカー端子
スピーカーを接続します。

⑪ AC OUTLETS（電源コンセント）
本機に接続する機器の電源プラグを接続します。

⑫ DIGITAL IN 1～4端子（OPT）
デジタル音声の入力端子。光デジタルケーブルを使って再生機器を接続します。

⑬ DIGITAL OUT 1､2端子（OPT）
デジタル音声の出力端子。光デジタルケーブルを使って録音機器を接続します。

⑭ GND端子
レコードプレーヤーのアース線を接続します。

⑮ MULTI CH INPUT端子
アナログ5.1chまたは7.1ch出力端子のあるDVDプレーヤーなどを接続します。

⑯ AUDIO端子（PHONO IN､CD IN､TAPE IN/OUT）
レコードプレーヤー、CDプレーヤーをオーディオ用ピンコードを使って接続します。TAPE IN/OUT端子にはテープデッキやMDレコーダーなどの録音機器を接続します。

⑰ VIDEO 1～4IN/OUT端子
オーディオ用ピンコードまたはビデオコードなどを使って、ビデオデッキなどの録画機器を接続します。

⑱ COMPONENT/D4 VIDEO INPUT1、2端子
コンポーネント映像やD映像を入力する端子。コンポーネントビデオコードまたはD端子用接続コードを使って接続します。S映像より良い画質が得られます。

⑲ RS232コネクター
外部のコントロール機器から本機をコントロールすることができます。

⑳ IR IN/OUT端子
別室からリモコン操作したいときや本機をラックに入れたときに、リモコンセンサーを外部に取り付ける端子。（この接続にはマルチルームシステム用キットが必要ですが、2003年11月現在では日本国内では販売していません。）

㉑ RI REMOTE CONTROL端子
RI端子付きオンキヨー製品と接続し、連動させる端子。RIケーブルの接続だけでは連動しません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

㉒ 12V TRIGGER OUT A/B ZONE 2端子
12V TRIGGER IN端子のある機器と接続する端子。

㉓ AC INLET
付属の電源コードを接続します。

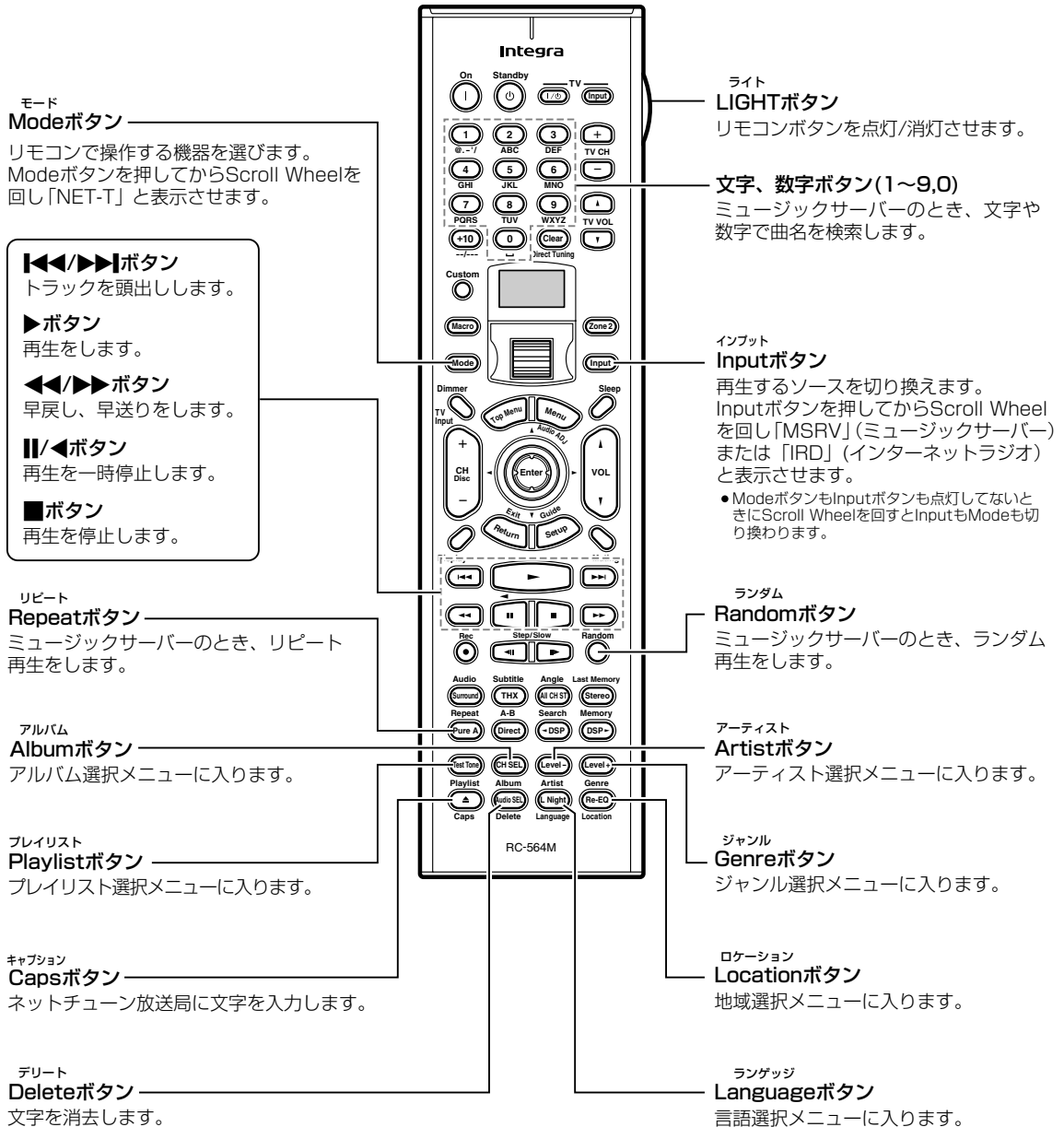
本体、リモコンボタンの名前と働き

リモコン（RC-564M）

AMPモード（本機を操作するとき）

本機を操作する前に、Scroll Wheelを押してリモコンをAMPアンプモードにしてください。

ネットチューンモード（ネットチューンを操作するとき）

ネットチューンを操作する前に、Modeボタンを押し、Scroll Wheelを回してリモコンをNET-Tモードにしてください。

本体、リモコンボタンの名前と働き

本機に付属のリモコンでRI接続をしたオンキヨー製品を操作することができます。
RIケーブルとオーディオ用ピンコードを正しく接続してください。

DVDモード（本機にRI接続したDVDプレーヤーを操作するとき）

本機のリモコン受光部に向けて操作してください。
DVDプレーヤーを操作する前に、Modeボタンを押し、Scroll Wheelを回してリモコンをDVDモードにしてください。
DVDプレーヤーによっては対応していない製品もあります。

Standbyボタン
DVDプレーヤーをスタンバイ状態にします。

Onボタン
DVDプレーヤーの電源を入れます。

文字、数字ボタン（1～9,+10,0）
チャプター番号などを選択します。

Modeボタン
リモコンで操作する機器を選びます。DVDを操作するには、Modeボタンを押してからScroll Wheelを回して「DVD」と表示させます。

Top Menuボタン
DVDのトップメニュー画面を表示します。

CH Disc ＋/－ボタン
DVDチェンジャーのディスクを選択します。

Return/Exitボタン
メニュー操作時に押すと、1つ前の画面に戻ります。メインメニュー画面で押すと、メニュー操作を終了します。

Displayボタン
表示される情報を切り換えます。

⏮/⏭ボタン
トラックを頭出しします。
▶ボタン
ディスクを再生します。
◀◀/▶▶ボタン
早戻し、早送りをします。
II/◀ボタン
再生を一時停止します。
■ボタン
再生を停止します。
◀II/II▶ ボタン
スロー再生、コマ送り再生をします。
●Recボタン
録音一時停止状態にします。

Audioボタン
音声を切り換えます。

Repeatボタン
くり返し再生をします。

⏏ ボタン
ディスクトレイを開閉します。

LIGHTボタン
リモコンボタンを点灯/消灯させます。

Clearボタン
入力した項目を取り消します。

Inputボタン
再生するソースを切り換えます。Inputボタンを押してからScroll Wheelを回し「DVD」と表示させます。
- ModeボタンもInputボタンも点灯してないときにScroll Wheelを回すとInputもModeも切り換わります。

Menuボタン
DVDのメニュー画面を表示します。

▲/▼/◀/▶ Enterボタン
メニュー操作時、上下左右に押して項目を選択します。中央のEnterボタンを押すと、選択した項目を確定します。

VOL▲/▼ボタン
音量を調整します。

Setup/Guideボタン
テレビと表示部にDVDの設定項目を表示します。

Mutingボタン
音を一時的に小さくします。

Randomボタン
ランダム再生をします。

Subtitleボタン
字幕言語を切り換えます。

Last Memoryボタン
再生する場所を記憶させます。

Angleボタン
カメラアングルを切り換えます。

Memoryボタン
好きな曲/場面順に再生するように記憶させます。

Searchボタン
再生したい場所を指定します。

A-Bボタン
A-Bくり返し再生をします。

CDモード（本機にRI接続したCDプレーヤーを操作するとき）

CDプレーヤーを操作する前に、Modeボタンを押し、Scroll Wheelを回してリモコンをCDモードにしてください。

Onボタン
CDプレーヤーのスタンバイ/オンを切り換えます。

文字、数字ボタン（1〜9,+10,0）
曲番などを選択します。

Modeボタン
リモコンで操作する機器を選びます。Modeボタンを押してからScroll Wheelを回し「CD」と表示させます。

CH Disc +/−ボタン
CDチェンジャーのディスクを選択します。

Displayボタン
表示される情報を切り換えます。

⏮/⏭ボタン
トラックを頭出しします。
▶ボタン
ディスクを再生します。
◀◀/▶▶ボタン
早戻し、早送りをします。
⏸/◀ボタン
再生を一時停止します。
■ボタン
再生を停止します。

Repeatボタン
くり返し再生をします。

⏏ ボタン
ディスクトレイを開閉します。

LIGHTボタン
リモコンボタンを点灯/消灯させます。

Clearボタン
入力した項目を取り消します。

Inputボタン
再生するソースを切り換えます。Inputボタンを押してからScroll Wheelを回し「CD」と表示させます。
- ModeボタンもInputボタンも点灯してないときにScroll Wheelを回すとInputもModeも切り換わります。

VOL ▲/▼ ボタン
音量を調整します。

Mutingボタン
音を一時的に小さくします。

Randomボタン
ランダム再生をします。

Memoryボタン
好きな曲を再生するように記憶させます。

MD/CDRモード（本機にRI接続したMD/CDレコーダーを操作するとき）

MDレコーダーまたはCDレコーダーを操作する前に、Modeボタンを押し、Scroll Wheelを回してリモコンをMDまたはCDRモードにしてください。

本機にRI接続したチューナーを操作するとき

チューナーを操作する前に、Scroll Wheel（スクロール ホイール）を押してリモコンをAMP（アンプ）モードにしてください。

Mode（モード）ボタン
リモコンで操作する機器を選びます。
チューナーを操作するにはScroll Wheelを押して「AMP」モードにします。

CH Disc ＋/－ボタン（チャンネルディスク）
プリセット番号を選択します。

Display（ディスプレイ）ボタン
表示される情報を切り換えます。

LIGHT（ライト）ボタン
リモコンボタンを点灯/消灯させます。

Input（インプット）ボタン
再生するソースを切り換えます。
Inputボタンを押してからScroll Wheelを回し「TUNER」と表示させます。
● ModeボタンもInputボタンも点灯してないときにScroll Wheelを回すとInputもModeも切り換わります。

VOL▲/▼ボタン（ボリューム）
音量を調整します。

Muting（ミューティング）ボタン
音を一時的に小さくします。

本機にRI接続したカセットデッキを操作するとき

カセットデッキを操作する前に、Scroll Wheelを押してリモコンをAMPモードにしてください。

Mode（モード）ボタン
リモコンで操作する機器を選びます。
テープを操作するにはScroll Wheelを押して「AMP」モードにします。

⏮/⏭ボタン
トラックを頭出しします。
▶ボタン
テープを再生します。
◀◀/▶▶ボタン
早戻し、早送りをします。
⏸/◀ボタン
裏面を再生します。
■ボタン
再生を停止します。
●Rec（レック）ボタン
録音一時停止状態にします。

LIGHT（ライト）ボタン
リモコンボタンを点灯/消灯させます。

Input（インプット）ボタン
再生するソースを切り換えます。
Inputボタンを押してからScroll Wheelを回し「TAPE」と表示させます。
● ModeボタンもInputボタンも点灯してないときにScroll Wheelを回すとInputもModeも切り換わります。

VOL▲/▼ボタン（ボリューム）
音量を調整します。

Muting（ミューティング）ボタン
音を一時的に小さくします。

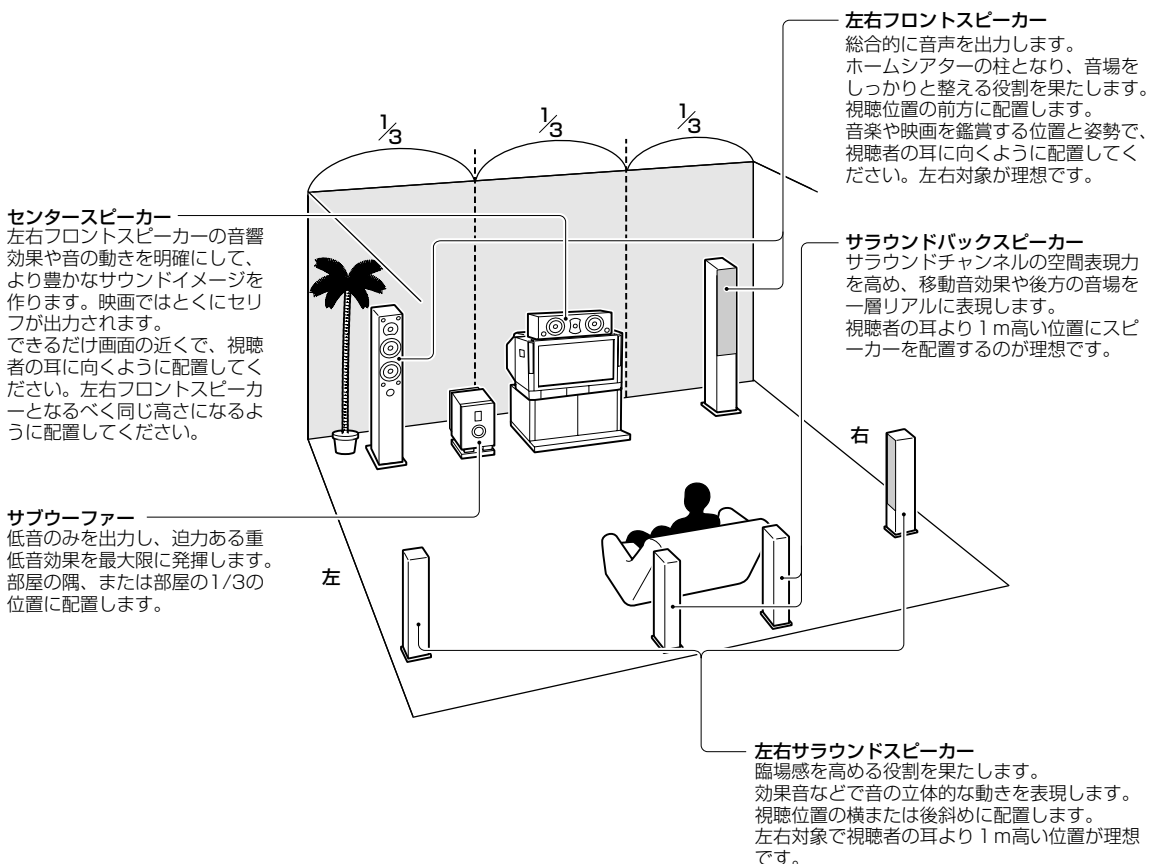
ご注意

録音状態によっては、⏮/⏭ボタンを押したときに正しく動作しないことがあります。

ホームシアターとは

ホームシアターを楽しもう

本機は優れた機能を使って音の立体感、移動感を実現し、ご家庭で簡単に劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれる音響効果をお楽しみいただけます。THX Surround EXの再生には、THX社認定のTHXスピーカーシステムのご使用をおすすめします。
DVDではディスクの記録方法により、DTSやドルビーデジタル再生、THX再生、テレビや衛星放送ではオンキヨー独自のDSPサラウンド再生をお楽しみいただけます。

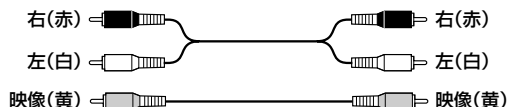
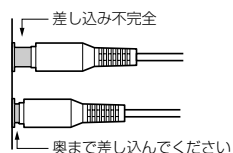
スピーカーの使いかた
2つお持ちの場合、左右フロントスピーカーとして使用します。(2チャンネル再生)
3つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカーとして使用します。(3チャンネルサラウンド)
4つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、左右サラウンドスピーカーとして使用します。(4チャンネルサラウンド)
5つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカーとして使用します。(5チャンネルサラウンド)
6つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、左右サラウンドスピーカー、左右サラウンドバックスピーカーとして使用します。(6チャンネルサラウンド)
7つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカー、左右サラウンドバックスピーカーとして使用します。(7チャンネルサラウンド)
サブウーファーをお持ちの場合、スピーカーの数に関係なく、重低音効果を発揮するために使用します。(○.1チャンネル再生)

● 最適なサラウンド再生をお楽しみいただくには、音が届く時間を一定にするため視聴位置からスピーカーの距離を設定する必要があります。また、音のバランスを調整するため、それぞれのスピーカーの音量の設定を行ってください。(☞38、39ページ)

接続をする

■接続の前に

- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 電源コードは全ての接続が終わるまでつながないでください。

ビデオ用、オーディオ用ピンコードは以下のように接続してください。

- 入力端子は赤いコネクター（Rの表示）を右チャンネル、白いコネクター（Lの表示）を左チャンネル、黄色のコネクター（Vの表示）をビデオチャンネルに接続してください。

- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因になります。

- ビデオコード、オーディオ用ピンコードは電源コードやスピーカーコードと束ねないでください。音質や画質が悪くなることがあります。

光デジタル入力端子/出力端子について

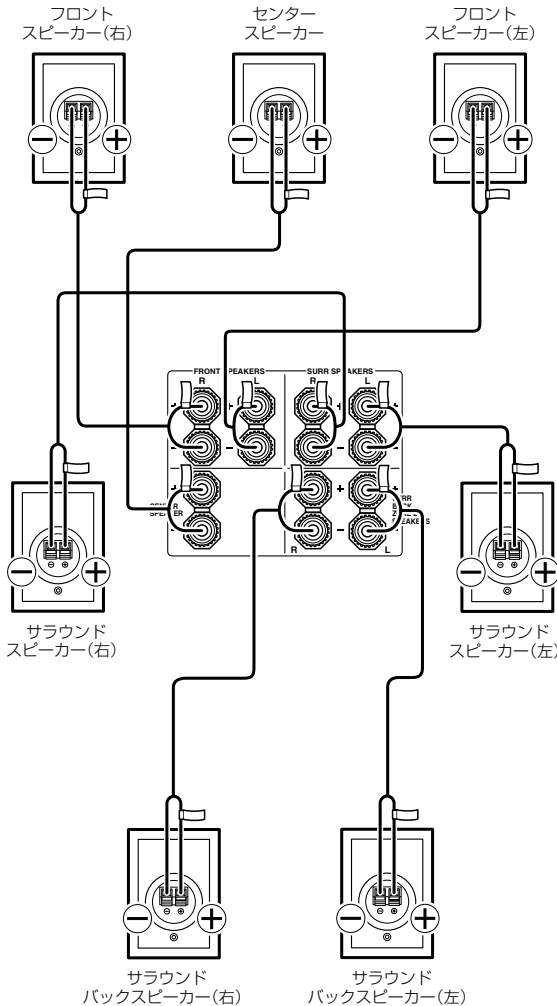
本機の光デジタル端子はすべてシャッタータイプですので、フタをそのまま奥へ倒すようにして光デジタルケーブルを差し込んでください。

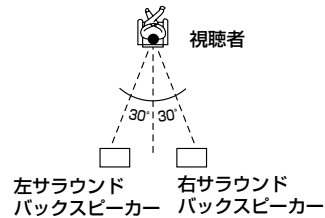
映像/音声ケーブルと端子の種類について

映像ケーブルと端子の種類			
ケーブルの名称	ケーブルの形	端子の形	ケーブルや端子の役割
コンポーネント ビデオコード	CR CB Y	Y CB/PB CR/PR	画質はSビデオより良く、D端子と同レベルです。映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることはできません。
D端子用 接続コード		D4	画質はSビデオより良く、コンポーネントと同レベルです。映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることができます。
Sビデオコード		S VIDEO	コンポジットの映像よりよい画質が得られます。本機では映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることはできません。
ビデオコード （コンポジット）		VIDEO	標準的な映像信号で、多くのテレビやビデオなどの映像機器に装備されています。

映像ケーブルと端子の種類			
ケーブルの名称	ケーブルの形	端子の形	ケーブルや端子の役割
光デジタルケーブル （OPT）（オプティカル）		OPT	ドルビーデジタルなどのデジタル音声が得られます。音質はCOAXと同レベルです。
同軸デジタルケーブル （COAX）（コアキシャル）		COAX	ドルビーデジタルなどのデジタル音声が得られます。音質はOPTと同レベルです。
オーディオ用ピンコード		AUDIO R L	アナログ音声を伝送します。
マルチチャンネル 接続コード		FRONT R L MUL INPUT SUB CENTER SURR R L SURR BACK	DVDオーディオ対応のDVDプレーヤーなどにあります。 アナログマルチチャンネル音声を伝送します。

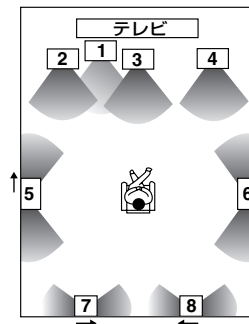
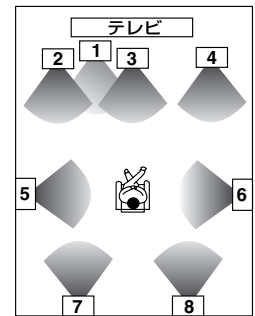
スピーカーを接続する

スピーカーの配置については「ホームシアターとは」（☞17ページ）および「サラウンドバックスピーカーの配置について」をご覧ください。
本機にはインピーダンスが4Ω～16Ωのスピーカーを接続してください。インピーダンスが4Ω以上6Ω未満のスピーカーを接続するときは、34ページで「スピーカーインピーダンス」を4Ωに設定してください。

サラウンドバックスピーカーの配置について

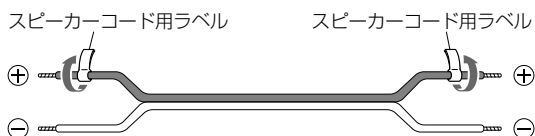
サラウンドバックスピーカーは、Dolby Digital EX、THX Surround EX、DTS-ES Matrix、DTS-ES Discreteで楽しむときに必要です。
左右サラウンドバックスピーカーは、視聴者と各スピーカーの角度が約30°になるように、視聴者の後部に配置します。（THX社推奨）

設置例1は、ダイポール型スピーカーを設置した場合です。ダイポール型スピーカーとは、前と後ろなど、二つの方向に同じ音を出す、双指向性スピーカーのことです。
ダイポール型スピーカーでは位相*を合わせるため、多くはスピーカーに矢印表示が書いてあります。サラウンドスピーカーは矢印（↑）がテレビへ向かうように配置し、サラウンドバックスピーカーは、お互いの矢印（→）が向き合うように配置してください。

*位相：正弦波の1周期（0～360度）における波形の位置を示す言葉。各スピーカー間の距離や取り付け角度、＋、－の配線間違いなどで位相が合っていないと、音像や音場が不明瞭になったり、聞きづらさがあったりします。

設置例1

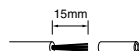
設置例2

1 サブウーファー
2 左フロントスピーカー
3 センタースピーカー
4 右フロントスピーカー
5 左サラウンドスピーカー
6 右サラウンドスピーカー
7 左サラウンドバックスピーカー
8 右サラウンドバックスピーカー

スピーカーコード用ラベルの使いかた

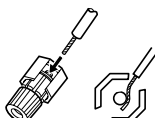
本機はスピーカー端子の⊕側に色をつけて識別しやすくしています。付属のスピーカーコード用ラベルをお持ちのスピーカーコード両端のプラス⊕に貼ると識別が簡単になります。スピーカー端子は以下のように色分けしています。

左フロント	：白 左フロントスピーカーのコード両端（⊕側）に白いラベルを貼る
右フロント	：赤 右フロントスピーカーのコード両端（⊕側）に赤いラベルを貼る
センター	：緑 センタースピーカーのコード両端（⊕側）に緑のラベルを貼る
左サラウンド	：青 左サラウンドスピーカーのコード両端（⊕側）に青いラベルを貼る
右サラウンド	：灰 右サラウンドスピーカーのコード両端（⊕側）に灰色のラベルを貼る
左サラウンドバック	：茶 左サラウンドバックスピーカーのコード両端（⊕側）に茶色のラベルを貼る
右サラウンドバック	：ベージュ 右サラウンドバックスピーカーのコード両端（⊕側）にベージュのラベルを貼る

スピーカーコードの接続

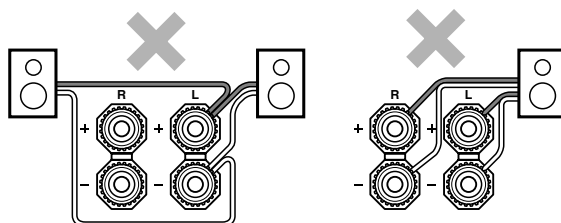
本機のスピーカー端子のプラス⊕とスピーカーのプラス⊕端子にラベルを貼った側のスピーカーコードを接続します。本機のスピーカー端子のマイナス⊖とスピーカーのマイナス⊖端子とをラベルの貼っていない側のスピーカーコードで接続します。

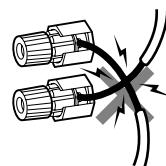
①スピーカーコードの被覆を15mmカットする

② しん線の先端をしっかりとよじる

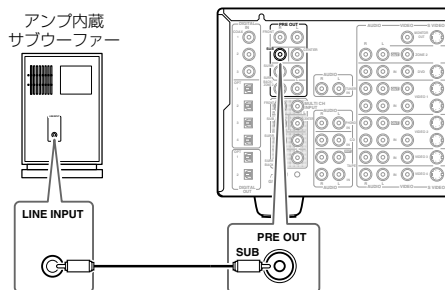
③ねじをゆるめる

④しん線を差し込む

⑤ねじを締め付ける

ご注意

- プラス⊕とマイナス⊕を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続すると音声が不自然になりますのでご注意ください。
- スピーカー端子に複数のスピーカーコードは接続しないでください。故障の原因になります。
- 1台のスピーカーだけを使用する場合やモノラル音声を再生する場合、1台のスピーカーを左右スピーカー端子に並列接続しないでください。

危険

回路の故障を防ぐため、スピーカーコードのしん線のプラスとマイナスを絶対に接触させないでください。

サブウーファーを接続する

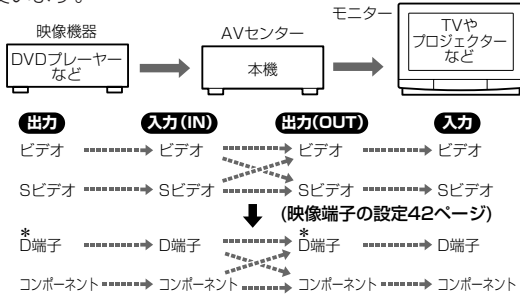
パワーアンプ内蔵のサブウーファーをPRE OUT SUB端子に接続します。

!ヒント

再生される低音の質や量は、置き場所や部屋の形状、視聴位置によって変わります。一般的に部屋の隅、または1/3の場所に置いたときに良い結果が得られますが、色々な場所に置いて質の良い低音が入った音楽を再生し、もっともしっかりした低音が再生できる場所に設置してください。

テレビやプロジェクターなどのモニターを接続する

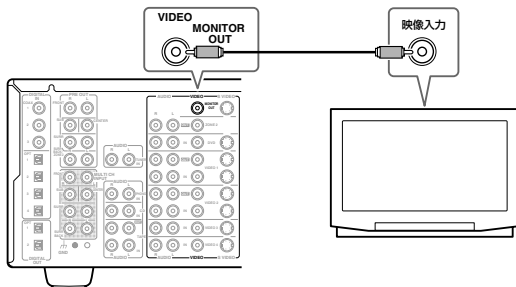
映像や操作内容をテレビなどのモニターに映すための接続です。

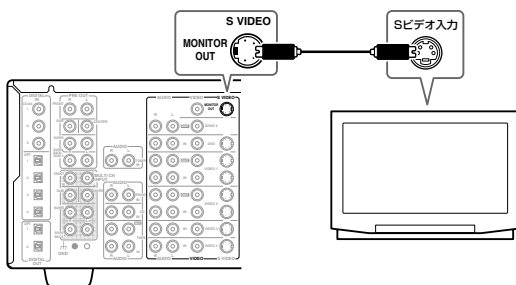
映像接続のしくみ

本機にはビデオ、Sビデオ、D端子、コンポーネントの4種類の映像入出力端子があります。接続する機器に合わせて使います。

- ビデオ端子またはSビデオ端子を使って接続するときは、映像端子の設定（☞42ページ）をすると、モニターと本機をビデオまたはSビデオ接続しなくてもD端子やコンポーネント接続から映像を出力することができます。

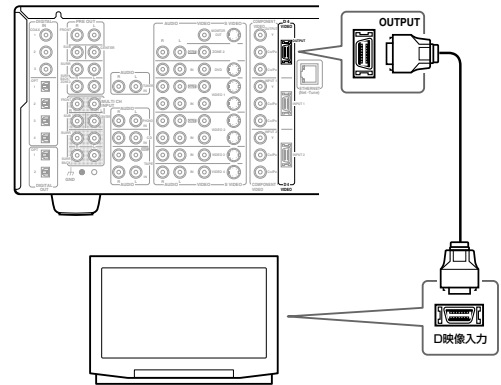
＊ 映像機器の映像出力からモニターの映像入力までD端子接続している場合のみ、アスペクト比などの制御信号を送れます。

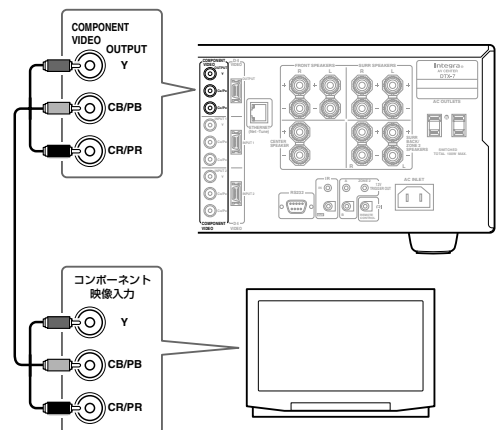
■ビデオ（コンポジット）入力端子と本機を接続する

ビデオコードでモニターの映像入力端子と本機のVIDEO MONITOR OUT端子を接続します。

■Sビデオ入力端子がある場合

SビデオコードでモニターのSビデオ入力端子と本機のS VIDEO MONITOR OUT端子を接続します。

D端子を使って映像機器を接続するときは、モニターと本機もD端子またはコンポーネント接続をする必要があります。コンポーネント端子を使って映像機器を接続するときは、モニターと本機もコンポーネントまたはD端子接続をする必要があります。

■D入力端子がある場合

D端子用接続コードでモニターのD映像入力端子と本機のD4 VIDEO OUTPUT端子を接続します。

■コンポーネント入力端子がある場合

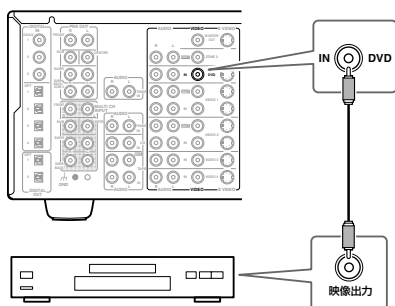
コンポーネントビデオコードでモニターのコンポーネント映像入力端子と本機のCOMPONENT VIDEO OUTPUT端子を接続します。

映像機器を接続する　映像機器はそれぞれ「映像の接続」と「音声の接続」が必要です。

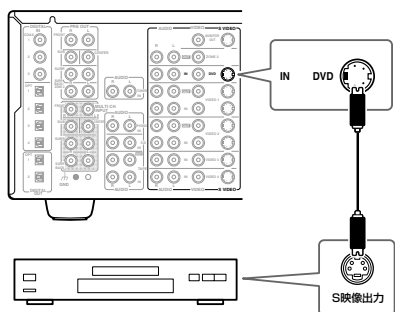
DVDプレーヤーの接続

映像の接続

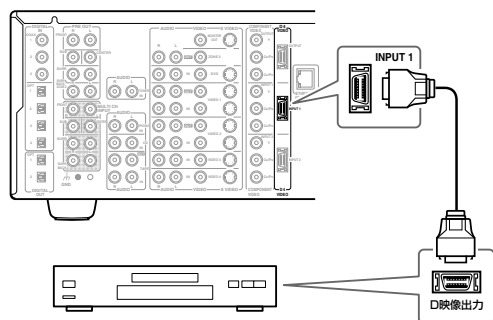
以下のいずれかの接続をします。

■ビデオ(コンポジット)出力端子を接続する場合

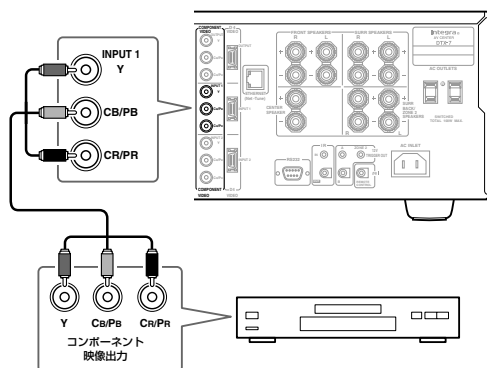
ビデオコードでDVDプレーヤーの映像出力端子と本機のVIDEO DVD IN端子を接続します。

■Sビデオ出力端子がある場合

SビデオコードでDVDプレーヤーのS映像出力端子と本機のS VIDEO DVD IN端子を接続します。ビデオ（コンポジット）接続より、良い画質が得られます。

■D映像出力端子がある場合

D端子用接続コードでDVDプレーヤーのD映像出力端子と本機のD4 VIDEO INPUT 1端子を接続します。Sビデオ接続より、良い画質を得られます。

- モニターと本機もD端子またはコンポーネント接続をする必要があります。

■コンポーネント映像出力端子がある場合

コンポーネントビデオコードでDVDプレーヤーのコンポーネント映像出力端子と本機のCOMPONENT VIDEO INPUT1または2端子を接続します。Sビデオ接続より、良い画質を得られます。

- モニターと本機もコンポーネントまたはD端子接続をする必要があります。

ご注意

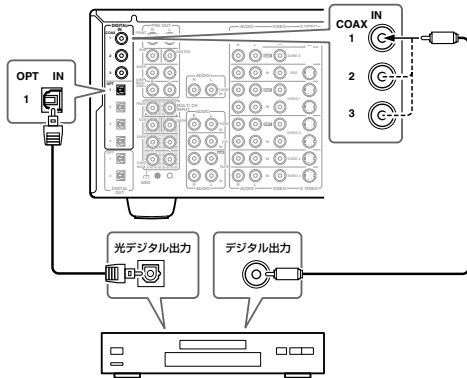
DVDの映像入力は、「D4 VIDEO INPUT 1」に設定されています。D4 VIDEO INPUT 2端子やCOMPONENT端子に接続した場合は、「映像端子の設定」を変更する必要があります。(☞42ページ)

音声の接続

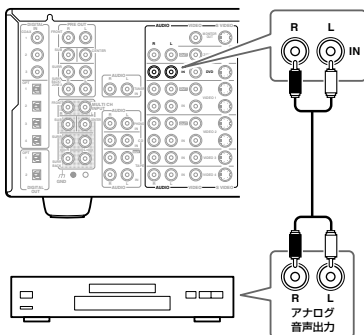
■デジタル接続

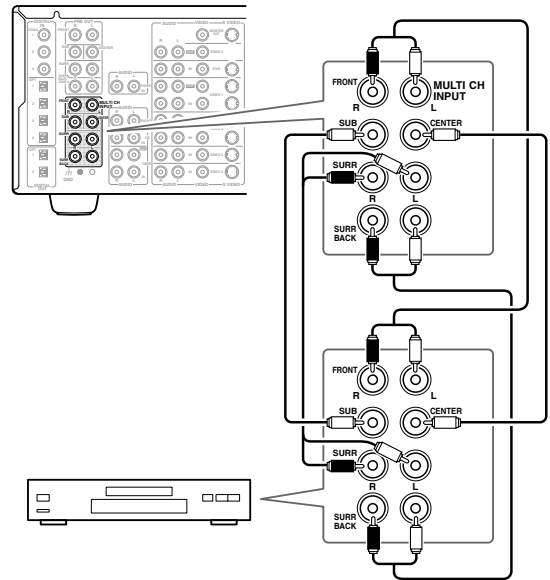
本機でドルビーデジタルなどのデジタル音声をお楽しみいただけます。以下のいずれかの接続をします。

- OPTICALタイプの音声出力端子がある場合、光デジタルケーブルでDVDプレーヤーの光デジタル出力端子と本機のDIGITAL IN（OPT 1）端子を接続します。
- COAXIALタイプの音声出力端子がある場合、同軸デジタルケーブルでDVDプレーヤーのデジタル出力端子と本機のDIGITAL IN（COAX 1〜3）端子のいずれかを接続します。

ご注意

DVDのデジタル入力は「OPT 1」に設定されています。
OPT1端子以外に接続した場合は、「デジタル入力端子の設定」を変更する必要があります。（☞40ページ）

■アナログ接続

DVDの音声をアナログ録音する場合やオンキヨー製品で本機とRI連動させる場合の接続です。
オーディオ用ピンコードでDVDプレーヤーの音声出力端子と本機のDVD AUDIO IN端子を接続します。

■マルチチャンネル(5.1chまたは7.1ch)出力端子がある場合

DVDオーディオなどのマルチチャンネル音声に対応している機器の場合、DVDオーディオなどの再生がお楽しみいただけます。
マルチチャンネル接続コードまたは、オーディオ用ピンコード3〜4本を使ってDVDプレーヤーのマルチチャンネル出力端子と本機のMULTI CH INPUT FRONT L/R、SUB、CENTER、SURR L/R、SURR BACK L/R端子を接続します。

ビデオデッキの接続

■VHSビデオまたはS-VHSビデオの場合

映像の接続

ビデオの映像を本機を通してお楽しみいただけます。

Sビデオ端子またはビデオ（コンポジット）端子を接続する

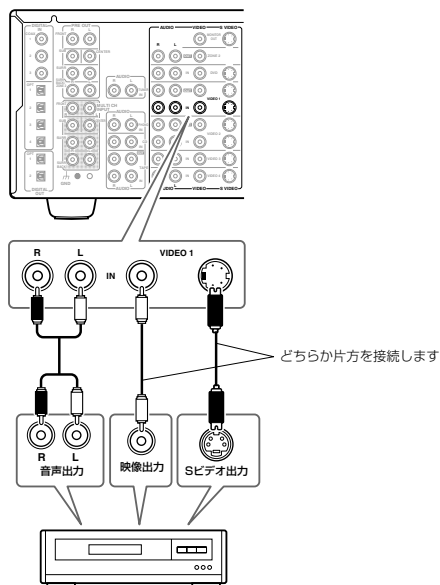
SビデオコードでビデオデッキのSビデオ出力端子と本機のS VIDEO VIDEO 1 IN端子を接続します。コンポジット接続より、良い画質が得られます。

ビデオ（コンポジット）接続の場合は、ビデオコードでビデオデッキの映像出力端子と本機のVIDEO VIDEO 1 IN端子を接続します。

音声の接続

本機でビデオデッキの音声をお楽しみいただけます。

アナログ接続

オーディオ用ピンコードでビデオデッキの音声出力端子と本機のAUDIO VIDEO 1 IN L/R端子を接続します。

■ D-VHSビデオ（デジタル機能のあるビデオデッキ）の場合

映像の接続

ビデオの映像を本機を通してお楽しみいただけます。

D映像端子またはコンポーネント端子を接続する

D端子接続の場合は、D端子用接続コードでビデオデッキのD映像出力端子と本機のD4 VIDEO INPUT 2端子を接続します。S映像接続より、良い画質が得られます。

- モニターと本機もD端子またはコンポーネント接続をする必要があります。

コンポーネント接続の場合は、コンポーネントビデオコードで、ビデオデッキのコンポーネント映像出力端子と本機のCOMPONENT VIDEO INPUT 1端子を接続します。S映像接続より、良い画質が得られます。

- モニターと本機もコンポーネントまたはD端子接続をする必要があります。

ご注意

VIDEO 1の映像入力は、「COMPONENT VIDEO INPUT 1」に設定されています。COMPONENT VIDEO INPUT 2端子やD4端子に接続した場合は、「映像端子の設定」を変更する必要があります。（☞42ページ）

音声の接続

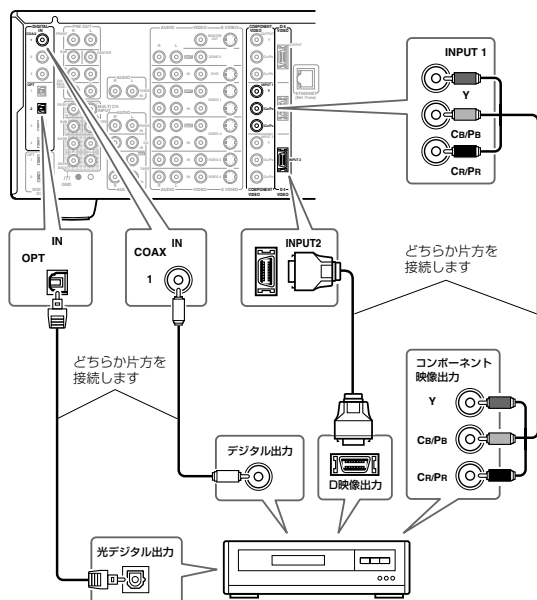
本機でデジタル音声をお楽しみいただけます。

デジタル接続（D-VHSビデオ）

OPTICALタイプの音声出力端子がある場合は、ビデオデッキのデジタル出力端子と本機のDIGITAL IN（OPT）端子を接続します。

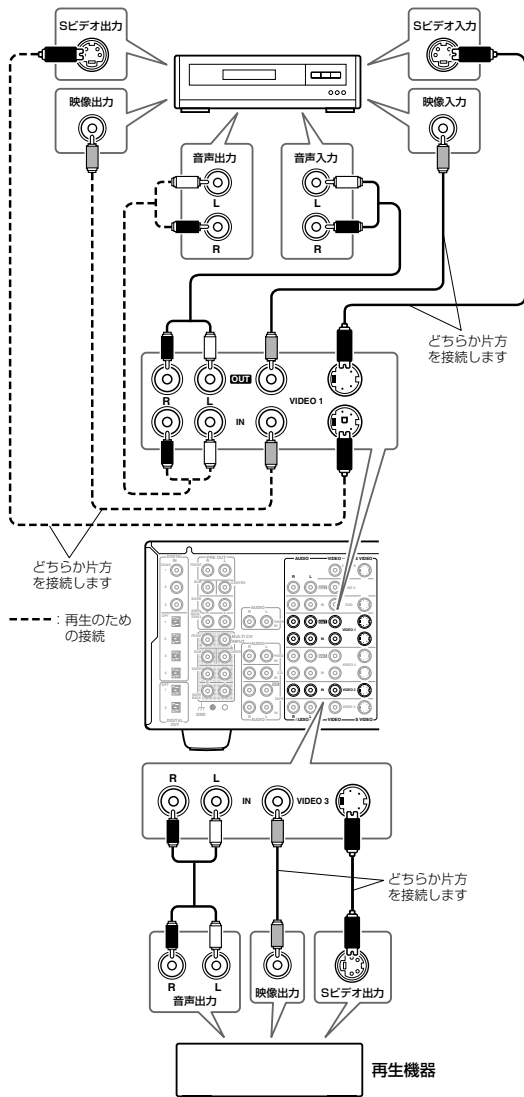
COAXIALタイプの音声出力端子がある場合、ビデオデッキのデジタル出力端子と本機のDIGITAL IN（COAX 1）端子を接続します。

ご注意

デジタル入力は「COAX 1」に設定されています。COAX 1端子以外に接続した場合は、「デジタル入力端子の設定」を変更する必要があります。（☞40ページ）

■本機を通して録画するには

本機のS VIDEO VIDEO 1 OUT端子とビデオデッキのS映像入力端子、または本機のVIDEO VIDEO 1 OUT端子とビデオデッキの映像入力端子を接続します。
オーディオ用ピンコードで本機のAUDIO VIDEO 1 OUT L/R端子とビデオデッキの音声入力端子を接続します。
テレビなどの再生機器の音声出力端子と本機の音声入力端子を接続します。

ご注意

- ビデオ端子に入力される信号は、ビデオ端子でしか録画できません。テレビなどの再生機器をビデオ端子接続した場合は、ビデオデッキなどの録画機器もビデオ端子接続をしてください。また、S端子に入力される信号はS端子でしか録画できません。テレビなどの再生機器をS端子接続した場合は、ビデオデッキなどの録画機器もS端子接続をしてください。
- 録画をするときは本機の電源を入れる必要があります。本機がスタンバイ状態のままでは録画できません。

■本機を通さずに録画するには

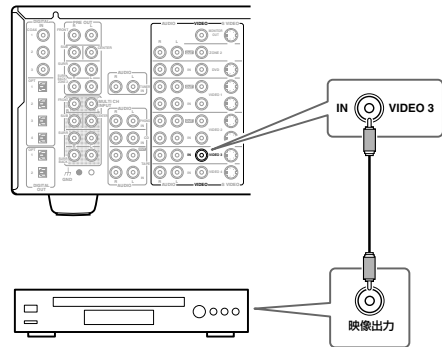
テレビなどの再生機器の映像出力端子を直接ビデオデッキの映像入力端子に接続します。
再生機器の音声出力端子も直接ビデオデッキの音声入力端子に接続します。
詳細はお手持ちのビデオデッキや再生機器の取扱説明書をご覧ください。

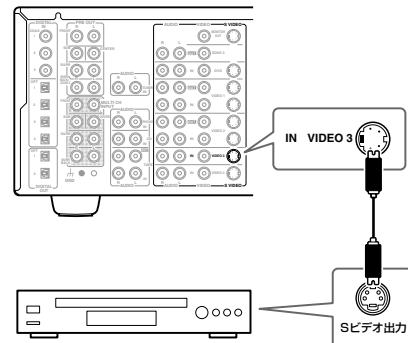
テレビ、BSチューナー、LDプレーヤーなどの接続

映像の接続

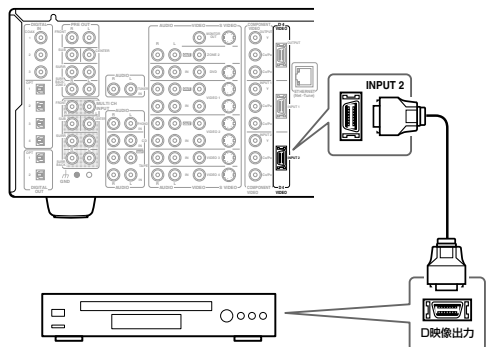
以下のいずれかの接続をします。
コンポーネント端子やD端子を使って接続するときは、モニターと本機もD端子またはコンポーネント接続をする必要があります。
テレビを接続する場合は、以下の映像の接続をする必要はありません。音声の接続のみをします。

■ビデオ(コンポジット)出力端子がある場合

ビデオコードで接続する機器の映像出力端子と本機のVIDEO VIDEO 3（または4）IN端子を接続します。

■Sビデオ出力端子がある場合

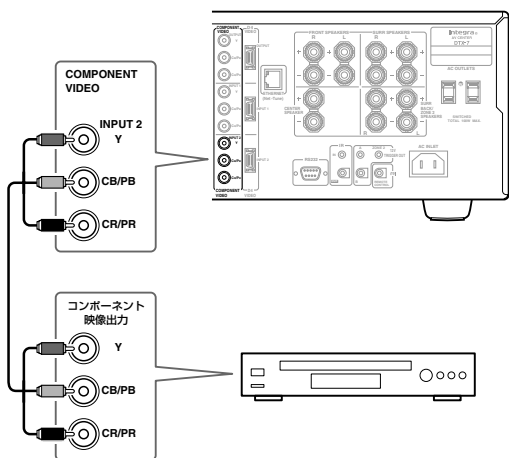
Sビデオコードで接続する機器のSビデオ出力端子と本機のS VIDEO VIDEO 3（または4）IN端子を接続します。ビデオ接続より、良い画質が得られます。

■D映像出力端子がある場合

D端子用接続コードで接続する機器のD映像出力端子と本機のD4 VIDEO INPUT 2端子を接続します。Sビデオ接続より、良い画質を得られます。

- モニターと本機もD端子またはコンポーネント接続をする必要があります。

■コンポーネント映像出力端子がある場合

コンポーネントビデオコードで接続する機器のコンポーネント映像出力端子と本機のCOMPONENT VIDEO INPUT 1または2端子を接続します。Sビデオ接続より、良い画質を得られます。

- モニターと本機もコンポーネントまたはD端子接続をする必要があります。

ご注意

映像入力はあらかじめ設定されています。COMPONENT VIDEO INPUT端子やD4 VIDEO INPUT端子に接続した場合は、「映像端子の設定」を変更する必要があります。（☞42ページ）

音声の接続

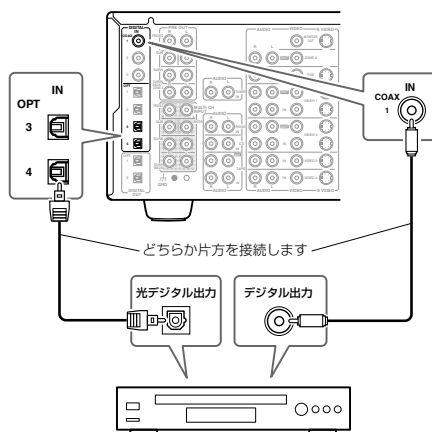
■デジタル接続

本機でデジタル音声をお楽しみいただけます。

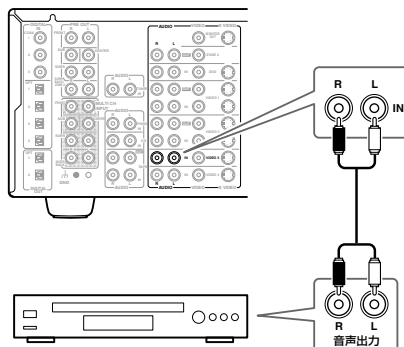
- OPTICALタイプの音声出力端子がある場合、光デジタルケーブルで接続する機器の光デジタル出力端子と本機のDIGITAL IN OPT 3（または4）端子を接続します。
- COAXIALタイプの音声出力端子がある場合、同軸デジタルケーブルで接続する機器のデジタル出力端子と本機のDIGITAL IN（COAX）端子を接続します。

ご注意

デジタル入力はあらかじめ設定されています。デジタル接続する場合は、「デジタル入力端子の設定」を変更する必要があります。（☞40ページ）

ご注意

LDプレーヤーのAC-3RF出力端子は本機に直接接続できません。LDプレーヤーでドルビーデジタル5.1chソフトをお楽しみいただくには、市販のデモジュレーターが必要です。

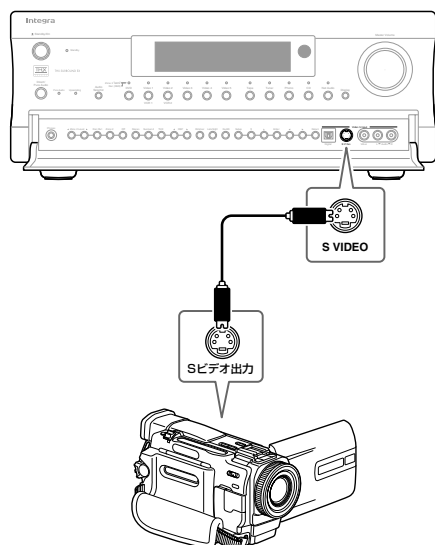
■アナログ接続

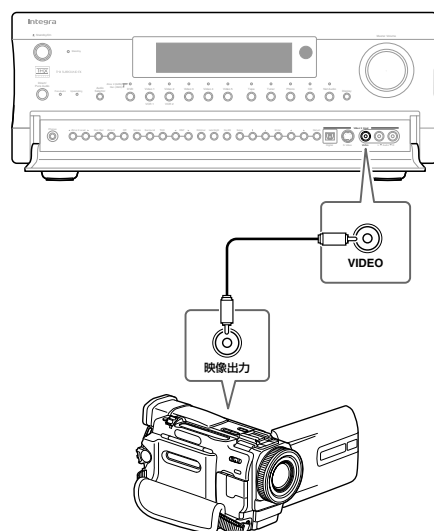
デジタル音声出力端子がない場合や接続する機器の音声をアナログ録音する場合は、オーディオ用ピンコードで接続する機器の音声出力端子と本機のAUDIO VIDEO 3（または4）IN L/R端子を接続します。

ビデオカメラやテレビゲームの接続

ビデオカメラやテレビゲームを前面パネルの端子に接続できます。

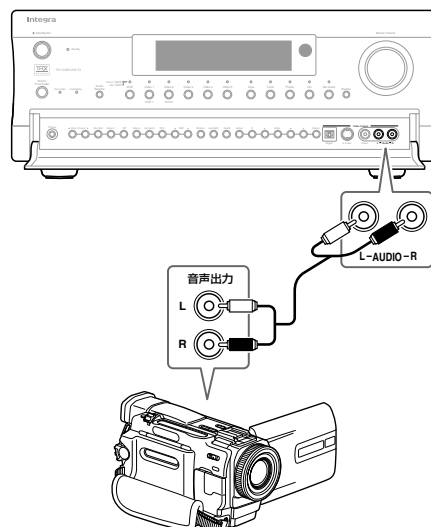
映像の接続

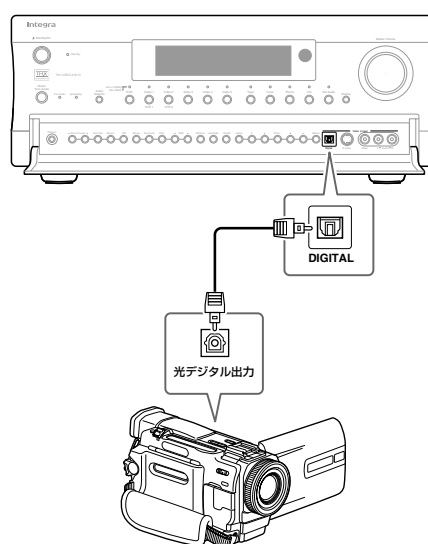
■Sビデオ出力端子がある場合

Sビデオコードで接続する機器のS映像出力端子と本機前面の VIDEO 5 INPUT S VIDEO端子を接続します。

■Sビデオ出力端子がない場合

ビデオコードで接続する機器のビデオ（コンポジット）出力端子と本機前面のVIDEO 5 INPUT VIDEO端子を接続します。

音声の接続

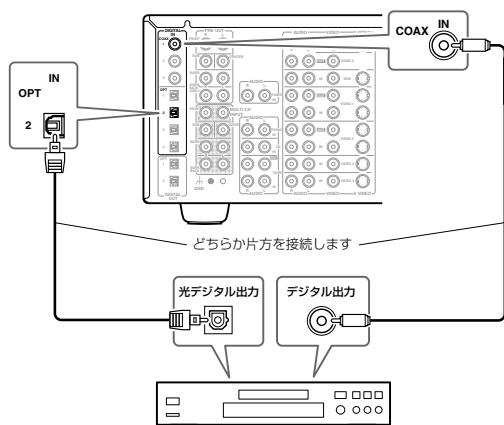
■アナログ接続

オーディオ用ピンコードで接続する機器の音声出力端子と本機前面のAUDIO INPUT端子を接続します。

■デジタル出力端子がある場合

本機でデジタル音声をお楽しみいただけます。
光デジタルケーブルで接続する機器の光デジタル出力端子と、本機前面のVIDEO 5 INPUT DIGITAL端子を接続します。

オーディオ機器を接続する

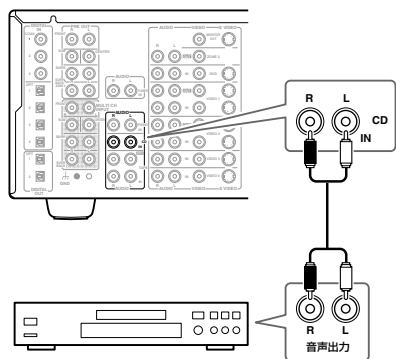
CDプレーヤーを接続する

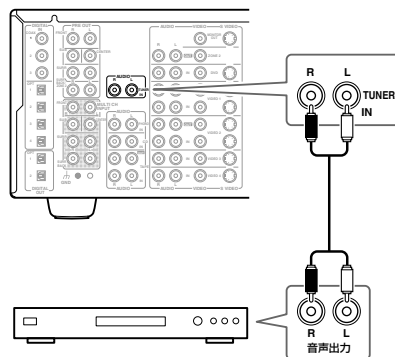
■デジタル接続

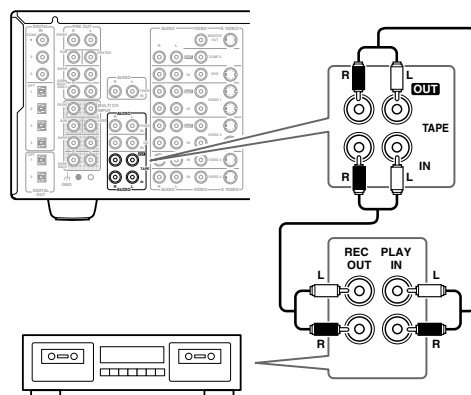
CDは左右フロント2チャンネルで記録されているため、デジタル接続をしてもドルビーデジタルなどの音声はお楽しみいただけません。また、アナログ接続のみでもドルビープロロジックIIなどのサラウンド効果がお楽しみいただけます。
OPTICALタイプの音声出力端子がある場合は、光デジタルケーブルでCDプレーヤーの光デジタル出力端子と本機のDIGITAL IN（OPT 2）端子を接続します。
COAXIALタイプの音声出力端子がある場合は、同軸デジタルケーブルでCDプレーヤーのデジタル出力端子と本機のDIGITAL IN（COAX）端子を接続します。

ご注意

CDのデジタル入力は「OPT 2」に設定されています。OPT 2端子以外に接続した場合は「デジタル入力端子の設定」を変更する必要があります。(☞40ページ)

■アナログ接続

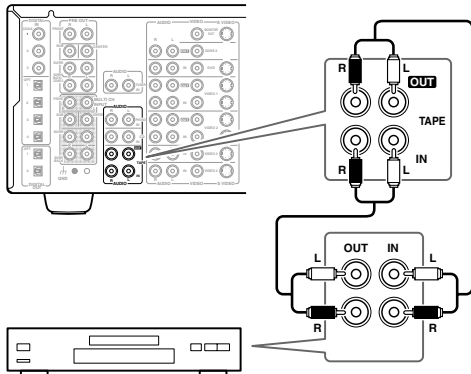
アナログ録音をする場合やオンキヨー製CDプレーヤーで本機とRI連動をさせる場合の接続です。
オーディオ用ピンコードで、CDプレーヤーの音声出力端子と本機のAUDIO CD IN L/R端子を接続します。

チューナーを接続する

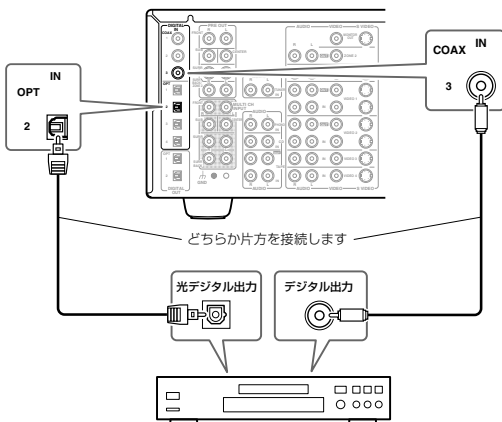
オーディオ用ピンコードで、チューナーの音声出力端子と本機のAUDIO TUNER IN L/R端子を接続します。

カセットデッキを接続する

オーディオ用ピンコードでカセットデッキの音声出力端子（PLAY）と本機のAUDIO TAPE IN L/R端子を接続します。また、音声入力端子（REC）と本機のAUDIO TAPE OUT L/R端子を接続します。

MDレコーダー、DAT、CDレコーダーを接続する

カセットデッキの代わりにMDレコーダー、DAT、CDレコーダーなどの録音機器を接続することができます。

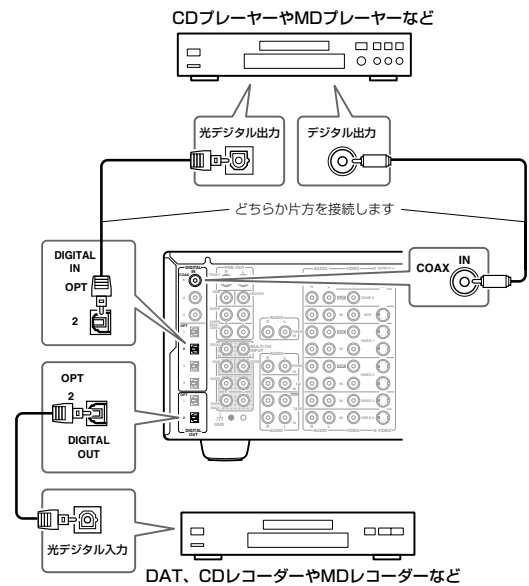
■ アナログ接続

オーディオ用ピンコードで接続する機器の音声出力端子（PLAY）と本機のAUDIO TAPE IN L/R端子を接続します。また、音声入力端子（REC）と本機のAUDIO TAPE OUT L/R端子を接続します。

■ デジタル接続（入力端子の接続）

接続する機器にOPTICALタイプの音声出力端子がある場合は、光デジタルケーブルで本機のDIGITAL IN（OPT）端子と接続します。
COAXIALタイプの音声出力端子がある場合は、同軸デジタルケーブルで本機のDIGITAL IN（COAX）端子と接続します。

ご注意

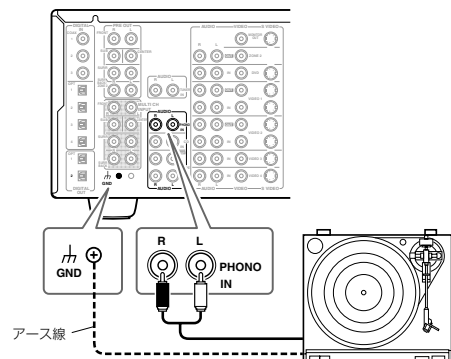
デジタル入力は「COAX 3」に設定されています。COAX 3端子以外に接続した場合は、「デジタル入力端子の設定」を変更する必要があります。（☞40ページ）

■ デジタル録音をするには

接続する機器にデジタル入力端子がある場合は本機のDIGITAL OUT端子に接続するとデジタル録音ができます。デジタル録音ができる音声信号はDIGITAL IN端子に入力された信号のみです。

ご注意

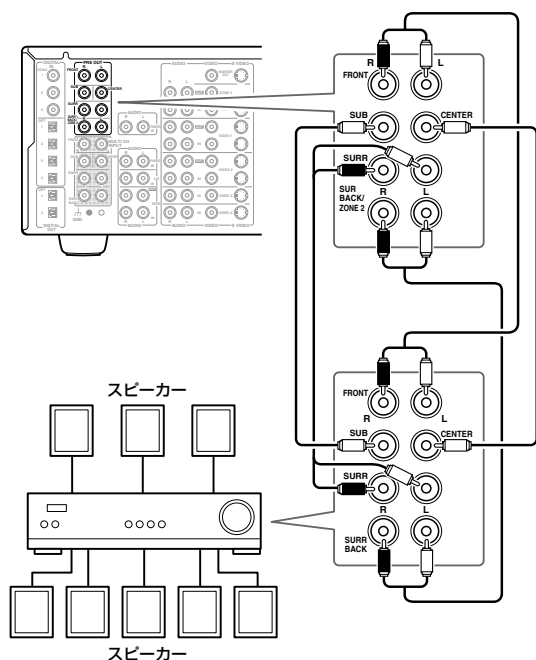
同じ機器のデジタル出力端子とデジタル入力端子を両方本機に接続しないでください。故障の原因となります。

レコードプレーヤーを接続する

本機は、ムービーングマグネット（MM）カートリッジを使用するレコードプレーヤー用に設計されています。レコードプレーヤーの接続コードを本機のAUDIO PHONO IN L/R端子に接続します。

ご注意

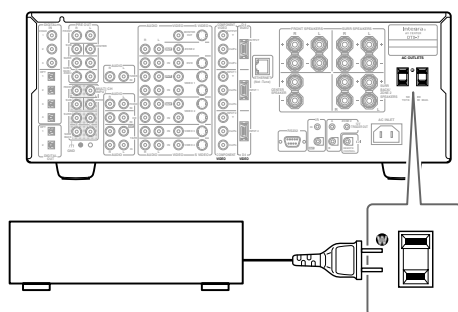
- アース（接地）線のあるレコードプレーヤーは、アース線を本機のGND端子に接続してください。ただし、レコードプレーヤーによっては、アース線を接続すると逆にノイズが大きくなることがあります。その場合は、アース線を接続する必要はありません。
- MCカートリッジタイプのレコードプレーヤーをご使用になる場合は、レコードプレーヤーに昇圧トランスまたはヘッドアンプを接続します。次に、昇圧トランスやヘッドアンプの音声出力端子と本機のAUDIO PHONO IN L/R端子を接続します。

パワーアンプを接続する

パワーアンプを本機に接続し、本機をプリアンプとして使用することができます。本機だけでは出力できない大音量で再生できるようになります。
パワーアンプを使用する場合、各スピーカーやサブウーファーはパワーアンプに接続してください。パワーアンプの音声入力端子と本機のPRE OUT端子を接続します。

他機の電源プラグを本機につなぐ（AC OUTLETS）

本機は後面に電源コンセントがありますので、組み合わせて使用する製品の電源プラグを差し込むことができます。本機の電源を入れると他機の電源も連動して入ります。
RI端子付きのオンキヨー製品は、常時通電しているコンセントにつないでください。

ご注意

本機には2つの電源コンセントがありますが、合計で100Wを超える機器は接続しないでください。

よりよい音で聞いていただくために

本機の電源コンセントは極性の管理がされています。他機の電源コードに目印がある場合は目印線側を本機の電源コンセントのⓦ側に合わせてください。他機の電源コードに目印がない場合はどちらを接続してもかまいません。

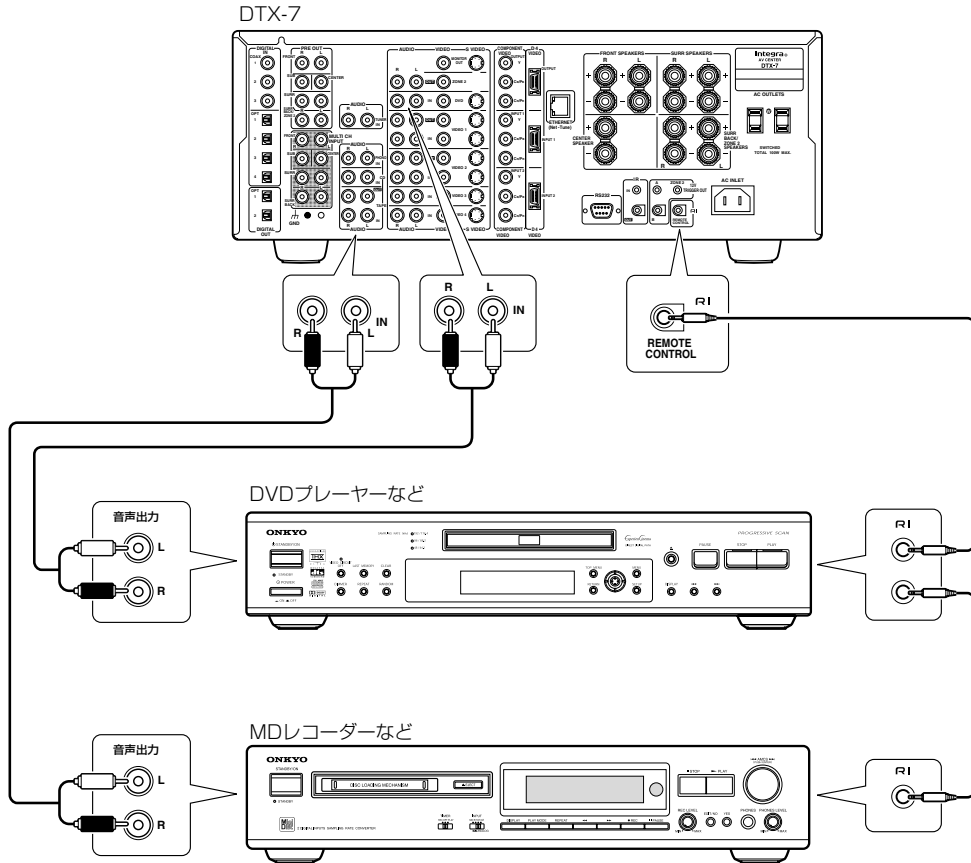
RS232コネクターについて

RS232コネクターを使って、外部のコントロール機器から本機をコントロールすることができます。

他機の12Vトリガー入力端子と接続する

この端子から12V/100mAの電圧・電流を出力します。
他機の12Vトリガー入力端子と本機の12V TRIGGER OUT AまたはB端子を接続します。（☞67ページ）

オンキヨー製品と連動させる接続

RI端子付きのオンキヨー製品にRIケーブルとオーディオ用ピンコードを接続すると、以下のような連動機能が可能です。
RIケーブルとは、オンキヨーのシステム動作用ケーブルです。（本機には付属していません）
RIケーブルの接続だけではシステムとして働きません。22～30ページを参照し、オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

オートパワーオン機能

本機がスタンバイ状態のとき、接続した機器の電源を入れたり、再生を始めると、本機の電源が自動的に入ります。また、本機の電源を切ると接続されている機器全体の電源も切れます。

ご注意

RI接続した機器の電源コードが本機の電源コンセント(AC OUTLETS)に接続されている場合はこの機能は働きません。

ダイレクトチェンジ機能

RI接続されている機器を再生すると、本機の入力が自動的に切り換わります。

リモコン操作機能

本機に付属のリモコンで各機器を操作することができます。

ご注意

- 製品によってはRI接続をしても一部の機能が働かないことがあります。
- システム機能については、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- RIケーブルの接続は順序の指定はありません。
- RI端子が2つある場合、2つの端子の働きは同じです。どちらにも接続できます。

RIオーディオコントロール端子付きテレビとの連動について

本機はRI端子を持つテレビと接続すると次の動作が可能になります。

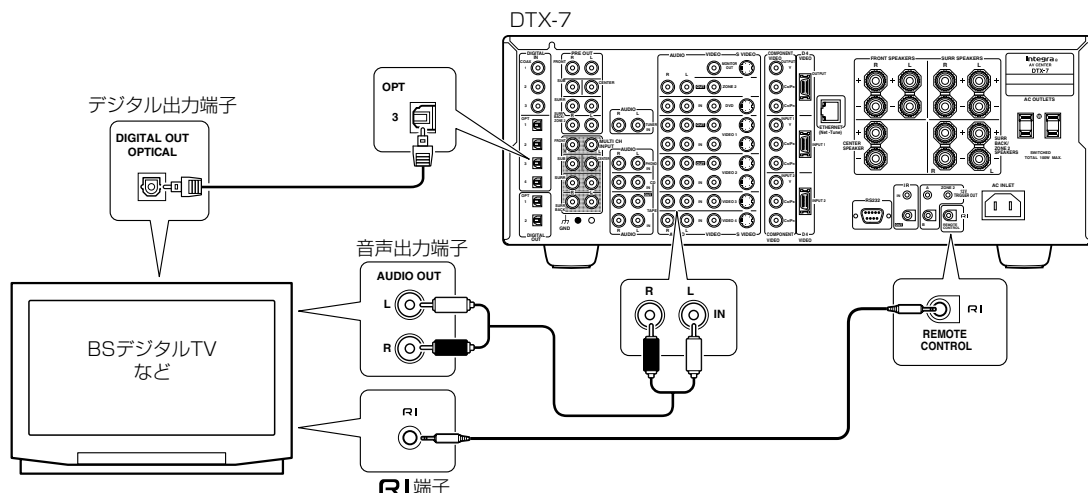
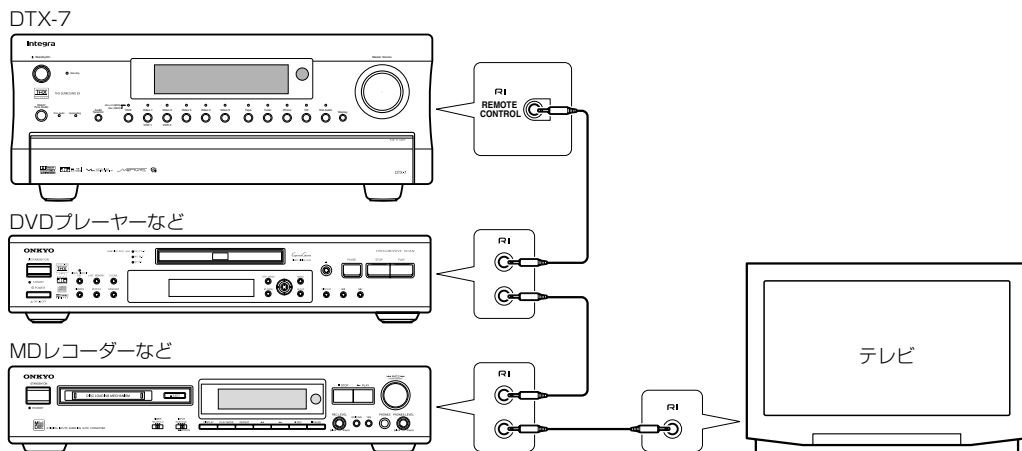
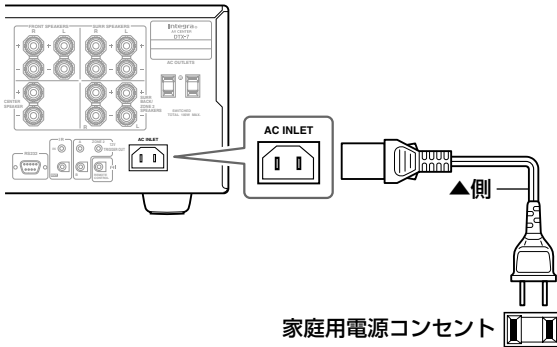
①テレビの電源を入れると本機の電源も自動的に入り、入力が切り換わります。
このときテレビの音は消え、本機に接続されたスピーカーから音が出ます。また、テレビを切る（スタンバイにする）と、本機もスタンバイ状態になります。ただし、本機で他の入力を選んでいる場合は、スタンバイ状態になりません。

②テレビに付属のリモコンで本機の音量調整、ミューティング（消音）ができます。

③本機をスタンバイ状態にするとテレビの音が復帰し、テレビに付属のリモコンでテレビ側の機能（音量、消音）をコントロールできるようになります。

> 連動動作が可能なテレビについては、テレビのカタログや取扱説明書で、RI端子が装備されているかどうかをご確認ください。
> 本機にケーブルは付属していません。モノラルミニプラグコード（抵抗なし）を別途お求めください。

接続のしかた

- 本機のVIDEO 3音声入力（AUDIO VIDEO 3 IN L/R）端子を接続する
- モノラルミニプラグコードでテレビのRIオーディオコントロール端子と本機のRI端子を接続する
- テレビの光デジタル音声出力端子と本機のDIGITAL IN（OPT 3）端子と接続する
（テレビに光デジタル音声出力端子がない場合は接続する必要はありません）

- 他のオンキヨー製品を接続する場合は、RIケーブルでRI端子どうしを接続してください。
- RI端子が2つある製品の場合、2つの働きは同じですのでどちらにでも接続できます。
- RI端子の接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

電源コードを接続する

電源コードを接続する前に

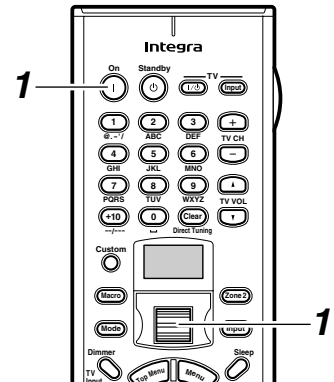
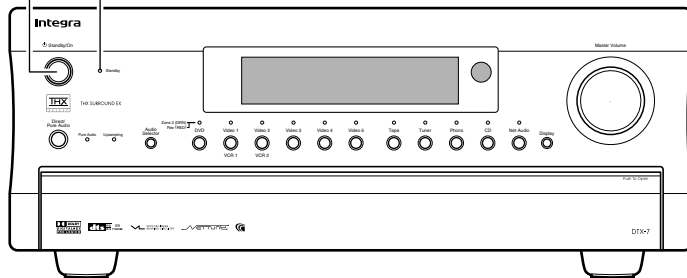
すべての接続が完了していることを確認してください。付属の電源コード以外は使用しないでください。この電源コードは本機専用です。他の機器に使用しないでください。家庭用電源コンセントに電源プラグを差し込んだ状態でAC INLETから電源コードを抜くと、感電する可能性があります。電源コードを接続するときは、最後に家庭用電源コンセントに接続し、抜くときは最初に家庭用電源コンセントから抜いてください。
本機の電源を入れると，瞬間的に大きな電流が流れてコンピューターなどの機器の動作に影響することがあります。コンピューターなど、繊細な機器とは別系統のコンセントに接続することをおすすめします。

よりよい音で聞いていただくために

本機の電源コードは極性の管理がされています。電源コードの目印線（▲）側を家庭用電源コンセントの溝の長い方に合わせて差し込んでください。家庭用電源コンセントの溝の長さが同じ場合はどちらを接続してもかまいません。

電源を入れる

1

または

本体の Standby/On ボタンを押す
または、リモコンの Scroll Wheel を押してから、On ボタンを押す

Standbyインジケーターが消え、表示部が点灯します。

スタンバイ状態に戻すには

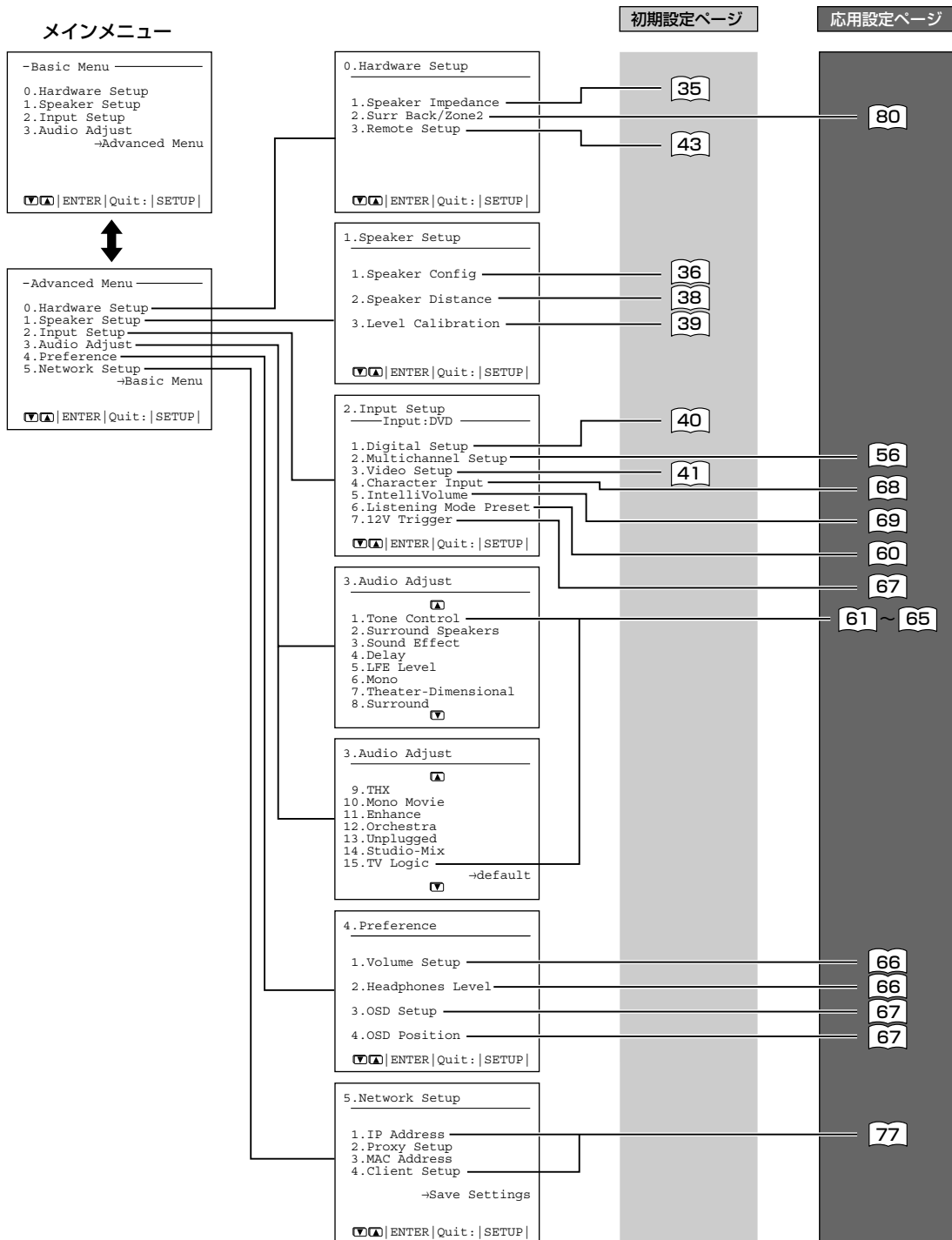
本体のStandby/OnボタンまたはリモコンのStandbyボタンを押します。

！ヒント

リモコンのOnボタンをもう一度押すと、RI接続をした機器も電源が入ります。リモコンの表示部に「AMP」と表示されるときは、リモコンが本機を操作するモードになっています。

初期設定をする

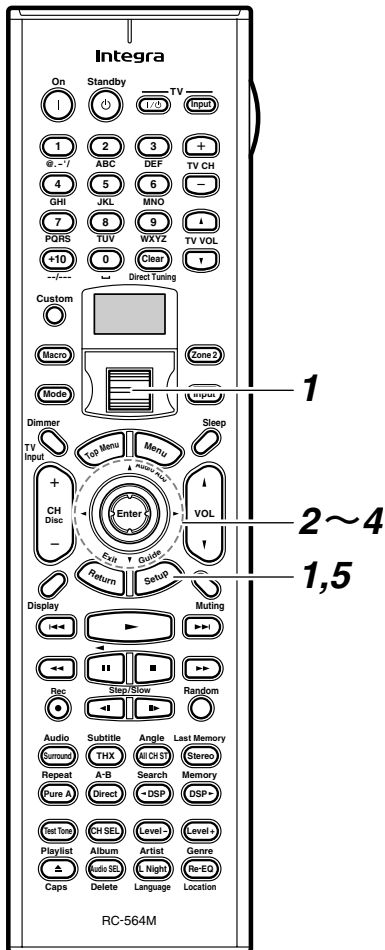
OSDマップ

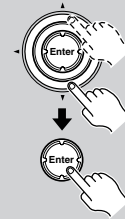
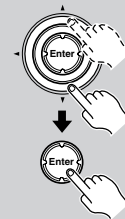
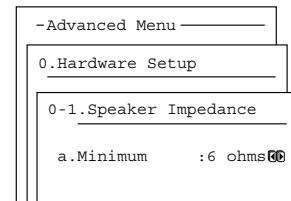
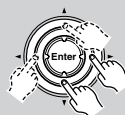
OSDとはOn Screen Display（オン スクリーン ディスプレイ）の略で、本機での設定や操作内容を接続したテレビなどのモニターに大きく表示して操作をしやすくする機能です。
本機にはBasic（ベーシック）メニューとAdvanced（アドバンスド）メニューがありますが、本書ではすべての設定項目が表示されるAdvancedメニューでの設定を説明します。Basicメニューの項目はすべてAdvancedメニューに含まれています。メインメニューでBasicメニューが表示されたときは、▼ボタンで「→Advanced Menu」を選び、Enter（エンター）ボタンを押してAdvancedメニューを表示させてください。

スピーカーの設定をする

スピーカーインピーダンスを設定する

接続したスピーカーのインピーダンス（Ω）を設定します。ご使用になるスピーカーの背面や取扱説明書でインピーダンス（Ω）をご確認ください。

ご注意

設定を変更するときは、必ず本機の音量を最小にしてください。

1 Scroll Wheelを押してからSetupボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

Basicメニューが表示されたときは、▼ボタンで「→Advanced Menu」を選び、Enterボタンを押してAdvancedメニューを表示させてください。

2 ▲/▼ボタンを押して「0. Hardware Setup」を選び、Enterボタンを押す

3 ▲ / ▼ボタンを押して「1. Speaker Impedance」を選び、Enterボタンを押す

4 ▲ / ▼ボタンを押して「a. Minimum」を選び、◀/▶ボタンを押して「4 ohms」または「6 ohms」を選ぶ

4 ohms ： 接続したスピーカーの中に１台でも4Ω以上6Ω未満のスピーカーがある場合に選択します。

6 ohms ： 接続したスピーカーがすべて6Ω以上の場合に選択します。

5 Setupボタンを押す

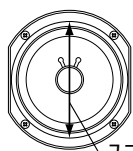
設定が終了し、メニュー画面が消えます。

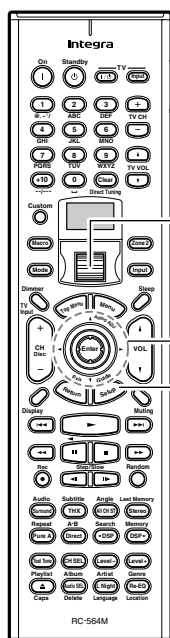
！ヒント

本体のSetupボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enterボタンでも操作することができます。

スピーカー環境を設定する

接続したスピーカーの「有/無」と「大きさ」を設定します。

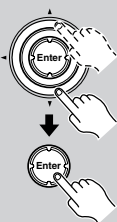
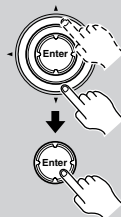
スピーカーの大きさの目安

目安としては、お手持ちのスピーカーのユニット部が直径16cm以上の場合は「Large」、それ以下の場合は「Small」を選んでください。

THXスピーカーの場合は、すべてSmallを選んでください。

1

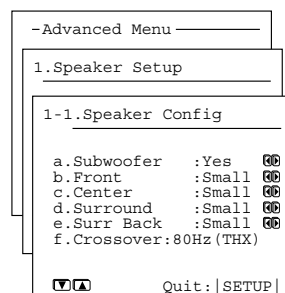
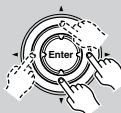
Scroll Wheelを押してからSetupボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

▲/▼ボタンを押して「1. Speaker Setup」を選び、Enterボタンを押す

3

▲/▼ボタンを押して「1. Speaker Config（スピーカー環境）」を選び、Enterボタンを押す

スピーカーコンフィグ設定画面が表示されます。

4

▲/▼ボタンを押して「a. Subwoofer」を選び、◀/▶ボタンでサブウーファーの「有/無」を選ぶ

Yes：サブウーファーを接続している場合

No：サブウーファーを接続していない場合

5

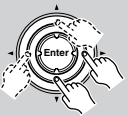
▲/▼ボタンを押して「b. Front」を選び、◀/▶ボタンでフロントスピーカーの大きさを選ぶ

Small：小型のフロントスピーカーを接続している場合

Large：大型のフロントスピーカーを接続している場合

ご注意

手順**4**で「No」を選択した場合は、「Large」に固定されます。

6

▲/▼ボタンを押して「c. Center（センター）」を選び、◀/▶ボタンでセンタースピーカーの設定をする

Small（スモール）：小型のセンタースピーカーを接続している場合
Large（ラージ）：大型のセンタースピーカーを接続している場合
None（ナン）：センタースピーカーを接続していない場合

ご注意

手順***5*** で「Small」を選択した場合は、「Large」は選択できません。

7

▲/▼ボタンを押して「d. Surround（サラウンド）」を選び、◀/▶ボタンでサラウンドスピーカーの設定をする

Small（スモール）：小型の左右サラウンドスピーカーを接続している場合
Large（ラージ）：大型の左右サラウンドスピーカーを接続している場合
None（ナン）：左右サラウンドスピーカーを接続していない場合

ご注意

手順***5*** で「Small」を選択した場合は、「Large」は選択できません。

8

▲/▼ボタンを押して「e. Surr Back（サラウンド バック）」を選び、◀/▶ボボタンでサラウンドバックスピーカーの設定をする

Small（スモール）：小型のサラウンドバックスピーカーを接続している場合
Large（ラージ）：大型のサラウンドバックスピーカーを接続している場合
None（ナン）：サラウンドバックスピーカーを接続していない場合

ご注意

- 手順***7***で「None」を選択した場合は、この項目は選択できません。
- 手順***7*** で「Small」を選択した場合は、「Large」を選択することはできません。
- 80ページ「ZONE 2にスピーカーを割り当てる」で「Zone 2」を選択した場合は、この項目は選択できません。

➪手順***9*** に続く

低音域の管理設定をする（クロスオーバー）

スピーカーシステムの低音域を設定します。

！ヒント

クロスオーバー周波数を低い値に設定したとき、その周波数以下の音域が音源に含まれない場合は、サブウーファーから出力される音も少なくなります。

9

▲/▼ボタンを押して「f. Crossover（クロスオーバー）」を選び、◀/▶ボタンで設定する

クロスオーバー設定値を環境に合った数値に設定します。

目安としてサブウーファーがある場合は、フロントスピーカーのユニット部の直径を、サブウーファーがない場合は「Small」に設定したスピーカーユニットの直径を目安にします。

- THX社認定のTHXスピーカーシステムをご使用になるときは、「80（THX）」に設定します。

ユニット部の直径	クロスオーバー設定値
30 cm 以上	40
20～30 cm	60
16～20 cm	80（THX）
13～16 cm	100
9～13 cm	120
9 cm 以下	150

10

Setup（セットアップ）ボタンを押す

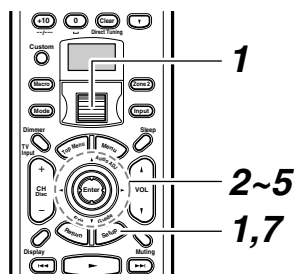
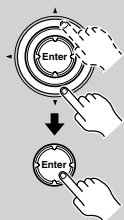
設定が終了したら、Setupボタンを押します。メニュー画面が消えます。

- メインメニュー画面に戻るにはReturn（リターン）ボタンを押してください。

！ヒント

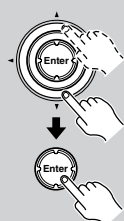
本体のSetup（セットアップ）ボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enter（エンター）ボタンでも操作することができます。

視聴位置からスピーカーまでの距離を設定する（スピーカーディスタンス）

視聴位置からスピーカーまでの距離を設定します。
距離を設定することで、それぞれのスピーカーから視聴位置までの音の届く時間を一定にし、ホームシアターをより快適にお楽しみいただけます。

1

Scroll Wheel（スクロール ホィール）を押してからSetup（セットアップ）ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

▲/▼ボタンを押して「1. Speaker Setup（スピーカー セットアップ）」を選び、Enter（エンター）ボタンを押す

3

▲/▼ボタンを押して「2. Speaker Distance（スピーカー ディスタンス）」を選び、Enterボタンを押す

スピーカーディスタンス設定画面が表示されます。

```
-Advanced Menu
1.Speaker Setup
1-2.Speaker Distance
 a.Unit          :meters
 b.Left          : 3.60m
 c.Center        : 3.60m
 d.Right         : 2.10m
 e.Surr Right    : 2.10m
 f.Surr Back R   : 2.10m
 g.Surr Back L   : 2.10m
 h.Surr Left     : 2.10m
 i.Subwoofer     : 3.60m
              Quit:|SETUP|
```

ご注意

「1－1. Speaker（スピーカー） Config（コンフィグ）（スピーカー環境）」の設定で、「No（ノー）」または「None（ナン）」を選択したスピーカーは、選択できません。

4

▲/▼ボタンを押して「a. Unit（ユニット）（単位）」を選び、◀/▶ボタンで設定する単位を選ぶ

meters（メートル）：距離をメートルで設定する。0.15m単位で0.3mから9mの範囲で設定できます。

feet（フィート）：距離をフィートで設定する。0.5ft単位で1ftから30ftの範囲で設定できます。

5

▲/▼ボタンを押して「b. Left（レフト）」を選び、◀/▶ボタンで距離を設定する

左フロントスピーカーから視聴位置までの実際に近い数値に設定します。

6

手順*5*をくり返し、接続したすべてのスピーカーの距離を設定する

b. Left（レフト）→c. Center（センター）→d. Right（ライト）→e. Surr（サラウンド） Right（ライト）→f. Surr Back R（サラウンド バック）→g. Surr Back L（サラウンド バック）→h. Surr Left（サラウンド レフト）→i. Subwoofer（サブウーファー）

の順に設定します。

!ヒント

最も遠くに設定されたスピーカーと最も近くに設定されたスピーカーの差が6m（20ft）以上の場合、ホームシアターに適した数値に矯正されます。

7

Setupボタンを押す

すべてのスピーカーの設定が終わったらSetupボタンを押します。メニュー画面が消えます。

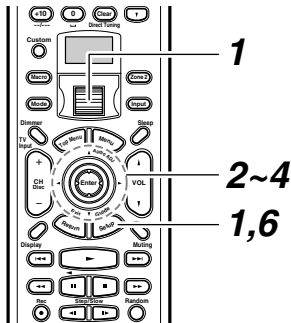
- メインメニュー画面に戻るにはReturn（リターン）ボタンを押してください。

！ヒント

本体のSetup（セットアップ）ボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enter（エンター）ボタンでも操作することができます。

スピーカーの音量レベルを調整する（レベルキャリブレーション）

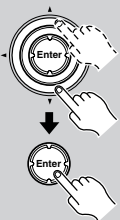
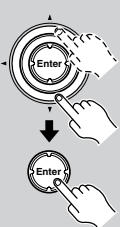
各スピーカーからのテスト音の音量が同じに聞こえるように、それぞれのスピーカーの音量レベルを設定します。スタンバイ状態にしても記憶しています。

- ミューティング中やヘッドホンを接続しているとき、マルチチャンネルを使用しているときは、設定できません。
- **本機はTHX対応機種ですので、テスト音は標準レベルの0dB（Absolute Volume値の場合は82）で出力されます。通常お聞きになっている音量がこれよりも小さい場合は、突然大きな音になりますので、ご注意ください。**

1

Scroll Wheelを押してからSetupボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

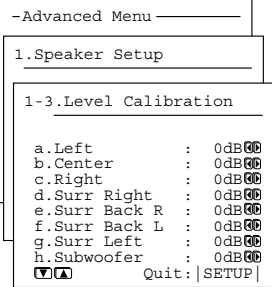
2

▲/▼ボタンを押して「1. Speaker Setup」を選び、Enterボタンを押す

3

▲/▼ボタンを押して「3. Level Calibration」を選び、Enterボタンを押す

レベルキャリブレーション設定画面が表示され、「ザー」というテスト音が左フロントスピーカーより出力されます。

```
-Advanced Menu
1.Speaker Setup
1-3.Level Calibration

 a.Left          :   0dB
 b.Center        :   0dB
 c.Right         :   0dB
 d.Surr Right    :   0dB
 e.Surr Back R   :   0dB
 f.Surr Back L   :   0dB
 g.Surr Left     :   0dB
 h.Subwoofer     :   0dB
 ▼▲          Quit:|SETUP|
```

ご注意

「1－1. Speaker Config（スピーカー環境）」の設定で、「No」または「None」を選択したスピーカーは、設定できません。

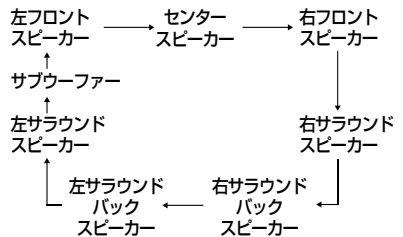
4

◀/▶ボタンを押してテスト音を調整し、▲/▼ボタンでスピーカーを切り換える

すべてのスピーカーのテスト音が同じ音量に聞こえるように調整します。

- －12dB～+12ｄBの範囲内を1dBごとに調整できます。
- サブウーファーは－15dB～+12ｄBの範囲内で調整できます。

5

手順*4*をくり返し、接続したすべてのスピーカーのテスト音を調整する

6

Setupボタンを押す

レベルキャリブレーションの設定が終わり、メニュー画面が消えます。

!ヒント

Test Toneボタンでテスト音を出して設定することもできます。この場合、Level－/＋ボタンでテスト音を調整し、CH SELボタンでスピーカーを切り換えます。

入力の設定をする

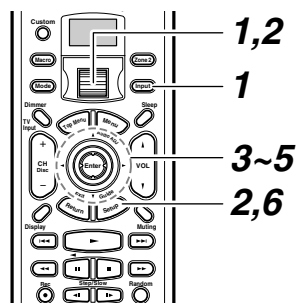
デジタル入力端子（Digital Input）の設定

本機後面のデジタル入力端子には、それぞれのデジタル再生機器が割り当てられています。接続した機器がデジタル入力端子の初期設定と異なる場合は、設定を変更する必要があります。

入力ソース	デジタル入力端子の初期設定
DVD	OPT1（オプティカル1）
Video 1	COAX 1（コアキシャル1）
Video 2	COAX 2（コアキシャル2）
Video 3	OPT 3（オプティカル3）
Video 4	OPT 4（オプティカル4）
Tape	COAX 3（コアキシャル3）
Tuner	----
Phono	----
CD	OPT2（オプティカル2）

例： **本機後面のOPT 2端子にDVDプレーヤーを接続した場合**
DVDのデジタル入力端子の初期設定はOPT1のため、「OPT2」に設定を変更する必要があります。

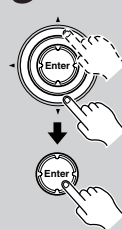
本機後面のTAPE端子にカセットデッキを接続した場合
TAPEにデジタル入力端子が設定されているため、「----」に設定を変更する必要があります。

1

Inputボタンを押してからScroll Wheelを回して、「入力ソース」を選ぶ

設定を変更する入力ソースを選びます。

ご注意
Video 5、Net-Audioにはデジタル端子が固定されているため、設定はできません。

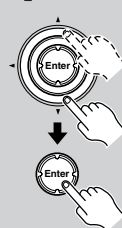
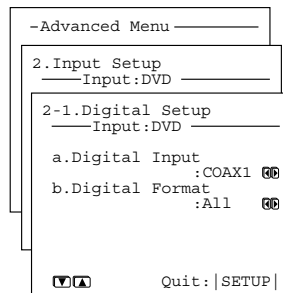
2

Scroll Wheelを押してからSetupボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

3

▲/▼ボタンを押して「2. Input Setup」を選び、Enterボタンを押す

4

▲/▼ボタンを押して「1. Digital Setup」を選び、Enterボタンを押す

5

▲/▼ボタンを押して「a. Digital Input」を選び、◀/▶ボタンで機器を接続したデジタル入力端子を選ぶ

6

Setupボタンを押す

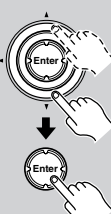
設定が終了し、メニュー画面が消えます。

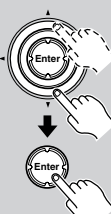
！ヒント
本体の入力切換ボタン、Setupボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enterボタンでも操作することができます。

映像端子（Video）の設定

本機のVIDEO端子やS VIDEO映像端子には、それぞれ入力（再生）ソースが割り当てられています。
接続した映像機器が初期設定と異なる場合や、異なる機器の映像と音楽を同時再生したい場合に設定を変更する必要があります。それ以外の場合は、設定を変更する必要はありません。

入力ソース	アナログ音声端子（固定）	VIDEO端子 S VIDEO端子
DVD	DVD	DVD
Video 1	VIDEO 1	VIDEO 1
Video 2	VIDEO 2	VIDEO 2
Video 3	VIDEO 3	VIDEO 3
Video 4	VIDEO 4	VIDEO 4
Video 5	VIDEO 5	VIDEO 5
Tape	TAPE	Last Valid
Tuner	TUNER	Last Valid
Phono	PHONO	Last Valid
CD	CD	Last Valid
Net Audio	NET AUDIO	Last Valid

例：**入力ソースがCDのときにDVDのS VIDEO端子に接続した機器の映像を見たい場合**
CDの初期設定は「Last Valid」のため、「DVD」に変更するとDVDのVIDEO端子またはS VIDEO端子に接続した機器の映像が見られます。

BSチューナーの音声接続をTUNER端子に、映像接続をVIDEO 4 S VIDEO端子に接続した場合
TUNERの初期設定は「Last Valid」のため、「VIDEO 4」に変更します。

1

Inputボタンを押してからScroll Wheelを回して、「入力ソース」を選ぶ

設定を変更する入力ソースを選びます。

2

Scroll Wheelを押してからSetupボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

3

▲/▼ボタンを押して「2. Input Setup」を選び、Enterボタンを押す

4

▲/▼ボタンを押して「3. Video Setup」を選び、Enterボタンを押す

映像端子設定画面が表示されます。

5

▲/▼ボタンを押して「a. Video」を選び、◀/▶ボタンで設定を選ぶ

入力ソースに対して、映像機器を接続した端子を選びます。

！ヒント

- Last validに設定すると、入力を切り換えてもモニターに映像が残ります。VIDEO 1をLast validに設定した場合、DVDを再生してから入力ソースをVIDEO 1に切り換えると、ＤＶＤの映像を見ながらVIDEO 1に接続した機器の音楽がお楽しみいただけます。
- 映像端子を設定しない場合は、「––––」に設定します。

6

Setupボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

！ヒント

本体の入力切換ボタン、Setupボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enterボタンでも操作することができます。

映像端子（Component Video）の設定

本機のD入力端子、COMPONENT入力端子には、それぞれ入力（再生）ソースが割り当てられています。接続した映像機器が初期設定と異なる場合は、設定を変更する必要があります。また、VIDEOまたはS VIDEO端子を接続した機器の映像をD端子やコンポーネント接続から出力する場合に設定します。
それ以外の場合は、設定を変更する必要はありません。

入力ソース	アナログ音声端子（固定）	D入力端子 コンポーネント入力端子
DVD	DVD	D4 1
Video 1	VIDEO 1	COMP 1
Video 2	VIDEO 2	COMP 2
Video 3	VIDEO 3	D4 2
Video 4	VIDEO 4	VIDEO
Video 5	VIDEO 5	VIDEO
Tape	TAPE	Last Valid
Tuner	TUNER	Last Valid
Phono	PHONO	Last Valid
CD	CD	Last Valid
Net Audio	NET AUDIO	Last Valid

1

Inputボタンを押してからScroll Wheelを回して、「入力ソース」を選ぶ

設定を変更する入力ソースを選びます。

2

Scroll Wheelを押してからSetupボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

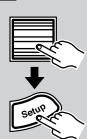
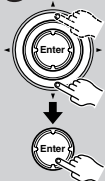
3

▲/▼ボタンを押して「2. Input Setup」を選び、Enterボタンを押す

4

▲/▼ボタンを押して「3. Video Setup」を選び、Enterボタンを押す

映像端子設定画面が表示されます。

5

▲/▼ボタンを押して「b. Component Video」を選び、◀/▶ボタンで設定を選ぶ

入力ソースに対して、映像機器を接続した端子を選びます。

- D4 1：映像機器をD4 VIDEO INPUT 1端子に接続した場合に選択します。
- D4 2：映像機器をD4 VIDEO INPUT 2端子に接続した場合に選択します。
- COMP 1：映像機器をCOMPONENT VIDEO INPUT 1端子に接続した場合に選択します。
- COMP 2：映像機器をCOMPONENT VIDEO INPUT 2端子に接続した場合に選択します。
- VIDEO：VIDEOまたはS VIDEO端子に接続した機器の映像を、D端子やコンポーネント端子から出力する場合に選択します。
- Last Valid：オーディオ機器を接続している場合に選択します。

！ヒント

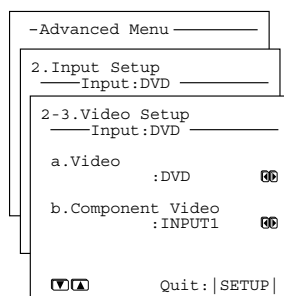
- Last validに設定すると、入力を切り換えてもモニターに映像が残ります。VIDEO 1をLast validに設定した場合、DVDを再生してから入力ソースをVIDEO 1に切り換えると、ＤＶＤの映像を見ながらVIDEO 1に接続した機器の音楽がお楽しみいただけます。
- 映像端子を設定しない場合は「None」に設定します。

6

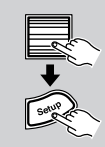
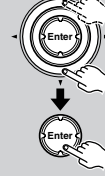
Setupボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

！ヒント

本体の入力切換ボタン、Setupボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enterボタンでも操作することができます。

リモコンの設定をする

リモコン受光部の位置を変更する

IR IN端子に外部リモコンセンサーを取り付けた場合に設定します。

1

Scroll Wheelを押してからSetupボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

▲/▼ボタンを押して「0. Hardware Setup」を選び、Enterボタンを押す

3

▲/▼ボタンを押して「3. Remote Setup」を選び、Enterボタンを押す

設定画面が表示されます。
Basicメニューが表示されたときは、▼ボタンで「→Advanced Menu」を選び、Enterボタンを押して、Advancedメニューを表示させてください。

4

▲/▼ボタンを押して「a. Position」を選び、◀/▶ボタンで設定を選ぶ

Main：
IR IN端子に接続したリモコン受光部がメインルームにあるときに選びます。

Zone 2：
IR IN端子に接続したリモコン受光部がZONE 2（別室）にあり、ZONE 2の操作をするときに選びます。

5

Setupボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

本体の入力切換ボタン、Setupボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enterボタンでも操作することができます。

本機のリモコンコードを変更する

オンキヨー製品が同じ部屋に複数ある場合、リモコンの操作コードが重複してしまうことがあります。
他のオンキヨー製品と区別をつけるためにリモコンコードを変更することができます。

ご注意

リモコン側も本体と同じリモコンコードに設定する必要があります。お買い上げ時は本体、リモコンともに「1」に設定されています。

1

Scroll Wheelを押してからSetupボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

▲/▼ボタンを押して「0. Hardware Setup」を選び、Enterボタンを押す

3

▲/▼ボタンを押して「3. Remote Setup」を選び、Enterボタンを押す

設定画面が表示されます。

4

▲/▼ボタンを押して「b. Remote ID」を選び、◀/▶ボタンで設定を選ぶ

1：お買い上げ時の設定
2：
3：

5

Setupボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

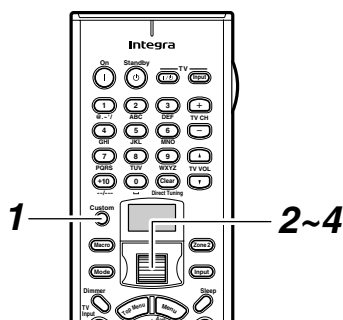
本体の入力切換ボタン、Setupボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enterボタンでも操作することができます。

初期設定をする

リモコンのリモコンコードを変更する

オンキヨー製品が同じ部屋に複数ある場合、リモコンの操作コードが重複してしまうことがあります。
他のオンキヨー製品と区別をつけるためにリモコンコードを変更することができます。

ご注意

本体側もリモコンと同じリモコンコードに設定する必要があります。お買い上げ時は本体、リモコンともに「1」に設定されています。

1

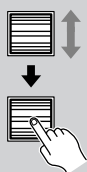
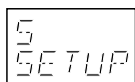
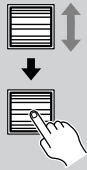
リモコンのCustom（カスタム）ボタンを3秒以上押す

リモコンがカスタムモードになります。

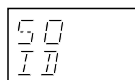
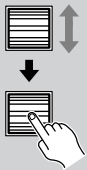
2

Scroll Wheel（スクロール ホィール）を回して「SETUP（セットアップ）メニュー」を選び、Scroll Wheelを押す

S
SETUP

3

Scroll Wheelを回して「IDメニュー」を選び、Scroll Wheelを押す

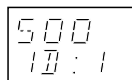
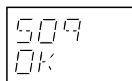
SO
ID

4

Scroll Wheelを回して「変更するリモコンコード」を選び、Scroll Wheelを押す

1～3の中から選べます。
本体と同じ設定にしてください。

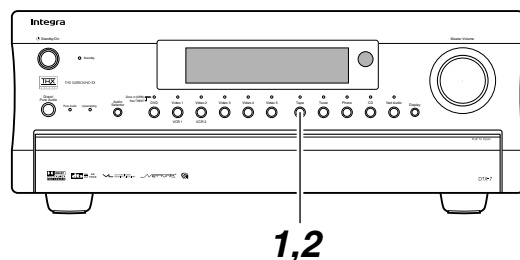
SOO
ID : 1

正しく登録された場合

SO9
OK

と表示されたあと元の表示に戻ります。

入力表示を切り換える

オンキヨーのRI端子付きMDレコーダーを本機のTAPE端子に接続した場合、ダイレクトチェンジなどのシステム動作を正しく行うために、入力表示を切り換える必要があります。

1

入力切換ボタンの「Tape（テープ）」を押し、表示部に「TAPE」を表示させる

TAPE

2

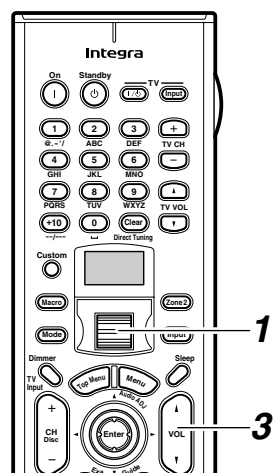
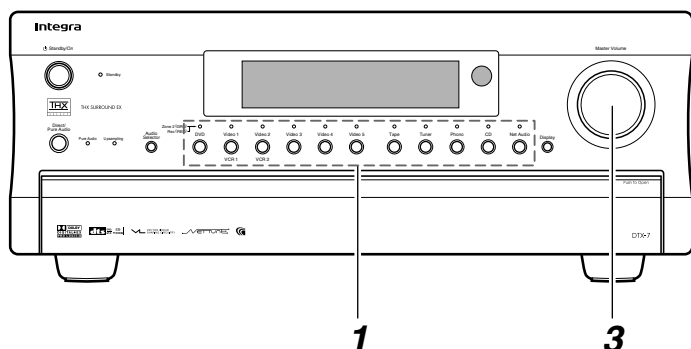
「TAPE」表示が「MD」表示に切り換わるまで、Tapeボタンを押し続ける（約3秒かかります。）

MD

■入力表示切り換えを元に戻すには

「MD」表示が「TAPE」表示に切り換わるまで、Tapeボタンを押し続ける（約3秒かかります。）

映画・音楽を鑑賞する（基本編）

接続した機器を再生する

1

本体

または

リモコン

演奏する機器選ぶ

本体では…

入力切換ボタンを押します。

リモコンでは…

Scroll Wheelを回して、入力ソースとリモコンモードを切り換えます。

！ヒント

Modeボタン、Inputボタンが点灯していないときに操作します。点灯している場合は、点灯しているボタンを押すと消灯します。

2

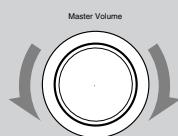
選んだ機器の演奏を始める

DVDプレーヤーなど映像機器を再生する場合は、テレビなどモニターの入力を切り換える必要があります。
また、DVD対応のゲーム機などの再生機器では、音声出力設定が必要な場合もあります。

3

Master Volume

本体

または

リモコン

本体のMaster Volumeつまみ、またはリモコンのVOL▲/▼ボタンで音量を調整する

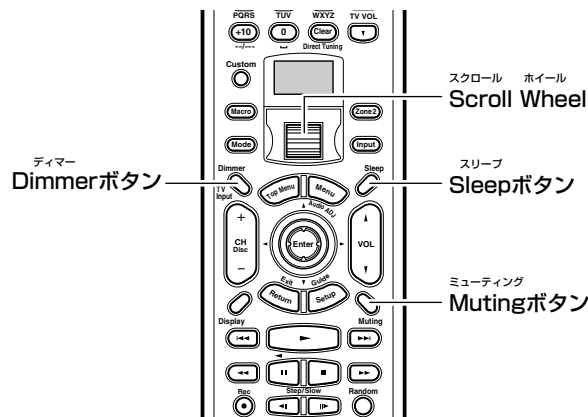
音量は基本的に0～100までの範囲で調整できます。

！ヒント

本機はホームシアターでお楽しみいただく製品ですので、ボリューム値を細かく設定できるように音量幅を大きく持たせています。お好みで調整してください。

一時的に音量を小さくする

Scroll Wheelを押してから、Mutingボタンを押す

表示部に「Muting」が点灯します。

■解除するには

もう一度Mutingボタンを押してください。
（音量を変えたり、本体のStandby/Onボタンまたは、リモコンのStandbyボタンを押した場合にも解除されます。）

スリープタイマーを使う

Scroll Wheelを押してから、Sleepボタンを押す

本体表示部に「Sleep 90min」と表示され、90分後にスタンバイ状態になります。ZONE 2（別室）を使用している場合は、ZONE 2も90分後にスタンバイ状態になります。ボタンを押すたびに10分単位で設定時間が短くなります。

- スリープタイマー設定中はSleepインジケーターが点灯します。

■残り時間を確認するには

スリープタイマーが予約されているときにSleepボタンを押すと、スタンバイ状態になるまでの残り時間が表示されます。ただし、残り時間が10分以下のときに再びSleepボタンを押すと、スリープタイマーは解除されます。

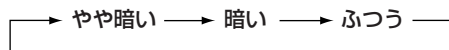
■スリープタイマーを解除するには

Sleepインジケーターが消えるまで、くり返しSleepボタンを押すか、一度スタンバイ状態にしてから再度電源を入れるとスリープタイマーは解除されます。

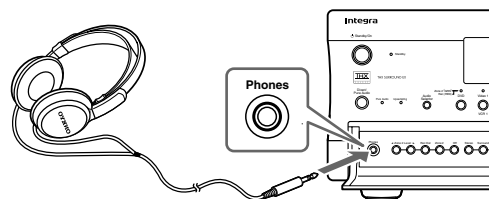
本体表示部の明るさを変える

本体表示部の明るさを変えることができます。

Scroll Wheelを押してから、Dimmerボタンを押す

押すたびに以下のように明るさが変わります。

！ヒント

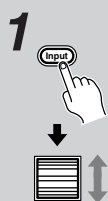
本体のDimmerボタンでも操作できます。

ヘッドホンで聞く

Phones端子にヘッドホンのステレオ標準プラグを接続する

- 接続する時は音量を下げてください。
- スピーカーからの音が消えます。
（ZONE 2（別室）スピーカーからの音は出力されます。）
- 「Direct」、「Pure Audio」、「Mono」以外のリスニングモードを選択している場合は、ヘッドホンを接続すると自動的に「Stereo」になり、ヘッドホンのプラグを抜くと元のリスニングモードに戻ります。
- ヘッドホン接続時は、「Direct」、「Stereo」、「Pure Audio」、「Mono」のリスニングモードが選択できます。
- マルチチャンネル入力を選んでいるときは、左右フロントチャンネルの音声のみ聞こえます。

音声信号の種類を選ぶ

音声信号にはアナログ、デジタル、マルチチャンネルの3種類があります。
それぞれの入力端子に接続している機器に合わせて、どの信号を再生するかを選択できます。

1

Inputボタンを押してからScroll Wheelを回して、設定する機器を選ぶ

2

Scroll Wheelを押してから、Audio SELボタンを押す

現在の設定が表示されている間に、Audio SELボタンを押すと、以下のように表示が切り換わります。

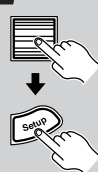
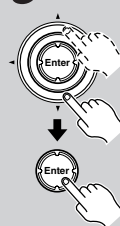
→ Auto → Multich → Analog →
（割り当てられているときのみ）

Auto：
デジタル信号を優先して再生しますが、デジタル信号が入力されていないときは、アナログ信号を再生します。
デジタル接続をしており、デジタル入力端子が設定されている場合に選びます。

Multich：
マルチチャンネルの音声を再生するときに選びます。アナログマルチチャンネル対応のDVDプレーヤーなどをマルチチャンネル接続している必要があります。

Analog：
アナログ信号を再生します。1つの機器をアナログ/デジタルの両方に接続していてもアナログ音声信号を再生します。

！ヒント

本体の入力切換ボタン、Audio Selectorボタンでも操作できます。

デジタル入力をDTS、PCMに固定する

1

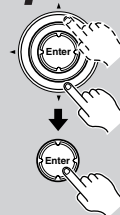
Inputボタンを押してからScroll Wheelを回して、「入力ソース」を選ぶ

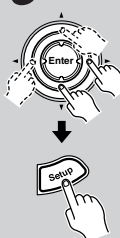
2

Scroll Wheelを押してからSetupボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

3

▲/▼ボタンを押して「2. Input Setup」を選び、Enterボタンを押す

4

▲/▼ボタンを押して「1. Digital Setup」を選び、Enterボタンを押す

5

▲/▼ボタンを押して「b. Digital Format」を選んだ後、◀/▶ボタンで設定するモードを選び、Setupボタンを押す

All：
入力される信号に適したデジタル信号を優先して再生します。デジタル信号が入力されていないときは、アナログ信号を再生します。

DTS：
AllでDTS-CDを再生するときのDTS信号を識別して読み取る間や、CDの早送り、早戻しをするときのノイズが気になる場合に選択します。DTS以外の音声が入力されても音は出ません。

PCM：
AllでCDなどのPCM信号の曲間で頭切れが気になる場合に選択します。PCM以外の音声が入力されても音は出ません。

DTS対応のCDやLDを再生するときは、必ず「All」または「DTS」を選択してください。「PCM」を選択するとノイズが出力されます。

！ヒント

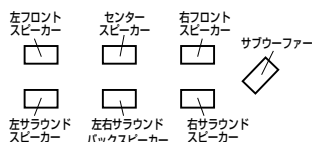
本体の入力切換ボタン、Setupボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enterボタンでも操作することができます。

リスニングモードを使う

リスニングモードの種類について

本機のリスニングモードを使うと、お部屋にいながら映画館やコンサートホールなどの臨場感あふれる雰囲気を味わって頂けます。本機には以下のリスニングモードがあります。最適なサラウンド再生をお楽しみいただくために、スピーカーの設定を行ってください。(☞35～39ページ)

下のイラストは、そのリスニングモード時に出力されるスピーカーを表します。

左フロントスピーカー　センタースピーカー　右フロントスピーカー　サブウーファー
左サラウンドスピーカー　左右サラウンドバックスピーカー　右サラウンドスピーカー

Direct

左右フロントスピーカーからのみ出力されます。もともとの音源に手を加えない、ピュアな音をお楽しみいただけます。

Pure Audio

Directモードに加え、表示部を消してビデオ回路の電源を切り、ノイズの発生源をできるだけ最小限にすることで、より原音に忠実な音楽再生を行います。（ビデオ回路の電源を切るため、映像が出なくなります。）

Stereo

左右フロントスピーカーとサブウーファーから出力されます。

Mono

モノラル信号で収録された古い映画を再生したり、2言語が記録されているソースを左右のチャンネルを独立して再生するモードです。DVDなどに記録された音声多重のサウンドトラックを再生できます。

Theater-Dimensional または

2つまたは3つのスピーカーであたかも5.1チャンネル再生しているかのようなバーチャル再生をお楽しみいただけます。左右それぞれの耳に届く音声の特性を制御することによって実現しています。反射音成分が大きいと期待した効果が得られない場合があるため、できるだけ反射音の少ない環境をお勧めします。

Dolby Pro Logic II

映画に最適なMovieモードと音楽再生に最適なMusicモードの2つのモードが選択できます。Movieモードでは、従来モノラルで帯域の狭かったサラウンドチャンネルがステレオ再生になり、それぞれ独立した音を出すため、より移動感のある再生が楽しめます。DOLBY SURROUND マークのついたVHSやDVDビデオ、または一部のテレビ番組再生時に楽しむことができます。また、Musicモードでは、2チャンネルの音楽に対しても自然な音場感をサラウンドチャンネルより再生します。CDなどのステレオ音楽や、ライブを記録したDVDにも適しています。

Dolby Digital

劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれるサウンドが体験できるサラウンドモードです。DOLBY DIGITALマークのついたDVD、LDなどの再生時に楽しむことができます。

Dolby Digital EX

5.1チャンネルに背面のサラウンドバックチャンネルを増やし、6.1チャンネルにすることで、より空間表現力を高め、360度の回転や頭上を通過するような移動音効果をリアルに体感できます。サラウンドバックチャンネルの音声は左右サラウンドチャンネルに振り分けられるため、通常の5.1チャンネル環境で再生することも可能です。5.1チャンネルで記録されたDOLBY マークのついたDVD,LDの再生時に楽しむことができます。

DTS

限りなく原音に忠実なサラウンドを再現するデジタルサラウンド方式です。完全に分離させた5.1チャンネルで膨大となる音声データを、可能な限り原音に近い状態で圧縮したデジタルデータです。極めて高音質の音声を提供します。再生するにはDTS出力が可能なDVDプレーヤーが必要です。DIGITAL dts SURROUNDマークのついたCD、DVD、LDなどを再生時に楽しむことができます。

DTS-ES Discrete

DTSにサラウンドバックを追加した、6.1チャンネルサラウンドです。DTS6.1チャンネル収録ソフトに対応しています。
追加されたサラウンドバックチャンネルを含めて6.1チャンネルすべてが完全に独立してデジタル記録されているため、立体感、移動感などがより鮮明に再現できます。dts ES のついたCD、DVD、LDなどを再生時に楽しむことができます。

DTS-ES Matrix

DTSにサラウンドバックを追加した、6.1チャンネルサラウンド。DTS5.1チャンネル収録ソフトを6.1チャンネル再生します。
DTS5.1チャンネル収録ソフトにはサラウンドバックチャンネルの情報も組み込まれているため、それぞれのチャンネルを6.1チャンネルに復元して再生します。DIGITAL dts SURROUNDマークまたはdts ES のついたCD、DVD、LDなどを再生時に楽しむことができます。

DTS Neo:6

2チャンネルで収録されたソースを6.1チャンネルで再生するモードです。6チャンネルすべてに広い周波数帯域が確保され、チャンネル間の独立性も優れています。映画に最適なCinemaモードと音楽再生に最適なMusicモードの2つのモードがあります。Cinemaモードでは、6.1チャンネルのソースとしてリアルな移動感にあふれたサラウンドが再現されます。音声がステレオのVHSやDVDビデオ、テレビ番組に使用します。Musicモードでは、サラウンドチャンネルを使用することで通常のステレオ出力では得られない自然な音場を生み出します。2チャンネルの音楽に対しても自然な音場感をサラウンドチャンネルより再生します。Musicモードは音声がステレオのCDなどに適しています。

AAC

MPEG-2 AAC方式で圧縮されたデジタルデータで、最大5.1チャンネルのサラウンド音声を提供します。
BSデジタル放送などのAACソースを再生するために使用します。

AAC Dolby EX

MPEG-2 AAC方式で圧縮されたデジタルデータを6.1チャンネルで再生します。

THX Cinema* または

THX社が設立した品質基準で、映画館でも家庭でも、制作者が意図したとおりのサラウンド効果を忠実に再現することを目的とした規格に準拠したモードです。
THX技術開発により、映画館よりも小さな家庭用ホームシアターで再生しても変わらない音響効果を再現できるように、映画館用サウンドから家庭用音楽への変換時に起こる空間のエラーを修正しています。
映画館のような広い場所で再生することを想定して録音編集された劇場用映画を見るときに適しています。

THX Surround EX*

ドルビーラボラトリーズとTHX社で共同開発されたホームシアター用フォーマットです。ドルビーデジタルEXの技術で従来の左右フロント、センター、左右サラウンド、サブウーファーの各チャンネルに加えて、視聴者の背後に新たな音場を作り出し、総計7.1チャンネルとなります。

＊THXサラウンドを忠実に再生するには、THX社認定THXスピーカーシステムのご使用をおすすめします。

オンキヨー独自のリスニングモード（DSP）

Orchestra または

クラシックやオペラに適したモードです。
センターチャンネルをカットするとともに、音声イメージが全体に広がるようなサラウンド感を強調。
大ホールで聞いているような自然な響きが楽しめます。

Unplugged

アコースティックやボーカル、ジャズなどに適したモードです。フロントの音場イメージを重視することで、あたかもステージの前で聞いているような音場イメージをつくります。

Studio-Mix

ロック、ポピュラーミュージックなどに適したモードです。パワフルな音響イメージを再現した臨場感あふれるサウンドは、あなたをあたかもクラブハウスにいるような気分にするでしょう。

TV Logic

放送局のスタジオから放映されているテレビ放送に適したモードです。
局のスタジオにいるような臨場感を高めます。すべてのサラウンド音声を強調し、会話音声を明瞭にします。

Enhance

音楽鑑賞やテレビのスポーツ番組を見るのに適しています。
効果音は自然にサラウンド、サラウンドバックスピーカーに移動し、より躍動感のあるサウンドを再現します。

Mono Movie

古い映画などモノラル信号の映画ソースを再生するのに適したモードです。センターチャンネルからはそのままの音声を、他のスピーカーからは適度に残響処理を施したセンター音を出力します。モノラルでも臨場感をお楽しみいただけます。

All Ch Stereo

BGMとして音楽をかけるときに便利なモードです。すべてのチャンネルでステレオ再生しますので迫力ある音場をお楽しみ頂けます。

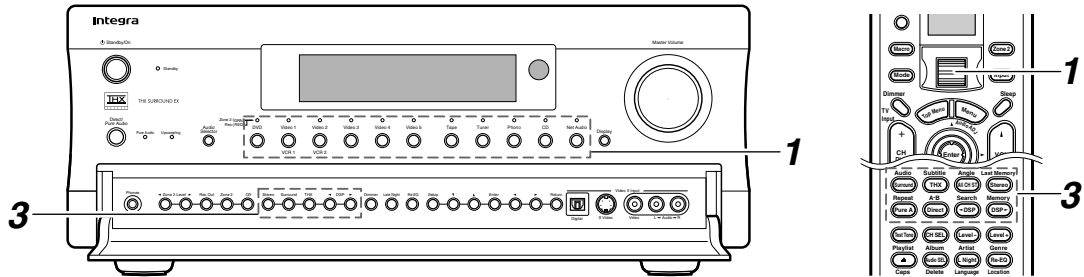
入力信号と対応するリスニングモード

入力信号の種類	アナログ/PCM	PCM fs=96kHz	DTS※		Dolby Digital				AAC				
			5.1ch	6.1ch	＊/2	2/0	1/0	それ以外	＊/2	2/0	1/0	1+1	それ以外
主なソース / リスニングモード	カセット/CD ビデオ/ラジオ テレビ、LDなど	DVD 96k/24bitなど	DVDビデオ LD、CDなど		DVDビデオなど				BSデジタル放送など				
Direct	●	●											
Pure Audio	●	●											
Stereo	●	●	●	●	●	●		●	●	●			●
Mono	●					●	●			●	●		
Theater-Dimensional	●		●	●	●	●		●	●	●			●
Dolby Pro Logic II Movie	●	●				●				●			
Dolby Pro Logic II Music	●	●				●				●			
Dolby Digital					●			●					
Dolby Digital EX					●								
DTS、DTS96/24			●	●									
DTS-ES Discrete				●									
DTS-ES Matrix/DTS+Neo:6			●										
DTS Neo:6 Cinema	●					●				●			
DTS Neo:6 Music	●					●				●			
AAC									●				●
AAC Dolby EX									●				
AAC Main												●	
AAC Sub												●	
AAC Main+Sub												●	
THX Cinema	●		●	●	●	●		●	●	●			●
THX Surround EX					●				●				
Orchestra	●		●	●	●	●		●	●	●			●
Unplugged	●		●	●	●	●		●	●	●			●
Studio-Mix	●		●	●	●	●		●	●	●			●
TV Logic	●		●	●	●	●		●	●	●			●
Enhance	●		●	●	●	●		●	●	●			●
Mono Movie	●					●	●			●	●		
All Ch Stereo	●					●				●			

※DTSの96k/24対応の信号を再生する場合、リスニングモードがステレオまたはDTSのときは96kHzとして、それ以外のリスニングモードを選んだときはDTS 48kHzとして処理されます。

ご注意

- 接続しているスピーカーの数や入力信号のフォーマットによっては上記のリスニングモードを選択できないことがあります。
- サラウンドバックスピーカーを接続していないとき、またはZONE（ゾーン） 2として使用しているときは選択できないことがあります。

リスニングモードを選ぶ

1

本体

または

リモコン

入力を切り換えて、再生する機器を選ぶ

本体では…

入力切換ボタンを押します。

リモコンでは…

Scroll Wheel（スクロール ホイール）を回して入力ソースとリモコンモードを切り換えます。

Mode（モード）ボタン、Input（インプット）ボタンが点灯していないときに操作します。点灯している場合は、点灯しているボタンを押すと消灯します。

2

選んだ機器を再生する

3

本体

または

リモコン

リスニングモードを選ぶ

リスニングモードボタンを押して、リスニングモードを選びます。
リモコンの場合は、Scroll Wheelを押してからリスニングモードボタンを押して、リスニングモードを選びます。

ご注意　入力信号によって選択できるリスニングモードが異なります。（☞50ページ「入力ソースに対応するリスニングモード」をご覧ください。）

Pure A（ピュアオーディオ）（リモコン）：リスニングモードを「Pure Audio」に切り換えます。

Direct（ダイレクト）（リモコン）：リスニングモードを「Direct」に切り換えます。

Direct/Pure Audio（ダイレクト/ピュア オーディオ）（本体）：押すごとにリスニングモードを「Direct」と「Pure Audio」を交互に切り換えます。Pure AudioのときにPure Audioインジケーターが点灯します。

Stereo（ステレオ）：リスニングモードを「Stereo」に切り換えます。
AACの音声多重信号が入力されているときは、主音声と副音声を切り換えます。押すたびに、「Main」→「Sub」→「Main＋Sub」と切り換わります。

Surround（サラウンド）：2チャンネル信号が入力されているときは、リスニングモードを「Dolby Pro Logic II Movie/Music」、「DTS Neo:6 Cinema/Music」に切り換えます。
：デジタル信号が入力されているときは、52ページの設定が行えます。
：マルチチャンネル信号が入力されているときは、「Tone On」と表示され、低音、高音効果が得られます。（☞57ページ）

THX：リスニングモードを「THX」に切り換えます。
：2チャンネル信号が入力されているときは、「Dolby Pro Logic II Movie」にTHX効果をかけるか、「DTS Neo:6 Cinema」にTHX効果をかけるかを選択します。THXボタンを押すたびに切り換わります。
：デジタル信号が入力されているときは、53ページの設定ができます。

◀DSP、DSP▶：オンキヨー独自のリスニングモードと、「Mono」、「Theater-Dimensional」が選べます。

All CH ST（オールチャンネルステレオ）（リモコンのみ）：リスニングモードを「All Ch St」に切り換えます。

再生中でリスニングモードがドルビーデジタル、DTS、THX、AACのときはこんなこともできます。

Dolby Digital/Dolby Digital EX

サラウンドバックスピーカーを使用しているとき、Dolby Digtalソースを6.1チャンネル再生するか5.1チャンネル再生するかを設定しておくことができます。ただし、再生する信号にサラウンドチャンネルの情報がモノラル、または無いときは以下の設定をしてもDolby Digital（5.1チャンネル）再生になります。

Scroll Wheelを押してから、Surroundボタンを押す

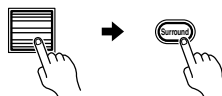
ボタンを押すごとにDolby Digital EXの設定が下記の順で切り換わります。

On ：ドルビーデジタルの6.1チャンネル識別信号があるときはDolby Digital EXに切り換わり、6.1チャンネル再生をします。6.1チャンネルの識別信号がないときも、強制的にDolby Digital EXになり、6.1チャンネル再生をします。

Off ：6.1チャンネルの識別信号があるディスクでもDolby Digital（5.1チャンネル）再生を行います。

Auto ：ドルビーデジタルの6.1チャンネル識別信号があるときは、Dolby Digital EXに切り換わり、6.1チャンネル再生をします。6.1チャンネルの識別信号がないときは、Dolby Digital（5.1チャンネル）再生をします。

AAC/AAC Dolby EX

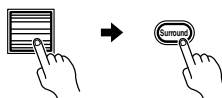
サラウンドバックスピーカーを使用しているとき、AACソースを6.1チャンネル再生するか、5.1チャンネル再生するかを設定しておくことができます。

Scroll Wheelを押してから、Surroundボタンを押す

ボタンを押すごとにAACの設定が下記の順で切り換わります。

Off ：AACソースを5.1チャンネル再生します。

On ：AACソースを6.1チャンネル再生します。

DTS/DTS-ES Discrete/DTS-ES Matrix

サラウンドバックスピーカーを使用しているとき、DTSソースを6.1チャンネル再生するか、5.1チャンネル再生するかを設定しておくことができます。

Scroll Wheelを押してから、Surroundボタンを押す

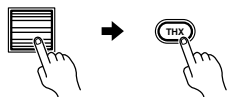
ボタンを押すごとにDTS-ESの設定が下記の順で切り換わります。

Auto ：6.1チャンネル識別信号があるときは、DTS-ES DiscreteまたはDTS-ES Matrixに切り換わり、6.1チャンネル再生をします。
6.1チャンネル識別信号がない場合はDTS（5.1チャンネル）再生になります。

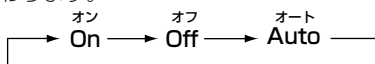
On ：6.1チャンネル識別信号があるときは、DTS-ES DiscreteまたはDTS-ES Matrixに切り換わり、6.1チャンネル再生をします。
6.1チャンネル識別信号がない場合は、強制的にDTS+Neo:6になり、6.1チャンネル再生をします。

Off ：6.1チャンネル識別信号があるときでもDTS（5.1チャンネル）再生を行います。

THX Surround EX（Dolby Digital）

サラウンドバックスピーカーを使用しているとき、Dolby Digitalソースを THXサラウンドEX再生するかどうかを設定します。

Scroll Wheelを押してから、THXボタンを押す

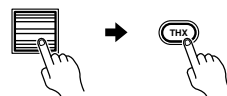
ボタンを押すごとにTHX Surround EXの設定が下記の順で切り換わります。

→ On → Off → Auto →

On ：6.1チャンネル識別信号の有無にかかわらず、THXサラウンドEX再生を行います。

Off ：6.1チャンネル識別信号の有無にかかわらず、THXサラウンドEX再生を行いません。（通常のTHXシネマ再生）

Auto ：6.1チャンネル識別信号があるソースの場合、自動的にTHXサラウンドEX再生になります。

THX Surround EX（AAC）

サラウンドバックスピーカーを使用しているとき、AACのソースをTHXサラウンドEX再生するかどうかを設定します。

Scroll Wheelを押してから、THXボタンを押す

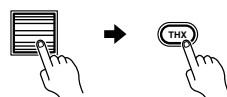
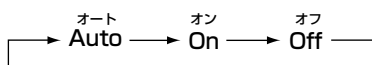
ボタンを押すごとにTHX Surround EXの設定が下記の順で切り換わります。

Off ←→ On

Off ：THXサラウンドEX再生を行いません。（通常のTHXシネマ再生）

On ：THXサラウンドEX再生を行います。

THX Cinema（DTS/DTS-ES）

THX処理のためDTS-ESモードを切り換えます。
DTS5.1チャンネル再生にTHXをかけるか、DTS-ES6.1チャンネル再生にTHXをかけるかを設定します。

Scroll Wheelを押してから、THXボタンを押す

ボタンを押すごとにDTS-ESの設定が下記の順で切り換わります。

Auto ：6.1チャンネル識別信号があるときは、DTS-ES DiscreteまたはDTS-ES Matrix に切り換わり、6.1チャンネル再生をします。
6.1チャンネル識別信号がない場合はDTS（5.1チャンネル）再生になります。

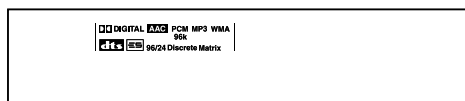
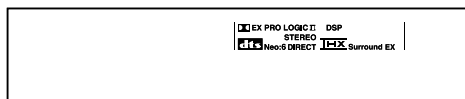
On ：6.1チャンネル識別信号があるときは、DTS-ES DiscreteまたはDTS-ES Matrix に切り換わり、6.1チャンネル再生をします。
6.1チャンネル識別信号がない場合は、DTS＋Neo：6 Matrixになり、6.1チャンネル再生をします。

Off ：6.1チャンネル識別信号があるときでもDTS（5.1チャンネル）再生を行います。

！ヒント

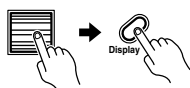
52、53ページでの「6.1チャンネル再生」とは、「信号が6.1チャンネル分」を表します。接続しているスピーカーが7.1チャンネルのときは、6.1チャンネルの信号を7.1チャンネルのスピーカーで再生します。

表示を確認する

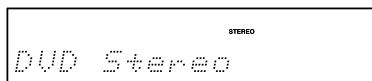
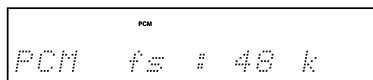
デジタル音声を認識すると、その音声方式によって以下のいずれかのインジケーターが点灯します。

また、リスニングモードを選ぶと以下のいずれかのインジケーターが点灯します。

！ヒント

ドルビーデジタルソフトを再生したとき、表示部に「Dialog Norm：○○」（○○は数値）と表示される場合があります。これは、ダイアログノーマライゼーションというドルビーデジタルが備えている機能のひとつで、再生するソフトが通常より高い、または低いレベルで録音されていることを知らせる機能です。
本機は、聞いている音量に関係なく、ソフトによって音量が変化しても本機の音量を調整する必要がないよう自動的に出力レベルを調整します。

表示を切り換える

リモコン

Scroll Wheel（スクロール ホィール）を押してから、Display（ディスプレイ）ボタンを押すたびに、表示内容が次のように切り換わります。

● 入力信号がアナログのとき

入力ソース ←→ 入力ソースとリスニングモード

STEREO
DVD Stereo

● 入力信号がPCMのとき

● 入力信号がPCM以外のデジタル信号のとき

*1 入力信号にプログラム情報がないときは、表示されません。サンプリング周波数やフォーマット表示状態で、約3秒経過すると、元の表示に戻ります。

***2フォーマット表示の意味**

A: 入力信号に含まれているフロントチャンネルの数
- 3: 左フロント、センター、右フロントスピーカーの3チャンネル
- 2: 左フロント、右フロントスピーカーの2チャンネル
- 1: モノラル（1チャンネル）

B: 入力信号に含まれているサラウンドチャンネルの数
- 3: 左サラウンド、右サラウンド、サラウンドバックスピーカーの3チャンネル
- 2: 左サラウンド、右サラウンドスピーカーの2チャンネル
- 1: モノラル（1チャンネル）

C: 入力信号に含まれているLFE（低域効果音）の有無
- 1: あり
- なし

たとえば、「3/2.1」と表示された場合は、フロント3チャンネルとサラウンド2チャンネル、それにLFEがそれぞれ独立して記録されたソースで、5.1チャンネルソースであることを表しています。

● 入力信号がAACの音声多重放送（2ヶ国語放送など）のとき

スピーカーの音量を一時的に調整する

再生中、一時的に各スピーカーのレベルをお好みに調整することができます。本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

1

Scroll Wheelを押してからCH SELボタンを押して、調整するスピーカーを選ぶ

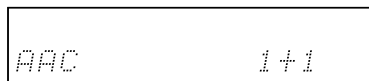
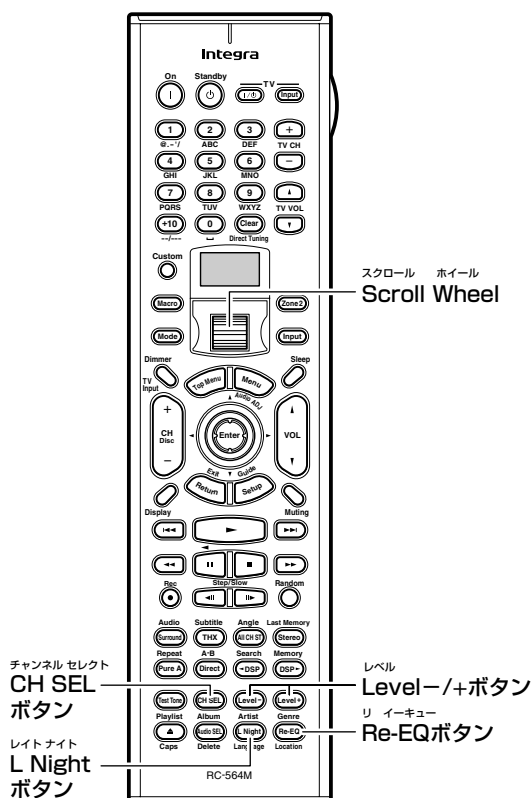
ご注意

接続していないスピーカーは調整できません。

2

Level－/＋ボタンを押して、音量を調整する

－12ｄBから+12ｄBの範囲で調整できます。

- サブウーファーは－１５ｄBから+12ｄBの範囲で調整できます。

Re-EQ機能を使う

高音域が強調されたサウンドトラックをホームシアター用に補正します。フロントスピーカーからの高音域が強すぎる場合に設定します。Re-EQの設定は、リスニングモードがMono、Stereo、All Ch St、ドルビーデジタル、ドルビーデジタルEX、ドルビー プロロジックII ムービー、DTS、DTS-ES、DTS Neo:6 シネマ、AAC、AAC Dolby EX、THX Cinema、THX Surround EXの場合に働きます。

！ヒント

OSDを使ったメニューでも設定できます。（☞62ページ）

1

Scroll Wheelを押してから、Re-EQボタンを（くり返し）押す

- リスニングモードがTHXのときは、初期設定はOnになっています。電源を切ると初期設定に戻ります。
- リスニングモードがTHX以外のときは、初期設定はOffになっています。

レイトナイト機能を使う（ドルビーデジタルのみ）

劇場用に作られた映画音声は大きな音と小さな音の差が大きいため、環境音や人の会話などの小さな音を聞くには音量を上げる必要があります。レイトナイト機能は音量幅を小さくすることができるため、全体の音量を上げずに小さな音も聞こえます。夜中などに音量を絞って映画を鑑賞するときに便利です。
この機能は、本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

！ヒント

OSDを使ったメニューでも設定できます。（☞62ページ）

1

Scroll Wheelを押してから、L Nightボタンを（くり返し）押す

Off ：レイトナイト機能をオフにします。
Low ：音量幅を小さくします。
High ：音量幅をさらに小さくします。

しばらくすると元の表示に戻ります。

ご注意

- レイトナイト機能は、ドルビーデジタルソフトにのみ効果があります。
- レイトナイト効果は、ドルビーデジタルソフトによって効果が少なかったり、効果がない場合もあります。

映画・音楽を鑑賞する（応用編）

アナログマルチチャンネルの設定

本機後面のMULTI CHANNEL INPUT端子にアナログマルチチャンネル（5.1〜7.1ch）出力端子がある機器を接続した場合、設定を「Yes」にする必要があります。DVDプレーヤーの場合は「Yes」に設定されていますので設定を変更する必要はありません。

ご注意

Net Audioはマルチチャンネルを「Yes」に設定することはできません。

入力ソース	初期設定
DVD	Yes
Video 1	No
Video 2	No
Video 3	No
Video 4	No
Video 5	No
CD	No
Phono	No
Tuner	No
Tape	No

1

Inputボタンを押してからScroll Wheelを回して、「入力ソース」を選ぶ

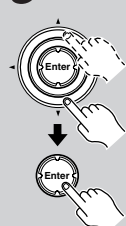
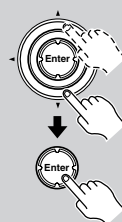
設定を変更する入力ソースを選びます。

2

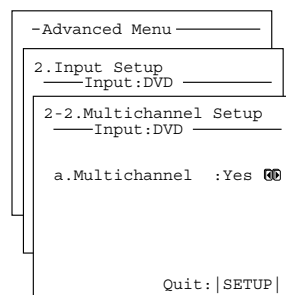
Scroll Wheelを押してからSetupボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

3

▲/▼ボタンを押して「2. Input Setup」を選び、Enterボタンを押す

4

▲/▼ボタンを押して「2. Multichannel Setup」を選び、Enterボタンを押す

マルチチャンネル設定画面が表示されます。

5

▲/▼ボタンを押して「a. Multichannel」を選び、◀/▶ボタンで設定を選ぶ

6

Setupボタンを押す

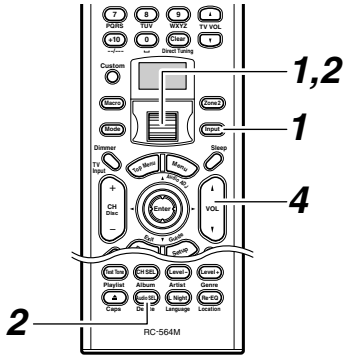
設定が終了し、メニュー画面が消えます。

！ヒント

本体の入力切換ボタン、Setupボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enterボタンでも操作することができます。

マルチチャンネル接続した機器を再生する

DVDプレーヤーとマルチチャンネル接続をしている場合、DVDオーディオやスーパーオーディオCDなどの再生をお楽しみいただけます。23ページの通り正しく接続されていることを確認してください。

マルチチャンネル再生をする

1 Inputボタンを押しScroll Wheelを回して、「DVD」を選ぶ

2 Scroll Wheelを押してからAudio SELボタンを(くり返し)押して、「Multich」を選ぶ

3 DVDプレーヤーを再生する

4 VOL▲/▼ボタンで音量を調整する

音量は基本的に0～100までの範囲で調整できます。

！ヒント

本体の入力切換ボタン、Audio Selectorボタン、Master Volumeつまみでも操作できます。

！ヒント

「Multich」を選んでいるときは、DirectとPure Audioが選べます。また、それ以外のリスニングモードを使用中に「Multich」にすると、リスニングモードは解除されます。

Surroundボタンを押すと、Tone Onと表示され、低音、高音効果が得られます。

マルチチャンネル再生時のスピーカー音量を調節する

マルチチャンネル音声を再生中、各スピーカーのレベルをお好みに調整することができます。

1 Scroll Wheelを押してからCH SELボタンを押して、調整するスピーカーを選ぶ

CH SELボタンを押すたびに、次の順でスピーカーが切り換わります。

左フロントスピーカー → センタースピーカー → 右フロントスピーカー → 右サラウンドスピーカー → 右サラウンドバックスピーカー → 左サラウンドバックスピーカー → 左サラウンドスピーカー → サブウーファー → 左フロントスピーカー

ご注意

「Speaker Config（スピーカー環境）」で「No」または「None」に設定したスピーカーは、調整できません。

2 Level－/＋ボタンを押して、音量レベルを調整する

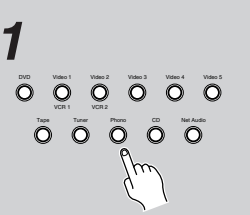
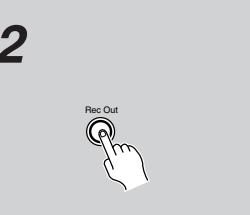
－12dB～+12dBの範囲で調整できます。

- サブウーファーは－30dB～+12dBの範囲で調整できます。

ご注意

マルチチャンネル音声の各スピーカーレベルは、39ページのテスト音で設定するレベルキャリブレーションとは異なります。マルチチャンネル再生以外での再生時には反映されません。

映画・音楽を鑑賞する（応用編）

録音・録画する

あなたが録音・録画したものは、個人として楽しむほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。

ご注意

- サラウンド効果は録音されません。
- 著作権保護されたDVDなどはデジタル録音・録画できません。
- マルチチャンネル音声は録音できません。
- DIGITAL IN（COAX）または（OPT）の入力端子から入力されたデジタル信号は、DIGITAL OUT（OPT）の出力端子からのみ出力されます。ただし、Net Audioで再生されるMP3、WMA、WAV等の音楽信号はアナログ音声にのみ出力されます。
- デジタル信号の録音・録画については制約があります。デジタル録音するときは、録音機器の取扱説明書もご覧ください。
- デジタル音声入力はデジタル音声出力のみ、アナログ音声入力はアナログ音声出力にのみ出力されます。
- DTS信号をノイズとして録音・録画することになりますので、DTS対応のCDやLDをアナログ録音しないでください。

再生しながら録音･録画する

現在再生中の音楽や映画を録音･録画します。

1 入力切換ボタンを押して、録音・録画する機器（再生側）を選ぶ

2 Rec Outボタンを（くり返し）押して、「Rec Sel:SOURCE」と表示させる

録音・録画されるソース名が表示され、TAPE端子、VIDEO 1端子、VIDEO 2端子に接続した機器で録音・録画が可能な状態になります。

3 録音・録画する機器（録音側）の準備をする

- 録音・録画する機器を録音待機状態にします。
- 録音レベルの調整は録音機器で行ってください。
- 録音のしかたについては、録音･録画機器の取扱説明書をご覧ください。

4 録音・録画を始める

手順*1* で選んだ機器を再生します。

- 録音･録画中にソースを切り換えると、新しく選択されたソースが録音･録画されます。

再生しながら別の機器を録音･録画する

音楽や映画を再生しながら他の機器で録音・録画することができます。たとえば、DVDを鑑賞しながら、CDを録音することができます。

1 Rec Outボタンを押す

2 8秒以内に入力切換えボタンを押して、録音・録画する機器（再生側）を選ぶ

録音・録画されるソース名が表示され、TAPE端子、VIDEO 1端子、VIDEO 2端子に接続した機器で録音・録画が可能な状態になります。

ご注意

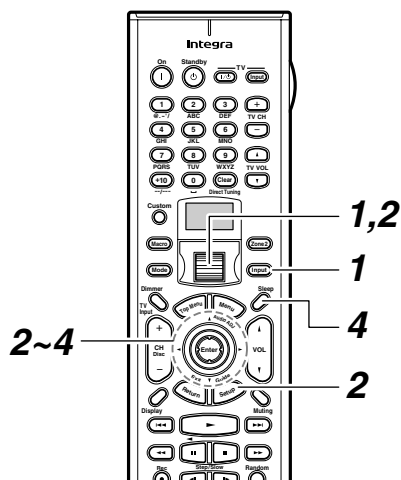
ZONE 2端子と録音・録画できる端子は、同一回路を使用しているため、ZONE 2使用時はメインルームで再生しながら別の機器を録音・録画することはできません。

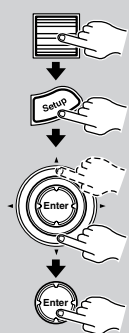
3 録音・録画する機器（録音・録画側）の準備をする

4 録音・録画を始める

異なるソースの音楽と映像を録音･録画する

あるソースの音を別のソースの映像に加えて、オリジナルビデオが作成できます。以下の手順は、CD IN端子に接続したCDプレーヤーの音声とVIDEO 5 IN端子に接続したビデオカメラの映像をVIDEO 1 OUT端子に接続したビデオデッキで録音･録画する例です。

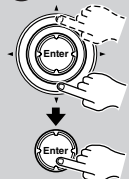
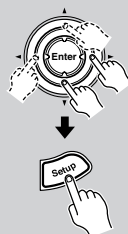
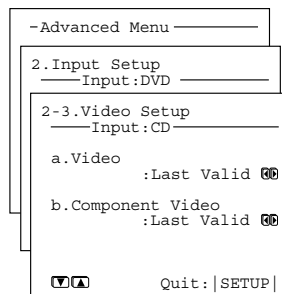
1

Inputボタンを押しScroll Wheelを回して、「CD」を選ぶ

2

Scroll Wheelを押してから Setupボタンを押して「メインメニュー」を表示させ、▲/▼ボタンを押して「2. Input Setup」を選ぶ

「2. Input Setup」を選んだら、Enterボタンを押します。

3

▲/▼ボタンを押して「3. Video Setup」を選び、Enterボタンを押す

4

▲/▼ボタンを押して「a. Video」を選び、◀/▶ボタンで「Video 5」に設定する

「Video 5」に設定したら、Setupボタンを押します。

5

CDプレーヤーにCDをセットし、VIDEO 5端子に接続したビデオカメラにテープをセットする

6

VIDEO 1 OUT端子に接続したビデオデッキにテープをセットする

7

本体

Rec Outボタンを（くり返し）押して、「Rec Sel : SOURCE」と表示させる（本体操作）

これで、CDプレーヤーが音声入力ソース、VIDEO 5が映像入力ソースとして選択されました。

8

ビデオデッキで録画を始め、CDプレーヤーとビデオカメラで再生を始める

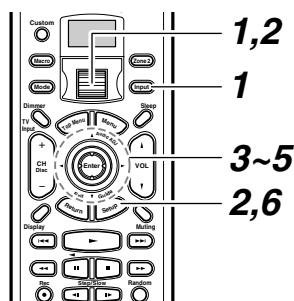
！ヒント

録音・録画中にソースを切り換えると、新しく選択されたソースからの信号が録音・録画されます。

設定をする（応用編）

リスニングモードを設定しておく

よく使うリスニングモードを設定しておく

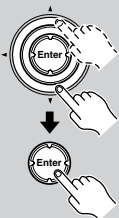
入力される信号によって、よく使うリスニングモードを設定しておくことができます。
再生中に切り換えることもできますが、一度スタンバイ状態にすると設定されたモードに戻ります。

1

Inputボタンを押してからScroll Wheelを回して、「入力ソース」を選ぶ

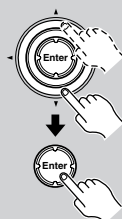
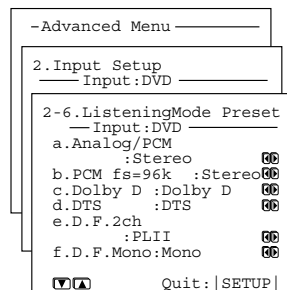
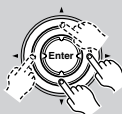
設定するソースを選びます。

2

Scroll Wheelを押してからSetupボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

3

▲/▼ボタンを押して「2. Input Setup」を選び、Enterボタンを押す

メニューが表示されないときは、▼ボタンで「→Advanced Menu」を選び、Enterボタンを押してAdvancedメニューを表示させてください。

4

▲/▼ボタンを押して「6. Listening Mode Preset」を選び、Enterボタンを押す

5

CDなどのPCM信号やレコード、カセットテープなどのアナログ信号を再生するときのリスニングモードを設定しておくには

1. **▲/▼ボタンを押して「a. Analog/PCM」を選ぶ**
2. **◀/▶ボタンで設定するモードを選択する**

- PCM/アナログ音声時に選択できるリスニングモードのみ表示されます。
「Last Valid」はリスニングモードを固定せず、最後に選択したモードを優先します。

PCM96kHzの音声信号を再生するときのリスニングモードを設定しておくには

1. **▲/▼ボタンを押して「b. PCM fs = 96k」を選ぶ**
2. **◀/▶ボタンで設定するモードを選択する**

- PCM96kHz音声時に選択できるリスニングモードのみ表示されます。
「Last Valid」はリスニングモードを固定せず、最後に選択したモードを優先します。

ドルビーデジタル信号を再生するときのリスニングモードを設定しておくには

1. **▲/▼ボタンを押して「C. Dolby D」を選ぶ**
2. **◀/▶ボタンで設定するモードを選択する**

- ドルビーデジタル音声時に選択できるリスニングモードのみ表示されます。
「Last Valid」はリスニングモードを固定せず、最後に選択したモードを優先します。

DTS信号を再生するときのリスニングモードを設定しておくには

1. ▲/▼ボタンを押して「d. DTS」を選ぶ
2. ◀/▶ボタンで設定するモードを選択する

- DTS音声時に選択できるリスニングモードのみ表示されます。
  「Last Valid（ラスト バリッド）」はリスニングモードを固定せず、最後に選択したモードを優先します。

AACを再生するときのリスニングモードを設定しておくには

1. ▲/▼ボタンを押して「e. AAC」を選ぶ
2. ◀/▶ボタンで設定するモードを選択する

- AAC音声時に選択できるリスニングモードのみ表示されます。
  「Last Valid」はリスニングモードを固定せず、最後に選択したモードを優先します。

2チャンネルで記録されたドルビーデジタルなどのデジタル信号を再生するときのリスニングモードを設定しておくには

1. ▲/▼ボタンを押して「f. D.F.2ch（デジタルフォーマット）」を選ぶ
2. ◀/▶ボタンで設定するモードを選択する

- 2チャンネルデジタル音声時に選択できるリスニングモードのみ表示されます。
  「Last Valid」はリスニングモードを固定せず、最後に選択したモードを優先します。

モノラルで記録されたドルビーデジタル、AACなどのデジタル信号を再生するときのリスニングモードを設定しておくには

1. ▲/▼ボタンを押して「g. D.F.Mono（モノ）」を選ぶ
2. ◀/▶ボタンで設定するモードを選択する

- 「D.F. Mono」音声時に選択できるリスニングモードのみ表示されます。
  「Last Valid」はリスニングモードを固定せず、最後に選択したモードを優先します。

6

Setup（セットアップ）ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

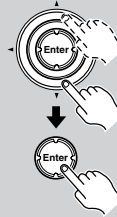
「b. PCM fs=96k」、「c. Dolby D」、「d. DTS」、「f. D.F.2ch」、「g. D.F. Mono」はデジタル入力端子の設定がされている入力ソースのみ設定できます。

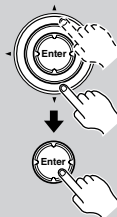
音響効果の設定

リスニングモードや接続した機器によって音響効果をお好みに設定しておくことができます。

1

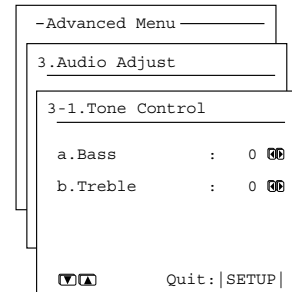
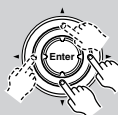
Scroll Wheel（スクロール ホィール）を押してからSetup（セットアップ）ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

▲/▼ボタンを押して「3. Audio Adjust（オーディオ アジャスト）」を選び、Enter（エンター）ボタンを押す

3

▲/▼ボタンを押して1～15の設定したい「メニュー」を選び、Enterボタンを押す

設定画面が表示されます。

```
-Advanced Menu
3.Audio Adjust
3-1.Tone Control
 a.Bass      :  0
 b.Treble    :  0
             Quit:|SETUP|
```

4

▲/▼ボタンを押してアルファベットの設定したい「サブメニュー」を選び、◀/▶ボタンで調整する

5

Setupボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

本体の入力切換ボタン、Setup（セットアップ）ボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enter（エンター）ボタンでも操作することができます。

低音/高音を調整する（3-1. Tone Control）

a. Bass

「Direct」「Pure Audio」「THX」以外のリスニングモード時に左右フロントスピーカー、センタースピーカー、サブウーファーの低音を調整することができます。初期設定は「0」ですが、－12ｄB～＋12ｄBの範囲内で2ｄBずつ調整できます。

b. Treble

「Direct」「Pure Audio」「THX」以外のリスニングモード時に左右フロントスピーカー、センタースピーカーの高音を調整することができます。初期設定は「0」ですが、－12ｄB～＋12ｄBの範囲内で2ｄBずつ調整できます。

サラウンド信号を出力するスピーカーを設定する（3-2. Surround Speakers）

a. Surround Speakers

サラウンドバックスピーカーを接続した状態で5.1ch再生をする場合、サラウンド信号を出力するスピーカーを設定できます。この設定はリスニングモードがDTS、DTS96/24、Dolby Digital、Dolby Pro Logic II、AAC、THX Cinema(PL II)、Mono Movie、Orchestra、Unplugged、Studio-Mix、TV Logicのときに働きます。

- **Surround L/R**：左右サラウンドスピーカーからのみ出力されます。
- **Surround Back**：左右サラウンドバックスピーカーからのみ出力されます。
- **Surr L/R+Back**：左右サラウンドスピーカー、左右サラウンドバックスピーカーから出力されます。

音声効果を設定する（3-3. Sound Effect）

a. Re-EQ

55ページの設定と同じです。ここでの設定はリスニングモードがMono、Stereo、All Ch St、ドルビーデジタル、ドルビーデジタルEX、ドルビープロロジックIIムービー、DTS、DTS-ES、DTS Neo:6シネマ、AAC、AAC Dolby EXのときのみ働きます。

b. Upsampling

リスニングモードがステレオまたはDolby Pro Logic II時、信号のサンプリング周波数を現在の2倍に変換し、より細かな音の再生をします。

- **On**：サンプリング周波数を2倍にします。Upsamplingインジケーターが点灯します。
- **Off**：サンプリング周波数を2倍にしません。

c. Double Bass

「Speaker Config」でサブウーファーを「Yes(有り)」にしていて、フロントスピーカーを「Large」に設定している場合、サブウーファーをさらに強調させることができます。

- **On**：サブウーファーを強調します。
- **Off**：サブウーファーを強調しません。

d. Late Night

55ページの設定と同じです。リスニングモードがドルビーデジタルのときに働きます。

e. Multiplex

AACの音声多重信号が入力されてるときに、優先する音声を選びます。

- **Main**：主音声
- **Sub**：副音声
- **Main＋Sub**：主音声+副音声

音の遅延調整をする（3-4. Delay）

a. A/V Sync

映像が音声より遅れている場合、この設定で音声を遅らせ、同期を一致させることができます。
初期設定は「0ms」ですが、0～74.0msの範囲を0.5ms単位で設定できます。

ご注意

24.5ms～74.0msの範囲に設定している場合に、アップサンプリングをすると強制的に24.0msに設定されますが表示は変わりません。本機後面のMULTI CH INPUT端子に接続した機器で音声信号をマルチチャンネルにしている場合は、設定できません。

b. Relative Delay

当社独自の「エンハンスド・スペシャル・ポジショニング・アルゴリズム（拡張三次元配置アルゴリズム)」で音場の微調整を行います。各スピーカー出力に対して最大10msの時間差をつけることができます。これは、スピーカー間の位置を約3メートル変えることに相当します。
初期設定は「0ms」ですが、－4.0ms～+6.0msの範囲を0.5ms単位で設定できます。

38ページで各スピーカーの距離、39ページで音量を設定してからこの機能でサラウンド環境を微調整してください。
スピーカー間の距離を広げる（時間差を大きくする)と音場が広がり、距離を縮める（時間差を小さくする）と音場をシャープにすることができます。

設定の操作方法については、61ページをご覧ください。

低域効果音の調整（3-5. LFE Level）

a. Dolby Digital

ドルビーデジタル信号が入力されたときの、低域効果（LFE）レベルを設定しておくことができます。
初期設定は０ｄＢですが、－∞、－10dB～０ｄＢの範囲内で1dBずつ調整できます。
低域効果音が強調されすぎる場合に、値を下げて調整します。

b. DTS

DTS信号が入力されたときの、低域効果（LFE）レベルを設定しておくことができます。
初期設定は０ｄＢですが、－∞、－10dB～０ｄＢの範囲内で1dBずつ調整できます。
低域効果音が強調されすぎる場合に、値を下げて調整します。

c. AAC

AAC信号が入力されたときの、低域効果（LFE）レベルを設定しておくことができます。
初期設定は０ｄＢですが、－∞、－10dB～０ｄＢの範囲内で1dBずつ調整できます。
低域効果音が強調されすぎる場合に、値を下げて調整します。

モノ音声時の調整（3-6. Mono）

a. Academy Filter

古いモノラル映画は、通常フィルムの構造上再生されるヒスノイズが聞こえないようにするため、上映時に高音を下げることで音のバランスを調節します。映画によっては、高音域を下げずにビデオへの転送を行った結果、高音が強調されたヒスノイズの多い音が再生されることがあります。この設定で当時多くのシステムに使用された再生手法に基づいた「アカデミーフィルター」で高音域を下げることができます。
初期設定は「Off」に設定されています。

On：アカデミーフィルターをかけ、高音を下げる再生をします。

Off：アカデミーフィルターをかけず、通常の再生をします。

b. Input Channel

ステレオ音声をリスニングモードMonoで再生するときの出力方法を設定します。
初期設定は「AUTO L+R」に設定されています。

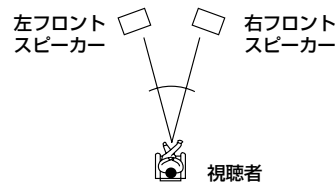
AUTO L+R：左右フロントスピーカーからそれぞれ同じ音声が出力されます。

Left：左チャンネルと右チャンネルにそれぞれ異なる言語が記録されたソースを再生する場合、左チャンネルの音声を左右フロントスピーカーに出力します。

Right：左チャンネルと右チャンネルにそれぞれ異なる言語が記録されたソースを再生する場合、右チャンネルの音声を左右フロントスピーカーに出力します。

シアターディメンショナル時の調整（3-7. Theater-Dimensional）

a. Listening Angle

視聴者から見た左右フロントスピーカーに対する角度を設定します。
シアターディメンショナルはこの角度をもとにバーチャル処理を行います。左右フロントスピーカーから等距離で、かつ選択したリスニングアングルに近い視聴位置が理想です。
初期設定は「40°」ですが「20°」も選べます。

b. Center

センタースピーカーを接続している場合はセンターチャンネルの信号をセンタースピーカーで再生することができます。
これにより左右フロントスピーカーの負担が軽減され、より明瞭度の優れた音響空間を創り出します。この場合、左右フロントスピーカーとセンタースピーカーの音量レベルと音の到達時間が合致することが重要ですが、35～39ページの「スピーカーの設定」が正しく設定されていれば、自動的に合致します。
初期設定は「Off」に設定されています。

On：センターチャンネルの信号はセンタースピーカーから出力されます。

Off：センターチャンネルの信号は左右フロントスピーカーに振り分けられて、出力されます。

c. Front Expander

前方の音場を横方向まで広げることができます。特にリスニングアングルが20°といった狭いリスニング条件の時に使うと効果があります。
初期設定は「Off」に設定されています。

On：フロントエクスパンダー効果をオンにし、前方の音場を広げます。

Off：フロントエクスパンダー効果をオフにします。

設定の操作方法については、61ページをご覧ください。

d. Virtual Surr Level

バーチャル処理したサラウンド信号のレベルを調整します。明瞭度が悪いときや不自然な音がするときにこのレベルを下げることで改善される場合もあります。
初期設定は「０ｄＢ」ですが、－3dB～＋3dBの範囲で選択できます。

e. Dialog Enhance

多くの場合、センターチャンネルにはセリフが記録されています。この設定でセンターチャンネルを強調し、明瞭度を改善することができます。初期設定は「Off」に設定されています。

On：センターチャンネル信号を強調します。
Off：センターチャンネル信号を強調しません。

リスニングモード（サラウンド）の設定（3-8. Surround）

a. Surr Mode（Analog/PCM）

アナログやPCM信号を再生するときのリスニングモードを設定しておきます。
初期設定は「Pro Logic II Movie」ですが、Pro Logic II Music、Neo:6 Cinema、Neo:6 Musicから選択できます。

b. Surr Mode（D.F. 2ch）

PCM信号以外の2チャンネルデジタル信号を再生するときのリスニングモードを設定しておきます。
初期設定は「Pro Logic II Movie」ですが、Pro Logic II Music、Neo:6 Cinema、Neo:6 Musicから選択できます。

c. Dolby D EX（Dolby D）

52ページの「Dolby Digital/Dolby Digital EX」と同じ設定です。入力信号がDolby Digitalでなくても設定できます。

d. Dolby D EX（AAC）

52ページの「AAC/AAC Dolby EX」と同じ設定です。
入力信号がAACでなくても設定できます。

e. DTS-ES

52ページの「DTS/DTS-ES Discrete/DTS-ES Matrix」と同じ設定です。入力信号がDTSでなくても設定できます。

f. Pro Logic II Music Panorama

Dolby Pro Logic II Music時、音場を横方向まで広げることができます。
初期設定は「Off」に設定されています。

On：プロロジック II パノラマ効果をオンにします。
Off：プロロジック II パノラマ効果をオフにします。

g. Pro Logic II Music Dimension

Dolby Pro Logic II Music時、音場を前方または後方へ移動させることができます。
初期設定は「3」に設定されています。

！ヒント

- 「3」を中心に、2、1、0にすると前方へ、4、5、6にすると後方へ移動します。
- 広がり感がありすぎたり、サラウンドが強すぎる場合は音場を前方に調整するとバランスが良くなります。
  逆にモノラル感や音場が狭い感じの場合は音場を後方に調整するとバランスがよくなります。

h. Pro Logic II Music Center Width

Dolby Pro Logic II Music時、センタースピーカーの音の広がり幅を調整することができます。
Dolby Pro Logic II では、センタースピーカーがある場合はセンターチャンネルの信号をセンタースピーカーからのみ出力します。（センタースピーカーがない場合は、左右フロントスピーカーに等分に振り分け、幻想のセンター音像を作ります。）この設定では、センタースピーカーと左右フロントスピーカーの配合を調整し、センターの音の重量感を調整することができます。
初期設定は「3」ですが、0～7の範囲で選択できます。

i. Neo : 6 Music Center Image

「DTS Neo:6 Music」は、2チャンネルで収録されたソースを6チャンネルで再生するリスニングモードで、左右フロントチャンネルからいくらか差し引いた音声を使ってセンターチャンネルの音声を作り出します。
どの程度音声を差し引いてセンターチャンネルのイメージを作るかを調整します。
初期設定は「3」ですが、0～5の範囲で選択できます。

！ヒント

- 「0」は左右のチャンネルから半分（－6ｄB）差し引いてセンターイメージを作るため、より中央に寄った感じになります。視聴位置が中央からかなりずれている場合に便利です。
- 「5」は左右のチャンネルから音声が差し引かれないため元のステレオ音声のバランスのまま出力されます。

設定の操作方法については、61ページをご覧ください。

THXの設定（3-9. THX）

a. Re-EQ（THX）

55ページの設定と同じです。ここでの設定はリスニングモードがTHXのときのみ働きます。

b. Decoder（2ch）

2chの入力信号に対してTHXモードにするとき、Dolby Pro Logic II MovieにTHX Cinemaをかけるか、DTS Neo : 6 CinemaにTHX Cinemaをかけるかを設定します。

PL II Movie：Dolby Pro Logic II MovieにTHX Cinemaをかけます。

Neo:6 Cinema：Neo:6 CinemaにTHX Cinemaをかけます。

c. THX Surr EX (Dolby D)

53ページの「THX Surround EX（Dolby Digital)」と同じ設定です。入力信号がDolby Digitalでなくても設定できます。

d. THX Surround EX (AAC)

53ページの「THX Surround EX（AAC)」と同じ設定です。入力信号がAACでなくても設定できます。

e. DTS-ES

53ページの「THX Cinema（DTS/DTS-ES)」と同じ設定です。入力信号がDTSでなくても設定できます。

オンキヨー独自のリスニングモード調整（3-10. Mono Movie/3-11. Enhance/3-12. Orchestra/3-13. Unplugged/3-14. Studio-Mix/3-15. TV Logic）

a. Front Effect

フロントスピーカーの残響効果をオフにすることができます。ライブコンサートなどが記録されたソースはあらかじめ周囲に残響音が収録されています。これにリスニングモードの残響効果が加わると雰囲気がぼやけたように聞こえることがあります。Front Effectをオフにすると左右フロントスピーカー、センタースピーカーには残響音を加えないため、ソースの情報をありのまま再生します。
初期設定は「On」に設定されています。

On：残響音を加えます。

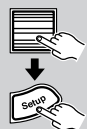
Off：残響音を加えません。

b. Reverb Level

再生するソース、部屋の状況などに合わせて、残響音の大小を調節します。
初期設定は「Middle」ですが、「High」、「Low」も選択できます。

c. Reverb Time

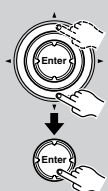
再生するソースや部屋の状況などに合わせて、残響時間を調節します。
初期設定は「Middle」ですが、「Long」、「Short」も選択できます。

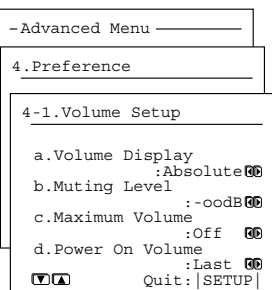
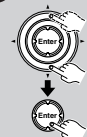
設定の操作方法については、61ページをご覧ください。

お好みの設定

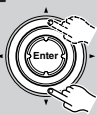
1

Scroll Wheelを押してから Setupボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

Basicメニューが表示されたときは、▼ボタンで「→Advanced Menu」を選び、Enterボタンを押してAdvancedメニューを表示させてください。

2

▲/▼ボタンを押して「4. Preference」を選び、Enterボタンを押す

プリファレンスセットアップメニューが表示されます。

3

▲/▼ボタンを押して、1～4の設定したい「メニュー」を選び、Enterボタンを押す

4

▲/▼ボタンを押して、アルファベットの設定したい「サブメニュー」を選ぶ

5

◀/▶ボタンを押して、設定したい「項目」を選ぶ

6

Setupボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

本体のSetupボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enterボタンでも操作することができます。

ボリューム設定（4-1. Volume Setup）

a. Volume Display

ボリュームの表示方法を絶対値と相対値に切り換えることができます。

Absolute（絶対値）
0～100の範囲で表示します。

Relative（相対値）
－∞dB･－81dB･－80dB･･････17dB･Maxの範囲で表示します。絶対値の音量82が相対値の0dBに相当します。

b. Muting Level

ミューティング時の音量レベルを調整できます。
10dB単位で－∞dB･－50dB～－10dBの範囲内で設定できます。

c. Maximum Volume

音量が大きくなり過ぎないように、音量の最大出力レベルを設定することができます。
絶対値表示の場合は、50～99の範囲内で設定できます。
相対値表示の場合は、－32dB～＋17dBの範囲内で設定できます。
設定しないときは「Off」を選びます。

d. Power On Volume

本機の電源を入れたときの音量を一定に設定しておくことができます。
絶対値表示の場合は、0～100の範囲内で設定できます。
相対値表示の場合は、－∞dB、－81dB～＋18dBの範囲内で設定できます。
本機をスタンバイ状態にする前の音量をそのまま残したい場合は「Last」を選びます。

ヘッドホンの設定（4-2. Headphones Level）

a. Headphones Level

スピーカーで聞くときとヘッドホンで聞くときの音量に差がある場合、ヘッドホンの音量を微調整しておくことができます。
－12dB～＋12dBの範囲で調整できます。

OSDの設定（4-3. OSD Setup）

a. Background Color

オンスクリーンディスプレイ（OSD）の背景色を変えることができます。
Blue 1(青1)、Blue 2(青2)、Green 1(緑1)、Green 2(緑2)、Magenta(紅色)、Red 1(赤1)、Red 2(赤2)の中から選択できます。

b. Component Video

コンポーネントビデオ端子と接続しているテレビにオンスクリーンディスプレイ（OSD）を表示するかどうかを設定します。

OSD On：OSDを表示します。
OSD Off：OSDを表示しません。

c. Immediate Display

本機を操作したときに、操作内容を画面に表示するかどうかを設定します。（コンポーネント映像が出力されているときは、Onにしても操作内容は表示されません。）

On：表示します。
Off：表示しません。

d. Display Position

操作内容の表示位置を設定します。
画面上部（Top）から下部（Bottom）まで10段階の中から設定できます。

OSDの位置設定（4-4. OSD Position）

OSD Postion

画面に表示されるオンスクリーンディスプレイ（OSD）メニューの位置を微調整できます。
▲/▼/◀/▶ボタンで微調整します。

12Vトリガーの設定

本機後面の12V TRIGGER OUT AまたはBに他機の12Vトリガー入力端子を接続した場合に設定します。

1

Inputボタンを押してからScroll Wheelを回して、「入力ソース」を選ぶ

設定するソースを選びます。

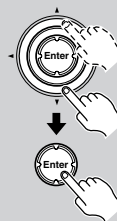
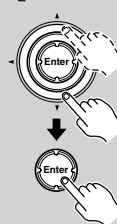
2

Scroll Wheelを押してからSetupボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

Basicメニューが表示されたときは、▼ボタンで「→Advanced Menu」を選び、Enterボタンを押してAdvancedメニューを表示させてください。

3

▲/▼ボタンを押して「2. Input Setup」を選び、Enterボタンを押す

4

▲/▼ボタンを押して「7. 12V Trigger Setup」を選び、Enterボタンを押す

5

▲/▼ボタンを押して「a. Trigger A」または「b. Trigger B」を選び、◀/▶ボタンで設定する

a.Trigger A

On：12V Trigger A端子からトリガー信号を出力します。
Off：12V Trigger A端子からトリガー信号は出力しません。

b.Trigger B

On：12V Trigger B端子からトリガー信号を出力します。
Off：12V Trigger B端子からトリガー信号は出力しません。

- トリガーB端子はA端子に対して、2秒遅れて信号を出力します。

6

Setupボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

その他の設定

入力ソースに名前をつける（2-4. Character Input）

入力ソースに名前をつけることができます。
10文字までの文字を入力することができます。

1

Inputボタンを押してからScroll Wheelを回して、「入力ソース」を選ぶ

名前をつけるソースを選びます。

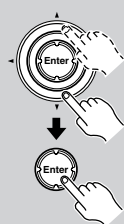
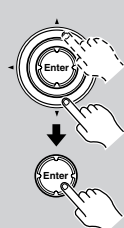
2

Scroll Wheelを押してからSetupボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

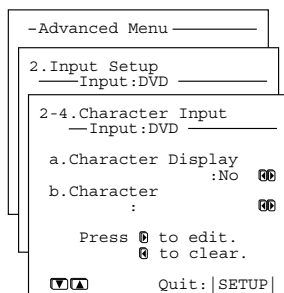
Basicメニューが表示されたときは、▼ボタンで「→Advanced Menu」を選び、Enterボタンを押してAdvancedメニューを表示させてください。

3

▲/▼ボタンを押して「2. Input Setup」を選び、Enterボタンを押す

4

▲/▼ボタンを押して「4. Character Input」を選び、Enterボタンを押す

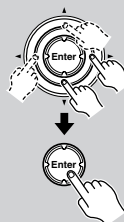
文字を入力する場合は、▼ボタンを押して、「b. Character」を選び、▶ボタンを押して文字入力画面に進みます。

```
-Advanced Menu
2.Input Setup
  Input:DVD
2-4.Character Input
  Input:DVD

 a.Character Display
                :No
 b.Character
          :

   Press ▶ to edit.
         ◀ to clear.

▼▲            Quit:|SETUP|
```

a. Character Display

Yes：入力を切り換えたとき、名前を表示します。
No：名前を表示しません。

b. Character

◀：入力された文字をすべて消去します。
▶：文字入力画面に進みます。

5

b.の場合
▲/▼/◀/▶ボタンを押して入力したい文字を選び、Enterボタンを押す

6

手順5をくり返し、10文字まで入力する

10文字に満たない場合は、＿（空白）を入力し10文字にしてください。

7

Setupボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

本体の入力切換ボタン、Setupボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enterボタンでも操作することができます。

文字を間違えた場合は

Returnボタンで１つ前の文字に戻ります。

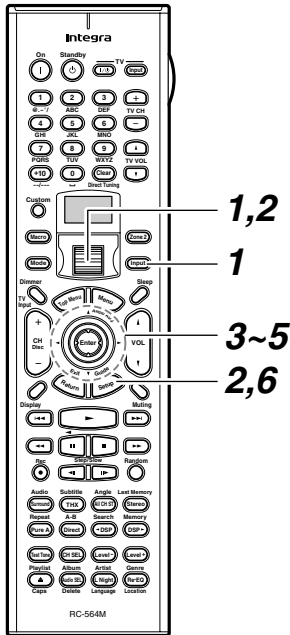
文字を訂正するには

1. Enterボタンを(くり返し)押して、訂正する文字を選ぶ
2. ◀/▶ボタンで正しい文字を選び、Enterボタンを押す

入力された文字をすべて消去するには

手順4で◀ボタンを押します。

機器間の音量差を減らす（2-5. IntelliVolume Setup）

本機に複数の機器を接続している場合、本機のボリューム位置が同じでも機器によって再生するときの音量に差が出ることがあります。
その音量差を減らすことで、同じボリューム位置のまま同じ音量で各機器をお楽しみいただけます。

1

Inputボタンを押してから Scroll Wheelを回して、「入力ソース」を選ぶ

設定するソースを選びます。

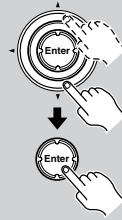
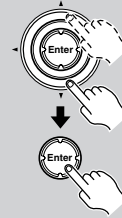
2

Scroll Wheelを押してから Setupボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

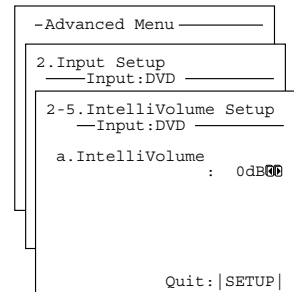
Basicメニューが表示されたときは、▼ボタンで「→Advanced Menu」を選び、Enterボタンを押してAdvancedメニューを表示させてください。

3

▲/▼ボタンを押して「2. Input Setup」を選び、Enterボタンを押す

4

▲/▼ボタンを押して「5. IntelliVolume Setup」を選び、Enterボタンを押す

インテリボリューム設定画面が表示されます。

5

▲/▼ボタンを押して「a. IntelliVolume」を選び、◀/▶ボタンを押して「音量」を調整する

他の機器と比べて音量が大きい場合は◀ボタン、小さい場合は▶ボタンを押して調整します。

- −12dB～+12dBの範囲内で調整できます。

6

Setupボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

本体の入力切換ボタン、Setupボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enterボタンでも操作することができます。

ネットオーディオを使う

本機はLAN（ラン）ケーブルでネットワーク接続をすると、インターネットラジオを楽しんだり、パソコンに保存した音楽ファイルを楽しむことができます。

■インターネットラジオ機能

次のインターネットラジオ機能があります。
- WMA/MP3フォーマットのインターネットラジオが聞けます。
- ジャンル別、地域別、言語別に選択が可能です。
- 30曲のインターネットラジオ局をプリセットできます。

■ネットチューン機能

オンキヨー独自のソフトウエアのNet-Tune Central（ネット チューン セントラル）は、LAN (Local Area Network)（ローカル エリア ネットワーク）を通じて、パソコンに保存されている音楽ファイルやライブラリ情報を本機に通信します。

※ソフトウエアは、オンキヨーのホームページからダウンロードできます。
- ダウンロードには製品の後面パネルや保証書に記載されている製造番号（SERIAL（シリアル）番号）の入力が必要です。
- ご使用のインターネット回線の状態により10分以上かかることがあります。

http://www.onkyo.com/jp/

音楽のネットワーク配信には、標準的なネットワークプロトコルTCP/IP をベースにしたオンキヨーが独自に開発したNTSPプロトコルを採用し、高い操作レスポンスを実現しています。
音楽配信サーバー機能に加え、パソコンに保存されている音楽ファイルを自動的に検索し、簡単にNet-Tune Centralに取り込むことができます。
Net-Tune Centralのミュージックライブラリ機能は、以下の音楽フォーマットに対応しています。
- 非圧縮で高音質な音楽フォーマットであるWAV (PCM)
- 圧縮フォーマットでファイルサイズが小さく高音質なMP3
- Microsoft®社が開発した、MP3に劣らない音質でMP3よりも高い圧縮フォーマットであるWMA（WMAについてはコンテンツ保護されているものは再生できません。）

■ミュージックライブラリ編集機能

パソコンに保存されている音楽の曲名、アーティスト名の編集、ジャンル名の作成や編集ができます。

■必要なシステム

インターネットやミュージックサーバーを聞くには次の準備が必要です。

モデム（インターネットラジオ使用時）

専用回線と接続してインターネットに通信を行うための機器。ケーブルモデム、xDSLモデム、ターミナルアダプタ（TA）などルータにあるDHCP機能を使用して自動的にIPを取得できます。

※インターネットに接続するためには、ISP（インターネット·サービスプロバイダ）と契約する必要があります。ISP業者によって使用できるモデムの種類が異なりますので詳しくはISP業者、またはPC関連ショップにお問い合わせください。

ルータ（複数のPC等の機器が同時にインターネットへ接続するための機器）

- DHCP（Dynamic Host Configration Protocol）（ダイナミック ホスト コンフィグレーション プロトコル）サービスをベースとしたネットワークであること
- 100Base-TX Switch（ベース スイッチ）内蔵 ブロードバンドルータ（推奨）

ルータのDHCP機能を使って自動的にIPアドレスを取得します。

※上記モデムの機能を内蔵したものもあります。ISP業者によって使用できるルータの種類が異なりますので、詳しくはISP業者、またはPC関連ショップにお問い合わせください。

イーサネットCAT-5ケーブル

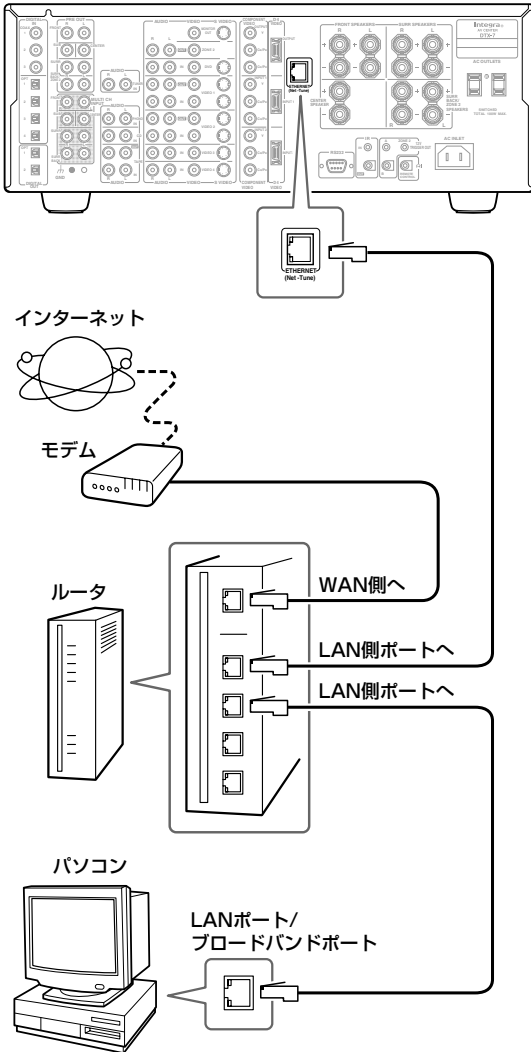
PC（ミュージックサーバー使用時）

- OS：Windows® 98SE、ME、2000、XPのいずれか（Mac非対応）
- CPU：Intel® Pentium®III 600MHz以上
- メモリーサイズ：XPの場合：256MB以上、その他の場合：128MB以上
- LANポート（ブロードバンドポート）があること
- 20MB以上のハードディスク空き容量
  - ＊音楽ファイル用に別途空き容量が必要になります。MP3/WMA形式で1分につき約1MB、WAV形式で1分につき約10MBの空き容量が必要になります。
  - ＊必要容量はお使いのハードディスクのフォーマット形式や確保容量、録音する際のビットレートなどにより、異なります。
  - ＊一部のMP3エンコーダーで作成した曲は、再生不可能、もしくは再生音に雑音が入ったり、異音となる場合があります。
- High Color（ハイ カラー）（16ビットカラー）、解像度800×600以上のディスプレイ
- サウンド機能

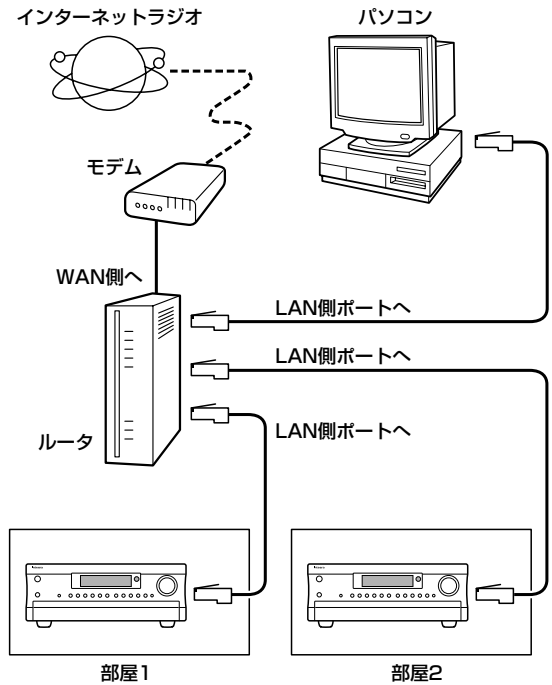
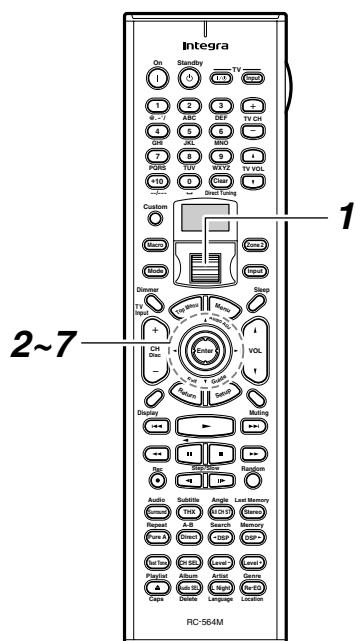
ご注意

- 本機でインターネットラジオを楽しむには、ブロードバンドインターネット接続で、ブラウザでネット閲覧ができる環境が整っていることが前提となります。インターネット接続に関する問題点については、プロバイダ各社にお問い合わせ願います。
- ネットワーク設定を手動で行うタイプの回線契約でプロバイダ契約を結んでいる場合、「ネットワークに関する設定」(☞77ページ)をする必要があります。
- 本機はPPPoEに対応しておりません。PPPoEで設定するタイプの回線契約を結んでいる場合、PPPoE対応のルータが必要です。
- 契約しているISP(インターネットサービスプロバイダ)によっては、インターネットラジオを利用する場合にプロキシサーバーの設定が必要な場合があります。パソコンでインターネットに接続するときにプロキシサーバーの設定をした場合は、本機も同様に設定してください。(☞78ページ)
- 本機はDHCP機能やAuto IP機能を使用し、ネットワーク設定を自動的に行うように設計されています。DHCP機能、Auto IP機能を使用しないときは、手動でネットワーク設定をしてください。(☞77ページ)

接続のしかた

イーサネットケーブル（CAT-5）の一方を本機後面のETHERNET（Net-Tune）端子に差し込み、もう一方をルータに差し込みます。

本機を複数接続すると、各部屋でそれぞれお好みの音楽をお楽しみいただけます。
3台まで同時に再生できます。

インターネットラジオを楽しむ

1

Scroll Wheelを回して「IRD」を表示させる

下の段にはNET-Tと表示されます。
メインメニューが表示されない場合は、Displayボタンを押します。

！ヒント

コンポーネント映像が出力されているときは、ネットオーディオに関するOSDが表示されません。
42ページで「Video」に設定してください。

2

▲/▼ボタンを押して「検索メニュー」を選ぶ

ジャンル（Genres）、地域（Location）、言語（Language）から選びます。

```
i Net Radio(Menu)

 1.Genres
 2.Location
 3.Language
```

3

Enterボタンを押す

インターネットのXiva Radio Web*サイトに接続されます。

＊Xiva Radio Webサイトとは
多数あるインターネットラジオ局をリストアップし、情報を供給しているサイトです。興味や音楽の好み、言語や地域別にインターネットラジオ局を検索し、お気に入りの放送局を見つけることができます。

Genresを選んだ場合
ジャンルのメインリストが表示されたら、▲/▼ボタンで好きなジャンルを選びます。Enterボタンを押すとそのジャンルのサブリストが表示されますので、▲/▼ボタンで選びます。

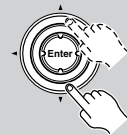
Locationを選んだ場合
国名および地域名のリストが表示されます。▲/▼ボタンで選びます。

Languageを選んだ場合
言語リストが表示されます。▲/▼ボタンで選びます。
リストがない場合は、「No List」の表示が出ます。
◀ボタンを押すと、1つ前の手順に戻ります。

5

Enterボタンを押す

放送局のリストが表示されます。

6

▲/▼ボタンで放送局を選ぶ

◀ボタンを押すと、1つ前の手順に戻ります。

7

Enter(エンター)ボタンを押す

インターネットラジオ局に接続し、バッファリングを行います。

Buffering 90%

バッファリングが完了すると、放送が流れ始めます。

ご注意

- ブロードバンドインターネット接続(DSLかケーブルモデムの場合)でない、すなわちダイヤルアップ接続等の低速なインターネット接続の場合は、インターネットラジオは正しく機能しないことがあります。
- 本体表示部の表示は▲/▼ボタンで切り換えることができます。
- タイトル情報やアーティスト情報がないときは、「No Info(ノーインフォメーション)」と表示されます。OSD画面では、その情報をひとつの画面で見ることができます。

OSD

```
iNet Radio Station ONK
                   7ch
Track:
        Station ONK Live
Program:
        Station ONK Live
Artist:
        RealOnkyoNet.com
Data:
        WMA  20kbps
                   Tuned
```

表示部

Station ONK

インターネットラジオ局をプリセット(登録)する

最大30局までインターネットラジオ局をプリセットすることができます。

1

プリセットしたい放送局を受信する

2

▶ボタンを押す

プリセットモードになり、プリセット番号が約5秒間点滅します。

3

Enterボタンを押す

プリセットが完了します。

プリセットされたインターネットラジオ局を選ぶ

1

Scroll Wheel(スクロール ホィール)を回して「IRD(インターネットラジオ)」を表示させる

2

CH Disc(チャンネル ディスク)+/−ボタンを押す

放送局が表示された後、バッファリング表示になります。

Buffering 90%

↓

Station ONK

バッファリングが完了すると、放送が流れ始めます。

プリセットされたインターネットラジオ局を消去する

1

上記手順で消去したいプリセット局を選ぶ

2

▶ボタンを押す

Preset Erase

プリセット消去モードになります。

3

Enterボタンを押す

プリセット局の消去が完了します。

パソコンの音楽ファイルを再生する

Net-Tune Centralをオンキヨーのホームページからダウンロード/インストールしておきます。

1

パソコンのNet-Tune Centralを起動する

ご注意

ネットチューンセントラルが立ち上がるまで数十秒かかる場合があります。

2

本機の電源を入れる

初めて本機をネットワークに接続したときは、ネットワークで最初に見つかったサーバーに接続します。

！ヒント

サーバーが本機を認識しない場合は、「Not find…」のメッセージが現れます。
イーサネットケーブルの差し込みを確認してください。

3

Scroll Wheelを回して「MSRV」を表示させる

下の段にはNET-Tと表示されます。

！ヒント

- 前回再生していた曲を呼び出した状態で停止しています。
- 本機がネットワークに接続し、サーバーを見つけ出して接続が完了するまでの間、「Network Starting…」、「Connecting…」などの表示が出ます。
- Net-Tune Centralに接続が完了すると、情報が読み込まれ、再生可能状態に切り換わります。

以下の表示が出た場合は

「No Track」
Net-Tune Centralから情報を取得できませんでした。Net-Tune Centralに曲を登録してください。すでに登録している場合は、リモコンのDisplay、Artist、Album、Genre、Playlistボタンで曲を選んでください。(☞75ページ)

「Disconnected」
ルータやパソコン、本機との接続を確認してください。また、サーバーが立ち上がっていない、前に接続していたサーバーが見つからない、などの原因が考えられます。
サーバーを立ち上げるか、ネットワーク設定（Network Setup）の「2-1.Music Serverサブメニュー」(☞76ページ)で他のサーバーを選んでください。

4

または

Enterボタンまたは Playボタンを押して再生を始める

通常、表示には5種類の表示があります。
本体表示部で見るときは、▲/▼ボタンで選びます。

```
Music  Server                Play
Track :     1/12          1m20s>
        My   sweet   candy
Album :
 My  Best    100
Artist :
        Happy  PanPot
Data :
        MP3    160kbps
```

再生を停止するには：
リモコンの■ボタンを押します。

再生を一時停止するには：
リモコンの❚❚ボタンを押します。

曲を選ぶには：
リモコンの⏮/⏭ボタンを押します。
⏭ボタンを押すと次の曲を選びます。
⏮ボタンを押すと、現在再生中の曲の頭へ、さらに押すとひとつ前の曲に戻ります。
数字ボタンで曲を選ぶこともできます。

例：
曲番3を選ぶには、数字ボタンの3を押します。
曲番10を選ぶには、数字ボタンの0を押します。
曲番37を選ぶには、Capsボタンを押してから3、7を押します。
曲番123を選ぶには、Capsボタンを2回押してから1、2、3を押します。

早送り、早戻しをするには：
リモコンの▶▶ボタンを押し続けると早送りをします。
◀◀ボタンを押し続けると早戻しをします。曲の最初まで戻ると、通常再生が始まります。

再生曲リストを表示するには：
再生中に、◀ボタンを押すと、OSDに現在聞いているトラックリストが表示されます。

聞きたい曲を検索する

アルバム別、アーティスト別、ジャンル別、プレイリスト別に再生することができます。
プレイリストではお好みの曲をお好みの順で再生できます。プレイリストを使用するには、パソコンでお好みの曲をオリジナルのプレイリストに登録しておいてください。

1

リモコンのAlbum、Artist、Genre、Playlistボタンのいずれかを押す

Displayボタンを押してから、▲/▼ボタンで種類を選び、Enterボタンを押しても操作することができます。

2

▼/▲ボタンを押して再生したい「項目」を選び、Enterボタンを押す

頭文字で検索することもできます。
リモコンのCapsボタンを押すたびに文字の種類が切り換わります。

アルファベット（大文字、小文字）
数字ボタンを押すごとにボタンの上に記載されてる文字が切り換わります。
たとえば、2 ボタンを押すごとにA→B→C→Aと切り換わります。

カタカナ
数字ボタンを押すごとにボタンの上に記載されてる文字が切り換わります。
たとえば、2 ボタンを押すごとにカ→キ→ク→ケ→コと切り換わります。

1	ア→イ→ウ→エ→オ	6	ハ→ヒ→フ→ヘ→ホ
2	カ→キ→ク→ケ→コ	7	マ→ミ→ム→メ→モ
3	サ→シ→ス→セ→ソ	8	ヤ→ユ→ヨ
4	タ→チ→ツ→テ→ト	9	ラ→リ→ル→レ→ロ
5	ナ→ニ→ヌ→ネ→ノ	0	ワ→ヲ→ン

数字
数字ボタンを押すと数字が表示されます。数字が頭文字の曲を検索します。

3

▲/▼ボタンを押して再生したい曲を選び、Enterボタンを押す

再生が始まります。
◀ボタンを押すと1つ前の手順に戻ります。

！ヒント

- 本体のDisplayボタンを押すと、現在のリスニングモードを表示します。
- 本機で操作をしていますが、実際はNet-Tune Centralにデータを転送しています。本機で操作をしてからNet-Tune Centralが動作するまでに時間がかかることがあります。

いろいろな再生モード

■ランダム（Random）再生

1

Random

停止中にリモコンのRandomボタンを押す

押すたびに「On」と「Off」が切り換わります。

On：トラックリストに入っている曲をランダム再生します。
Off：ランダム再生を解除します。

2

▶ボタンを押す

ランダム再生が始まります。

■リピート（Repeat）再生

1

Repeat
Pure A

リモコンのRepeatボタンを押す

押すたびにリピート再生の種類が切り換わります。

Repeat 1：1曲だけをくり返し再生します。
Repeat All：トラックリストの全ての曲をくり返し再生します。
Repeat Off：リピート再生を解除します。

ミュージックサーバーの設定

入力ソースにインターネットラジオまたはミュージックサーバーを選んでいるときに、ミュージックサーバーの設定をします。

1

Scroll Wheelを押してから Setupボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

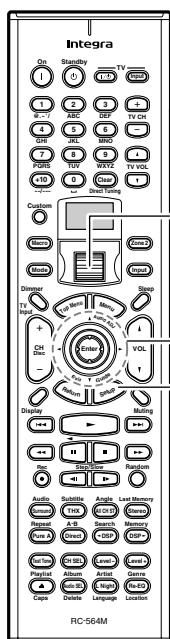
2

▲/▼ボタンを押して設定する「メニュー」を選び、Enterボタンを押す

Basicメニューが表示されたときは、▼ボタンで「→Advanced Menu」を選び、Enterボタンを押してAdvancedメニューを表示させてください。

3

▲/▼ボタンを押して設定したいアルファベットの「サブメニュー」を選び、Enterボタンを押す

設定画面が表示されます。

4

▲/▼ボタンを押して設定したい「項目」を選び、◀/▶ボタンで調整する

5

Setupボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

本体の入力切換ボタン、Setupボタン、▲/▼ボタン、Enterボタンでも操作することができます。

サーバーを選ぶ（2-1. Music Server）

Main menu→2. Input Setup→1. Music Server→a. Select Server

a. Select Server

ネットワーク上に存在するミュージックサーバーを選びます。ネットワークで検出されたサーバーは頭に＊マークが付きます。
付いていない場合は、サーバーが検出されていないため、サーバーが起動しているか確認してください。
選んだ後、▼ボタンで「→ＯＫ」を選び、Enterボタンを押して確定します。

ネットオーディオ使用時のOSDを設定する（2-2. Playback OSD Display）

Main menu→2. Input Setup→2. Playback OSD Display→a. Playback OSD Display

a. Playback OSD Display

再生時のOSD表示を設定します。

Full：再生している曲の情報をすべてOSDに表示します。
Simple：再生している曲の情報を簡潔に2行でOSDに表示します。
Off：OSD表示をしません。

ご注意

67ページの「4-3. OSD Setup（OSDの設定）」の「d. Display Position」は働きません。

ネットワークに関する設定

ブロードバンドルータ（DHCP機能）をお使いの方は、本機の初期設定でDHCP機能が「オン」になっていますので、「5.Network Setup」の設定は必要ありません。
ブロードバンドルータのDHCP機能を「オフ」にしたときは、ネットワークの設定を行う必要があります。その場合、ネットワークに関する知識が必要です。

DHCP（ダイナミック・ホスト・コンフィグレーション・プロトコル）およびAuto IPとは

本機やパソコン、ブロードバンドルータのようなネットワーク機器に、自動的にIPアドレス等のネットワーク設定を行う仕組みのこと。

DNS(ドメインネームシステム）とは

ホームページの閲覧時に使用する「www.onkyo.com/jp/」のようなドメイン名を、実際の通信に使用する「210.199.170.69」などのIPアドレスに置き換える仕組みのこと。

IPアドレスの設定をする（5-1. I P Address）

Main menu→5. Network Setup→1. IP Address

a. DHCP/AUTO IP

DHCP、AUTO IPの設定を自動で行うかどうかを設定します。

On：ブロードバンドルータ（DHCP機能）をお使いの場合に選びます。
ネットワークの設定を自動で行うため、「b」以降の設定を行う必要はありません。

Off：ネットワーク設定を手動で行います。「b.」以降の設定も必要です。

b. IP Address

「a. DHCP/AUTO IP」の設定でOffを選択した場合に設定します。
xDSLモデムやターミナルアダプタを直接本機に接続している場合は、プロバイダから書面等で通知されたIPアドレスを入力します。入力するIPアドレスは下記の範囲で設定してください。下記以外のIPアドレスではネットオーディオ機能を使用することができません。

CLASS A：10.0.0.0～10.255.255.255
CLASS B：172.16.0.0～172.31.255.255
CLASS C：192.168.0.0～192.168.255.255

一般に販売されているほとんどのルータではCLASS Cの範囲で設定されております。

c. SUBNET Mask

「a. DHCP/AUTO IP」の設定でOffを選択した場合に設定します。
xDSLモデムやターミナルアダプタを直接本機に接続している場合は、プロバイダから書面等で通知されたサブネットマスクを入力します。
通常は、255.255.255.0が入ります。

d. Gateway

「a. DHCP/AUTO IP」の設定でOffを選択した場合に設定します。
xDSLモデムやターミナルアダプタを直接本機に接続している場合は、プロバイダから書面等で通知されたゲートウェイアドレスを入力します。

e. 1st（DNS Server）f. 2nd（DNS Server）

「a. DHCP/AUTO IP」の設定でOffを選択した場合に設定します。
xDSLモデムやターミナルアダプタを直接本機に接続している場合は、プロバイダから書面等で通知されたDNSアドレスを入力します。また、ゲートウェイ（ルータ）に接続している場合はそのIPアドレスを入力します。
プロバイダから書面等で通知されたDNSアドレスが1つの場合は「e. 1st」に入力してください。2つ以上の場合は1つを「f.2nd」に入力してください。

設定を終えたらReturnボタンを押して「Network Setupメニュー」に戻ります。
▲/▼ボタンで→Save Settingsを選び、▶ボタンを押して設定項目を保存します。
設定後、データを記憶するのに数秒かかります。この間に電源を切るとデータが消えてしまいますのでご注意ください。

設定の操作方法については、76ページをご覧ください。

プロキシの設定をする（5-2. Proxy Setup）

Main menu→5. Network Setup→2. Proxy Setup

インターネットにプロキシサーバーを介して接続する場合に設定します。

a. Proxy Server

契約しているISP(インターネット・サービスプロバイダ)によっては、インターネットに接続するためにプロキシサーバーを介する必要のある場合があります。その場合はプロバイダから書面等で通知されたプロキシ設定の通りに設定してください。

On：プロキシサーバーを介します。
Off：プロキシサーバーを介しません。

b. Proxy Address

プロキシサーバーのドメイン名を入力します。
「a. Proxy Server」の設定でOnに設定したときに、この項目を選んでEnterボタンを押すと、文字入力モードになります。
▲/▼/◀/▶ボタンで文字を選び、Enterボタンを押します。
全ての文字を入力すると、文字入力モードは解除されます。

c. Proxy Port

プロキシサーバーのポート番号を入力します。
「a. Proxy Server」の設定でOnに設定したときに、この項目を選んでEnterボタンを押すと文字入力モードになります。
▲/▼/◀/▶ボタンで数字を選び、Enterボタンを押します。
全ての数字を入力すると、数字入力モードは解除されます。

ご注意

設定を終えたらReturnボタンを押して「Network Setupメニュー」に戻ります。
▲/▼ボタンで→Save Settingsを選び、▶ボタンを押して設定項目を保存します。
設定後、データを記憶するのに数秒かかります。この間に電源を切るとデータが消えてしまいますのでご注意ください。

マックアドレスを確認する（5-3. MAC Address）

Main menu→5. Network Setup→3. MAC Address

a. MAC Address

MACアドレスを確認します。MACアドレスを変更することはできません。

クライアントの設定をする（5-4. Client Setup）

Main menu→5. Network Setup→4. Client Setup

情報を送る側のサーバーに対して、情報を受け取る側の機器のことを「クライアント」と呼びます。
1つのサーバーに対して、複数台のクライアントがある場合もあります。
Net-Tune Cetntralから見た場合、本機はクライアントとなります。

a. Client Name

Net-Tuneシステム上での呼び名を確認します。
クライアント名はあらかじめ本機で設定されています。変更することはできません。

b. Wakeup on LAN

本機がスタンバイ状態のとき、ネットワークの接続を設定します。

On：接続したままにします。
Off：本機がスタンバイ状態のときはネットワークを切断し、待機電力をカットします。

c. NTSP Port

Net-Tune Centralと通信するためのTCP/IPポートを設定します。互いに通信を行うポートを決めるためのもので、Net-Tune Central側の設定とあわせる必要があります。ポート番号は特別な事情がないかぎり変更しないでください。
▲/▼/◀/▶ボタンで数字を選び、Enterボタンを押します。
全ての数字を入力すると、数字入力モードは解除されます。

ご注意

設定を終えたらReturnボタンを押して「Network Setupメニュー」に戻ります。
▲/▼ボタンで→Save Settingsを選び、▶ボタンを押すと、77ページからの「ネットワークに関する設定」の設定項目を保存します。設定後、データを記憶するのに数秒かかります。この間に電源を切るとデータが消えてしまいますのでご注意ください。

仕様
イーサネットポート：10BASE-T
ファイルタイプ：MP3、WMA、WAV
(非圧縮、サンプリング周波数32ｋ、44.1ｋ、48ｋHzに対応)
（WMAについてはコンテンツ保護されているものは再生できません）

設定の操作方法については、76ページをご覧ください。

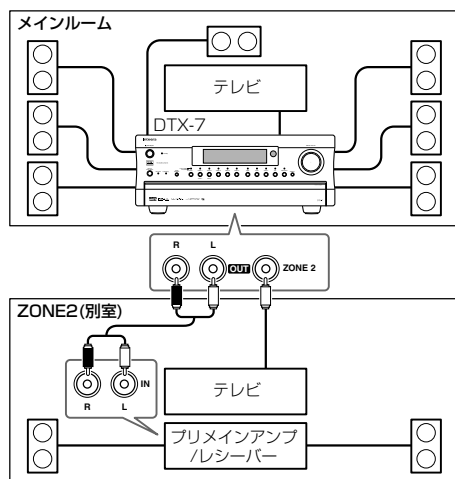
ZONE 2（別室）で映画・音楽を鑑賞する

ZONE 2（別室）用スピーカーを接続する

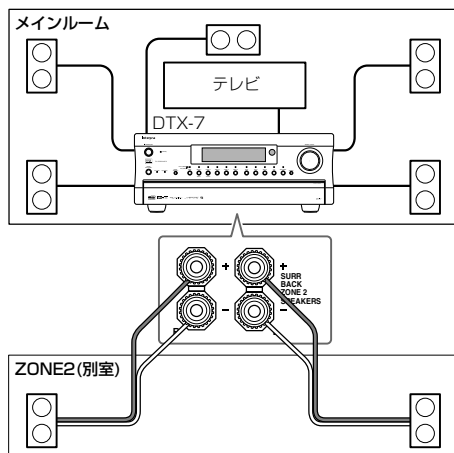
ZONE 2端子にスピーカーやアンプを接続すると、別室で異なるソースをお楽しみいただくことができます。
ZONE 2で音楽をお楽しみ頂くには、3つの接続方法があります。

プリメインアンプまたはレシーバーを接続する場合

- メインルームで7.1チャンネル再生しながら別室で、異なるソースを再生できます。
- 音量は別室で使用するプリメインアンプまたはレシーバーで調整してください。

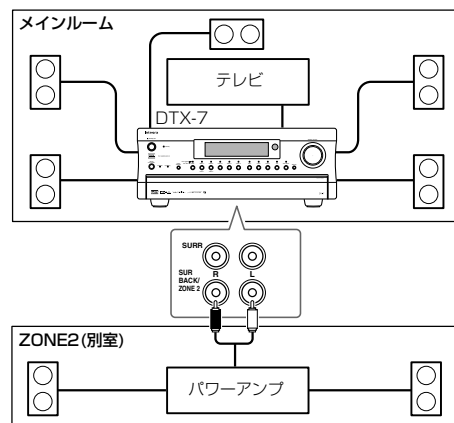
別室で映像を見るには、ビデオコードでモニターを本機のVIDEO ZONE 2端子に接続します。
オーディオ用ピンコードでプリメインアンプまたはレシーバーの音声プリ入力端子と本機のAUDIO ZONE2 OUT端子を接続します。
別室で使用するスピーカーはプリメインアンプまたはレシーバーに接続します。

スピーカーだけを接続する場合

- メインルームで5.1チャンネル再生しながら別室で、異なるソースを再生できます。
- 80ページ「ZONE 2（別室）にスピーカーを割り当てる」で「Zone 2」に設定してください。
- 音量は本機で調整します。

別室で映像を見るには、ビデオコードでモニターを本機のVIDEO ZONE 2端子に接続します。

パワーアンプを接続する場合

- メインルームで5.1チャンネル再生しながら別室で、異なるソースを再生できます。
- 80ページ「ZONE 2（別室）にスピーカーを割り当てる」で「Zone 2」に設定してください。
- 音量は本機で調整します。

別室で映像を見るには、ビデオコードでモニターを本機のVIDEO ZONE 2端子に接続します。

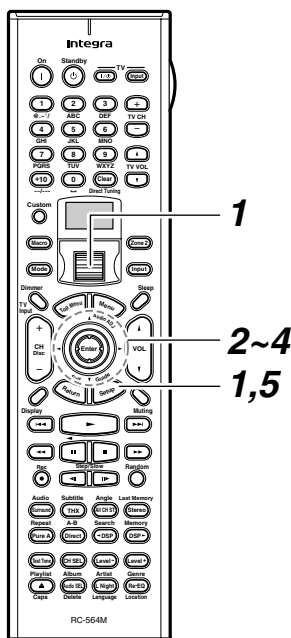
- オーディオ用ピンコードでパワーアンプの音声入力端子と本機のPRE OUT SURR BACK/ZONE 2 L/R端子を接続します。

他機の12Vトリガー入力端子と接続する

本機がZONE 2モードのとき、この端子から12V/100mAの電圧/電流を出力します。
12Vトリガー入力端子と本機の12V TRIGGER OUT/ZONE 2端子を接続します。
本機がZONE 2モードになると接続した機器にコントロール信号を送り、接続した機器の電源をオンにすることができます。

ZONE 2（別室）で映画・音楽を鑑賞する

ZONE 2を設定する

ZONE2（別室）にスピーカーを割り当てる

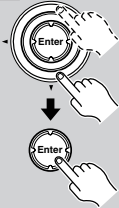
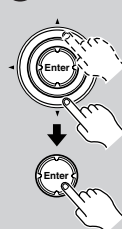
本機はSURR BACK/ZONE 2 PRE OUT端子にパワーアンプを接続したり、SURR BACK/ZONE 2 SPEAKER端子に接続したスピーカーを使って別室で楽しむことが出来ます。
サラウンドバック用端子と共用しているため、ZONE 2(別室)で使うには設定を変更する必要があります。

1

Scroll Wheelを押してから Setupボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

Basicメニューが表示されたときは、▼ボタンで「→Advanced Menu」を選び、Enterボタンを押してAdvancedメニューを表示させてください。

2

▲/▼ボタンを押して「0. Hardware Setup」を選び、Enterボタンを押す

3

▲/▼ボタンを押して「2. Surr Back/Zone2」を選び、Enterボタンを押す

設定画面が表示されます。

4

▲/▼ボタンを押して設定したい「a. Surr Back/Zone2」を選び、◀/▶ボタンで設定を選ぶ

Surr Back：
SURR BACK/ZONE 2 SPEAKER端子に接続したスピーカーをメインルームでサラウンドバックスピーカーとして使用するときに選択します。

Zone 2：
SURR BACK/ZONE 2 SPEAKER端子に接続したスピーカーをゾーン2(別室)で使用するときに選択します。

!ヒント

前ページ「プリメインアンプまたはレシーバーを接続する場合」の設定は「Surr Back」にしてください。

ご注意

- 「Zone 2」に設定すると、サラウンドバックスピーカーが必要なリスニングモード（ドルビーデジタルEX、THXサラウンドEX、DTS-ES）は選択できません。
- 一度Zone 2に設定すると、メインルームでのサラウンドバックスピーカーは自動的に「None」に設定されます。
「Surr Back」に設定を戻すときは、36ページの「スピーカー環境」をもう一度設定し直してください。

5

Setupボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

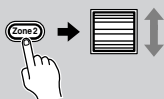
本体の入力切換ボタン、Setupボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enterボタンでも操作することができます。

別室で映画・音楽を鑑賞する

1

ZONE 2の電源を入れる

メインルームで、本機のリモコン受光部に向けてリモコンで操作します。
リモコンのZone 2ボタンを押してから、Onボタンを押します。

2

ソースを選ぶ

Zone 2ボタンが光っているときにScroll Wheelを回して、ソースを選びます。（消灯しているときは、Zone 2ボタンを押します。）
ZONE 2（別室）のみソースが切り換わります。

- チューナーを選んだ場合は、CH Disc＋/－ボタンでプリセットチャンネルを選ぶことができます。
- 本体では、Zone 2ボタンを押してから8秒以内に入力切換ボタンを押します。

ZONE 2とメインルームのソースを同時に切り換えるには

Zone 2ボタンを（くり返し）押して「Z2Sel：SOURCE」と表示させてからScroll Wheelで切り換えます。

本体で音量を調整する

Zone 2 Level◀/▶ボタンを押す

リモコンで音量を調整する

Zone 2ボタンを押してから、5秒以内にLevel－/＋ボタンを押して調節する。（本体のStandbyインジケーターが点滅中に調節します。）

!ヒント

プリメインアンプまたはレシーバーの音声プリ入力端子と本機のAUDIO ZONE2 OUT端子を接続した場合は、接続したプリメインアンプで音量を調節します。

ご注意

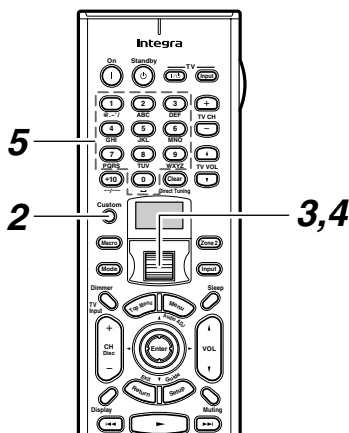
- メインルームでのスリープタイマーはZONE 2（別室）でも働きます。ZONE 2のみにスリープタイマーを働かせるには、メインルームで本機のスリープタイマーを設定した後、本機をスタンバイ状態にします。
- ZONE 2端子はアナログ出力のため、デジタル音声は出力されません。選んだソースの音声が聞こえない場合は、その機器がアナログ（L/R）端子に接続されているか確認してください。
- ZONE 2を使用中、メインルームでRec Outボタンを押すと、録音準備になるためZONE 2での再生は停止します。
- 80ページで「Zone 2」に設定したとき、メインルームで7.1チャンネル再生はできません。
- ZONE 2使用時、RIによるシステム連動は働きません。
- ZONE 2使用時はメインルームでPure Audioを選ぶことはできません。
- ZONE 2機能を使わないときは、本体のZone 2ボタンを押してからOffボタンを押して緑色のインジケーターを消してください。
  リモコンではZone 2ボタンを押してからStandbyボタンを押します。
- Zone 2ボタンを押した後、5秒間は本機のStandbyインジケーターが点滅します。これは Zone 2が操作待機中のため、この間はメインルームでの操作はしないでください。

接続した製品を本機のリモコンで操作する

本機に付属のリモコン（RC-564M）で、他社の製品を操作したり、連続した操作を学習させることができます。操作するには次の3つの方法があります。

- **他機（DVD、テレビ、ビデオ）のリモコンコードを登録する**
- **他機のリモコンから指定した操作を学習させる**
- **マクロ機能を使って連続した操作を学習させる**

リモコンコードを登録する

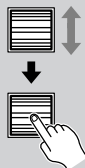
他機のリモコンコードを本機のリモコンの「Mode（モード）」に登録すると、本機のリモコンで他機を操作することができます。「DVD」、「TV」、「VCR（ビデオ）」、「CBL（ケーブル）」、「SAT（サテライト）」のいずれかのMODEボタンに機器のリモコンコードを登録させることができます。

1

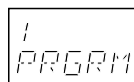
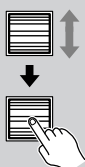
登録する他機のメーカー別リモコンコード（4桁）を83ページのリモコンコード表で確かめる

2

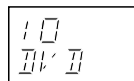
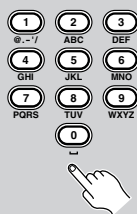
Custom（カスタム）ボタンを3秒以上押す

リモコンがカスタムモードになります。

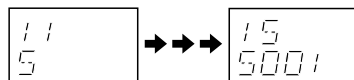
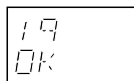
3

Scroll Wheel（スクロール ホィール）を回して「プログラムメニュー」を選び、Scroll Wheelを押す

4

Scroll Wheelを回して「登録したいモード」を選び、Scroll Wheelを押す

「DVD」、「TV」、「VCR（ビデオ）」、「CBL（ケーブル）」、「SAT（衛星放送）」の中から選べます。

10
DVD

5

数字ボタンで4桁のリモコンコードを入力する

正しく登録された場合

19
OK

と表示された後、通常の表示に戻ります。

正しく登録されていない場合

RETRY（リトライ）と表示された後、コード入力表示に戻ります。

6

他機を操作する

登録した機器に向けて操作してください。

!ヒント

途中でやめるには、Customボタンを押します。

オンキヨー製DVDプレーヤーのコードを登録するときは…

次の2種類のコード番号があります。DVDプレーヤーの使用方法に応じて選択してください。

5001 ：オーディオ用ピンコードとRIケーブルの両方を接続している場合に使用します。初期設定は「5001」になっていますのでRI接続している場合はこのままご使用ください。リモコンは本機のリモコン受光部に向けて操作します。

5002 ：接続しているDVDプレーヤーにRI端子がついていない、またはRIケーブルを接続していない場合に使用します。

リモコンコード表

複数のコード番号があるときは、1つずつ登録し、機器に合った方を選んでください。

DVD（DVDプレーヤー）

ブランド名	コード番号
アイワ	5010
インテグラ	5001, 5002
インテグラリサーチ	5001, 5002
Apex	5015, 5016
デノン	5017, 5020
日立	5009
日本ビクター（JVC)	5023
ケンウッド	5017
マグナボックス	5004
マランツ	5025, 5026
三菱	5005
オンキヨー	5001, 5002
パナソニック	5011, 5017, 5020
フィリップス	5004
パイオニア	5006
プロスキャン	5003
RCA	5003
サンヨー	5012
ソニー	5007, 5013
トムソン	5022, 5024
東芝	5008
ヤマハ	5020
Xbox	5022

SAT（衛星放送チューナー）

ブランド名	コード番号
日本ビクター(JVC)	4009
パナソニック	4006
プロスキャン	4001, 4002
RCA	4001, 4002
ソニー	4005
東芝	4004

CBL（ケーブルテレビ）

ブランド名	コード番号
日立	3002
Magnavox	3014
NEC	3003
パナソニック	3020
フィリップス	3007, 3008, 3014
パイオニア	3017
プロスキャン	3001, 3002
RCA	3004, 3020
サムスン	3017

機器によっては、動作が異なる場合があります。

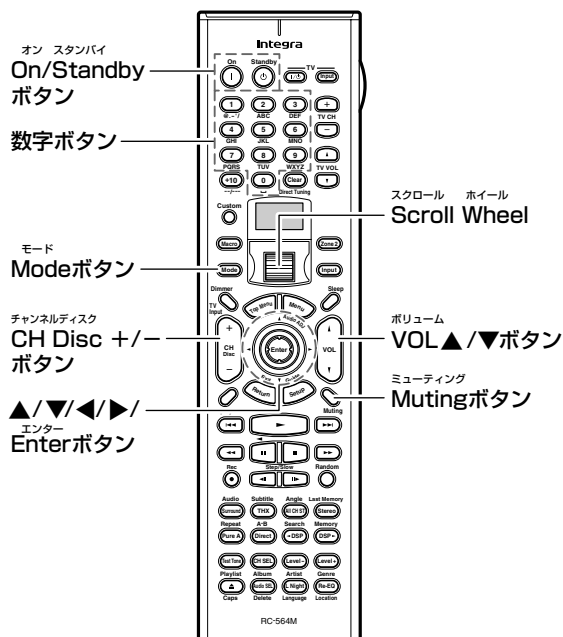
VCR（ビデオデッキ）

ブランド名	コード番号
アイワ	2012,
フナイ	2012
日立	2013
日本ビクター（JVC)	2005, 2006, 2007, 2009
三菱	2013
NEC	2005, 2006, 2007, 2009
パナソニック	2010, 2011
フィリップス	2010, 2014, 2017
パイオニア	2006, 2013
サムスン	2008
サンヨー	2007, 2008
シャープ	2016, 2017
ソニー	2004, 2018
東芝	2013, 2015, 2048

TV（テレビ）

ブランド名	コード番号
フナイ	1009
日立	1004, 1006, 1007, 1013
日本ビクター（JVC)	1007, 1012, 1013, 1015
三菱	1004, 1005, 1006, 1008
NEC	1003, 1004, 1005,1006
Orion	1029
パナソニック	1003, 1012, 1014
フィリップス	1003, 1004, 1007, 1008 1014, 1018
パイオニア	1004, 1006
富士通	1070
サムスン	1004, 1005, 1006,1007 1008
サンヨー	1004, 1010, 1017
シャープ	1004, 1006, 1007
ソニー	1002, 1030, 1032
東芝	1010, 1016, 1017

接続した製品を本機のリモコンで操作する

BSチューナーを操作する

ご注意

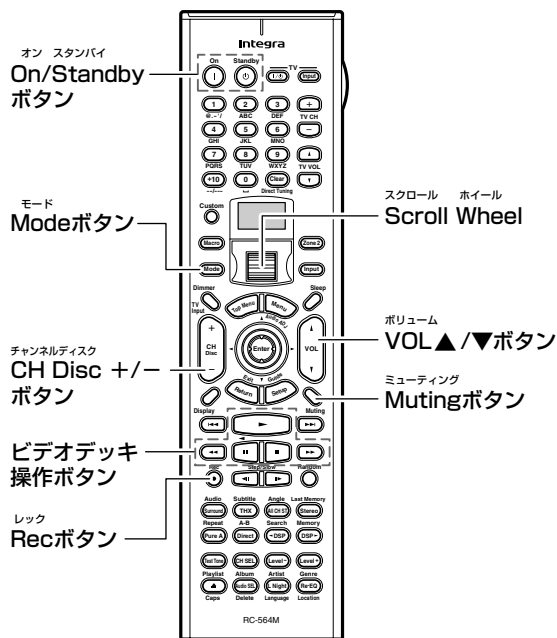
リモコン送信部をBSチューナーのリモコン受光部に向けて操作してください。

1. Modeボタンをしてから、Scroll Wheelを回して「SAT」を選ぶ
2. 各操作ボタンを押す

操作ボタン（リモコンコード記憶後）

On/Standby	：BSチューナーの電源ON/OFF
CH Disc +/−	：プリセット局の選局
▲▼◀▶	：カーソル移動
Enter	：決定
0、1〜9	：数字ボタン

下記のボタンも操作することができます。

VOL ▲/▼	： 本機の音量調整
Muting	： 本機のミューティング

ビデオデッキを操作する

1. Modeボタンをしてから、Scroll Wheelを回して「VCR」を選ぶ
2. 各操作ボタンを押す

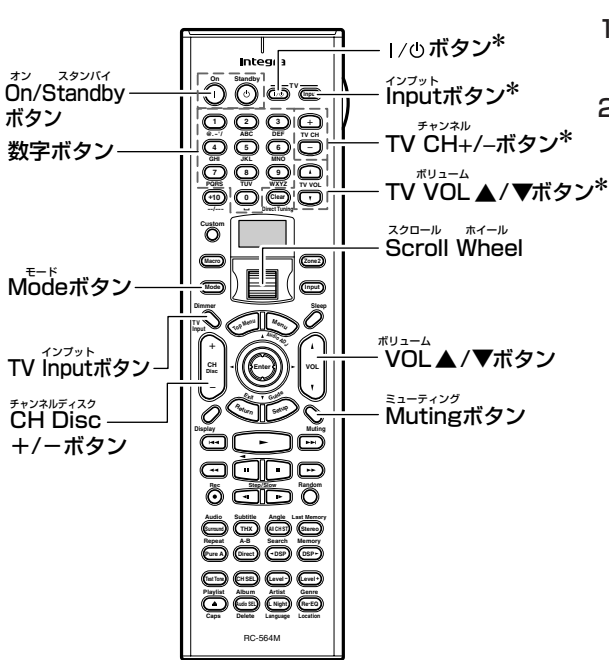
On/Standby ：ビデオデッキの電源ON/OFF

操作ボタン（リモコンコード記憶後）

CH Disc +/−	： プリセット局の選局
▶	：再生
■	：停止
◀◀	：巻戻し
▶▶	：早送り
❚❚	：一時停止
●Rec	： 録音

下記のボタンも操作することができます。

VOL ▲/▼	： 本機の音量調整
Muting	： 本機のミューティング

テレビを操作する

1. Modeボタンをしてから、Scroll Wheelを回して「TV」を選ぶ
2. 各操作ボタンを押す

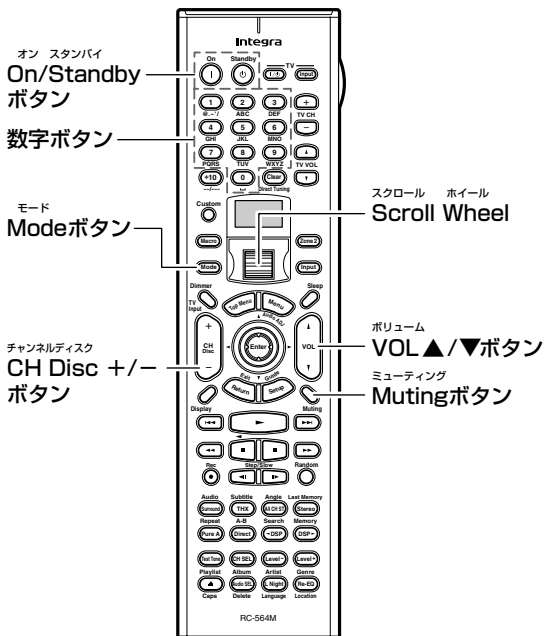
操作ボタン（リモコンコード記憶後）

On/Standby	：テレビの電源ON/OFF
I/⏻	：TVの電源を入/切
Input	：テレビの入力切換
TV Input	：テレビの入力切換
TVCH +/−	：チャンネル選択
0,1〜9	：数字ボタン
TV VOL ▲/▼	：テレビの音量調整

下記のボタンも操作することができます。

▲/▼	：テレビの音量調整
Muting	：テレビのミューティング
CH Disc +/−	：チャンネル選択

＊のついたボタンは、リモコンコードが「TV」になっていなくても操作できますが、追加したTVモード（☞88ページ）では動作しません。

ケーブルテレビを操作する

1. Modeボタンをしてから、Scroll Wheelを回して「CBL」を選ぶ
2. 各操作ボタンを押す

操作ボタン（リモコンコード記憶後）

On/Standby	：ケーブルテレビの電源ON/OFF
CH Disc +/−	：プリセットチャンネルの選局
0,1〜9	：数字ボタン

下記のボタンも操作することができます。

VOL ▲/▼	：本機の音量調整
Muting	：本機のミューティング

接続した製品を本機のリモコンで操作する

他機のリモコンから指定した操作を学習させる

他機のリモコンの操作を１つずつ転送し、本機のリモコンに学習させることができます。
82ページでリモコンコードを登録した後で、不足している操作や追加したい操作を1つずつ学習させると便利です。

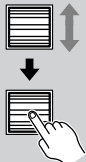
他機のリモコンから学習させる

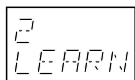
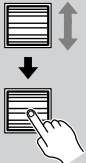
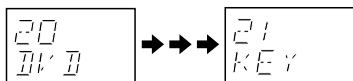
たとえば、他機のCDプレーヤーのリモコンから再生、停止の機能をそれぞれ転送し、本機リモコンのCDモードの再生、停止ボタンに学習させることができます。

1

Customボタンを3秒以上押す

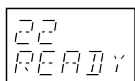
リモコンがカスタムモードになります。
- カスタムモードから抜けるには、もう一度Customボタンを押します。

2

Scroll Wheelを回して「ラーニングメニュー」を選び、Scroll Wheelを押す

3

Scroll Wheelを回して学習させたい「モード」を選び、Scroll Wheelを押す

4

RC-564Mの学習させたい操作ボタンを押す

「LIGHT」、「Custom」、「Macro」、「Mode」、「Input」、「Zone 2」、「Scroll Wheel」以外のボタンから選べます。

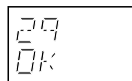
22
READY

学習できないボタンを押すと「RETRY」と表示されます。

5

学習させる他機のリモコンボタンを押す

他機のリモコンと本機のリモコン（RC-564M) を5cm～15cm離して置き、他機のリモコンボタンを本機のリモコンに向かって押し続けます。

正しく登録された場合

29
OK

と表示されます。

正しく登録されていない場合

「FAIL」と表示された後、手順***3***に戻ります。続けて別の操作ボタンを学習させる場合は手順***3***～***5***をくり返します。

学習を終了する場合はCustomボタンを押します。

ご注意

- 本機のリモコンは、基本的に150個の操作を学習できます。他機のリモコンによっては、ひとつのボタンで多くのエリアを使用する場合があります。その場合は学習できるエリアは150個より少なくなります。
- FULLと表示された場合は本機のリモコンが学習できる容量を超えています。
- 本機のリモコンは、オンキヨー製ＣＤプレーヤー、テープデッキ、ＤＶＤプレーヤー、ＭＤレコーダー、CDレコーダーのコードをすでに記憶しています。これらのボタンに他のコードを記憶させることもできますが、リセットすると（90ページ）元のコードに戻ります。
- コードが登録されているボタンに、新しいコードを上書きして記憶する時も同じ手順で操作します。
- 本機のリモコンはほとんどのリモコンと同様に赤外線を利用しています。しかし、リモコンによっては、転送システムの違いによってコードを転送できないものがあります。
- 電池切れなどの理由でリモコンコードが消えてしまった場合のために、他機のリモコンは大切に保管しておいてください。

マクロ機能を使って連続した操作を学習させる

マクロ機能とは

連続した操作を1つのボタンに学習させることができます。たとえば、リモコンを使って本機に接続したCDプレーヤーを再生するには以下のようなボタン操作が必要となります。

1. Scroll Wheelを押す（リモコンをアンプモードにする）
2. Onボタンを押す（本機の電源を入れる）
3. Scroll Wheelを回して「CD」を表示させる（リモコンをCDモードにし、InputをCDに切り換える）
4. ▶ボタンを押す（CDプレーヤーを再生する）

これらの操作を下記の手順でマクロ学習させると、1つのボタンで操作することができます。

マクロを学習させる

8通りのマクロを学習させることができます。
1つのマクロに対して8つの操作が学習できます。

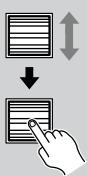
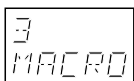
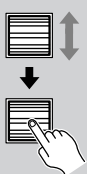
1

Customボタンを3秒以上押す

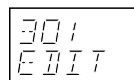
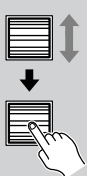
リモコンがカスタムモードになります。
- カスタムモードから抜けるには、もう一度Customボタンを押します。

2

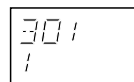
Scroll Wheelを回して「マクロメニュー」を選び、Scroll Wheelを押す

3

Scroll Wheelを回して「EDITメニュー」を選び、Scroll Wheelを押す

301
EDIT

4

Scroll Wheelを回して「マクロを学習させたい番号」を選び、Scroll Wheelを押す

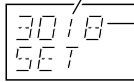
301
1

3011
KEY

マクロ1が学習しています。
1～8まで学習できます。

1つ目の操作を学習します。
最大8つの操作まで学習できます。

5

記憶させたい操作ボタンを操作順に連続して押す

例：Scroll Wheelを押す→ Onボタンを押す→ Scroll Wheelを回して「CD」を表示させる→ Scroll Wheelを押す→ ▶ボタンを押す

ボタンを押すたび、「SET」と表示された後、「KEY」と表示されます。

マクロにInputやZone 2切り換えを学習させるには
InputボタンまたはZone 2ボタンを押してからScroll Wheelを回し、Scroll Wheelを押します。

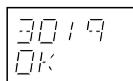
6

Macroボタンを押す

Macroボタンを押すと学習が完了し、以下のように表示された後、通常の表示に戻ります。

3019
OK

マクロを実行する

1

Macroボタンを押してScroll Wheelを回し、「マクロ番号」を選ぶ

2

Scroll Wheelを押す

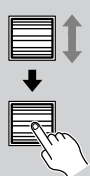
マクロモードに名前をつける

学習させたマクロモードに名前をつけることができます。

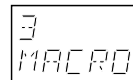
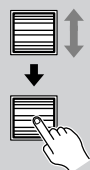
1

Customボタンを3秒以上押す

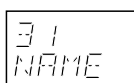
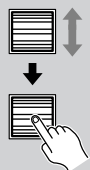
リモコンがカスタムモードになります。

2

Scroll Wheelを回して「マクロメニュー」を選び、Scroll Wheelを押す

▷次ページに続く

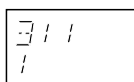
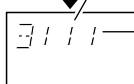
3

Scroll Wheelを回して「NAMEメニュー」を選び、Scroll Wheelを押す

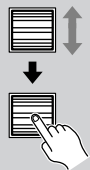
3 1
NAME

4

Scroll Wheelを回して「名前をつけたいマクロ番号」を選び、Scroll Wheelを押す

3 1 1
1

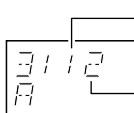
マクロ1の名前をつけます。

3 1 1 1

1文字目を登録します。最大5文字まで登録できます。

5

アルファベットを入力する

Scroll Wheelを回して入力する文字を選び、Scroll Wheelを押します。

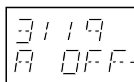
入力できる文字：
0、1、2、3、4、5、6、7、8、9、A、B、C、D、E、F、G、H、I、J、K、L、M、N、O、P、Q、R、S、T、U、V、W、X、Y、Z、＋、－、＝、<、>、＿、￣、／、＼、＊、スペース

3 1 1 2
A

マクロ1の名前をつけています。

1文字目を登録しました。2文字目入力待ちです。

6

手順*5*で5文字入力すると入力した名前を表示した後、通常の表示に戻る

3 1 1 9
A OFF

入力した名前

5文字に満たない場合はスペースを入力し、5文字にしてください。

リモコンモードを編集する

リモコンモードを追加する

「DVD」「TV」「VCR」「CBL」「SAT」モードをさらに追加することができます。
本機にDVDやテレビを複数台接続している場合に便利です。

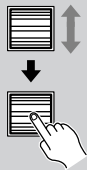
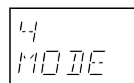
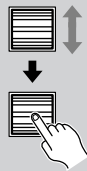
1

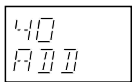
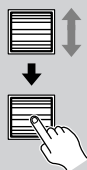
Customボタンを3秒以上押す

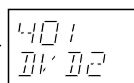
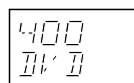
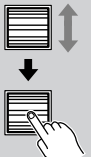
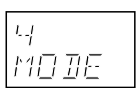
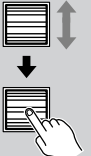
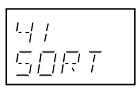
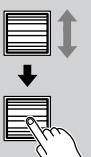
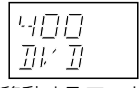
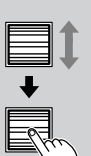
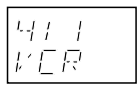
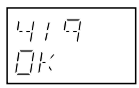
リモコンがカスタムモードになります。
- カスタムモードから抜けるには、もう一度Customボタンを押します。

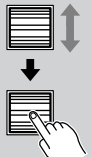
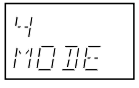
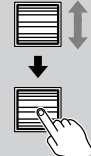
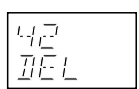
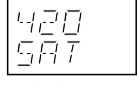
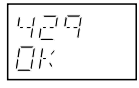
2

Scroll Wheelを回して「MODEメニュー」を選び、Scroll Wheelを押す

3

Scroll Wheelを回して「ADD(追加)メニュー」を選び、Scroll Wheelを押す

4

Scroll Wheelを回して「追加したい機器」を選び、Scroll Wheelを押す

「DVD」「TV」「VCR」「CBL」「SAT」から選べます。
全部で8つまで追加できます。DVDは4つまで、TVは2つまで、VCRは1つ、CBLは1つ追加することができます。

リモコンモードを並べ換える

Scroll Wheel（スクロール ホィール）を回したときにリモコンモードの表示する順序を並べ換えることができます。
「AMP（アンプ）モード」は変更できません。

1

Custom（カスタム）ボタンを3秒以上押す

リモコンがカスタムモードになります。
- カスタムモードから抜けるには、もう一度Customボタンを押します。

2

Scroll Wheel（スクロール ホィール）を回して「MODE（モード）メニュー」を選び、Scroll Wheelを押す

3

Scroll Wheelを回して「SORT（ソート）（並べ換え）メニュー」を選び、Scroll Wheelを押す

4 1
SORT

4

Scroll Wheelを回して「移動させたいモード」を選び、Scroll Wheelを押す

400
DVD

(移動するモード)

5

Scroll Wheelを回して「移動先のモード」を選び、Scroll Wheelを押す

ここで選択したモードの前に移動します。この場合、VCRの前にDVDが表示されます。

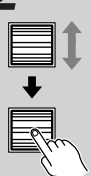
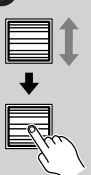
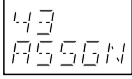
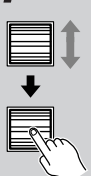
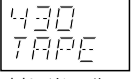
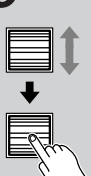
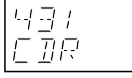
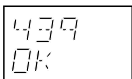
41 1
VCR

正しく登録された場合

419
OK

と表示された後、手順***3***の表示に戻ります。

リモコンモードを消去する

接続していない機器など、不要なリモコンモードを消去することができます。
「AMP（アンプ）モード」は消去できません。

1

Customボタンを3秒以上押す

リモコンがカスタムモードになります。
- カスタムモードから抜けるには、もう一度Customボタンを押します。

2

Scroll Wheelを回して「MODEメニュー」を選び、Scroll Wheelを押す

4
MODE

3

Scroll Wheelを回して「DEL（デリート）（消去）メニュー」を選び、Scroll Wheelを押す

42
DEL

4

Scroll Wheelを回して「消去したいモード」を選び、Scroll Wheelを押す

420
SAT

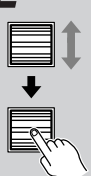
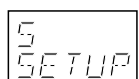
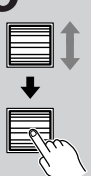
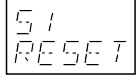
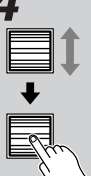
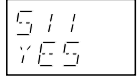
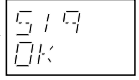
消去が完了します。

正しく消去された場合

429
OK

と表示された後、手順***3***の表示に戻ります。

リモコンモードを割り当てる

本機の入力ソースと異なる機器を接続した場合、リモコンモードを接続した機器に合わせて割り当てることができます。

例： CDレコーダーを本機のTAPE端子に接続した場合、CDレコーダーを再生したり、操作するにはInputを「TAPE」に、リモコンモードを「CDR」に切り換える必要があります。Inputを「TAPE」に、リモコンモードを「CDR」にあらかじめ割り当てておくと、簡単に操作することができます。

1

Custom

Custom（カスタム）を3秒以上押す

リモコンがカスタムモードになります。

2

Scroll（スクロール） Wheel（ホィール）を回して「MODE（モード）メニュー」を選び、Scroll Wheelを押す

4
MODE

3

Scroll Wheelを回して「ASSGN（アサイン）(割り当て)メニュー」を選び、Scroll Wheelを押す

43
ASSGN

4

Scroll Wheelを回して「割り当てたいInput（インプット）」を選び、Scroll Wheelを押す

(割り当て先のInput)

5

Scroll Wheelを回して「割り当てたいモード」を選び、Scroll Wheelを押す

この場合、リモコンを「CDR」モードにするとTAPE端子に接続した機器を操作できます。

431
CDR

正しく登録された場合

439
OK

と表示された後、手順**3**の表示に戻ります。

リモコンセットアップ

リモコン設定をリセットする

リモコンに関する設定をすべてリセットします。

1

Customボタンを3秒以上押す

リモコンがカスタムモードになります。

2

Scroll Wheelを回して「MODEメニュー」を選び、Scroll Wheelを押す

3

Scroll Wheelを回して「RESET（リセット）」を選び、Scroll Wheelを押す

51
RESET

4

Scroll Wheelを回して「YES（イエス）」を選び、Scroll Wheelを押す

すべての設定が消去され、お買い上げ時の設定に戻ります。

困ったときは

まず下の表で点検してみてください。接続した他機に原因がある場合もありますので、他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。
●文章の最後にある数字は参照ページです。

電源

電源が入らない

- 電源プラグがコンセントから抜けていないか確認してください。
- 一度電源プラグをコンセントから抜き、5秒以上待ってから再度コンセントに差し込んでください。

電源が切れ、再度電源を入れてもまた切れる

- 保護回路が働いている可能性があります。電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店またはサービスセンターにご連絡ください。

本体のInputインジケーターが消えない

Zone 2をOffにしてください。

本機をスタンバイ状態にしても、本機のAC OUTLETに接続した機器の電源が切れない

Zone 2をOffにしてください。

音声

音声が出力されない/小さい

- 接続コードのプラグは奥まで差し込んでください。
- 接続した機器の入力端子/出力端子に間違いがないか確認してください。
- スピーカーコードの+/−は正しく接続されているか、スピーカーコードの芯線部分が本機のスピーカー端子の金属部に触れているか確認してください。
- 入力が正しく選択できているか確認してください。（45）
- ボリューム位置を確認してください。本機は基本的に0〜100まで調整できます。
- 表示部に“MUTING”と表示されている場合はリモコンのMUTINGボタンを押して解除してください。（46）
- ヘッドホンが接続されているとスピーカーからの音声が出力されません。（46）
- 接続した機器でのデジタル音声出力の設定を確認してください。DVD対応のゲーム機など、機器によっては初期設定がOFFになっていることがあります。
- 音声信号の設定はされていますか。AUDIO SELECTORボタンで音声を選択してください。（47）
- MCカートリッジタイプのレコードプレーヤーをお使いの場合は、昇圧トランスまたはヘッドアンプが必要です。
- ケーブルが折れ曲がったり損傷していないか確認してください。
- リスニングモードによっては音声の出力されないスピーカーがあります。（48, 49）
- スピーカーの距離、音量設定を行ってください。（38, 39）

フロントスピーカーからしか音が出ない

- リスニングモードが「Stereo」になっているとフロントスピーカーとサブウーファーからしか音が出ません。（48）
- リスニングモードが「Direct」「Pure Audio」になっているとフロントスピーカーからしか音が出ません。（48）
- スピーカーの設定をしてください。（35〜39）

センタースピーカーからしか音が出ない

- TVやAM放送などモノラル音源を再生するときにサラウンドモードをPL II MOVIEまたはPL II MUSICにするとセンタースピーカーに音が集中します。違和感を感じるときは、他のリスニングモードを選んでください。
- スピーカーの設定をしてください。（35〜39）

サラウンドスピーカーから音が出ない

- リスニングモードが「Stereo」「Direct」「Pure Audio」のときはサラウンドスピーカーから音が出ません。（48）
- 再生するソースやリスニングモードによっては、音が出にくい場合があります。違和感を感じるときは、他のリスニングモードを選んでください。
- スピーカーの設定をしてください。（35〜39）

センタースピーカーから音が出ない

- リスニングモードが「Stereo」「Direct」「Pure Audio」のときはセンタースピーカーから音が出ません。（48）
- リスニングモードが「Orchestra」、「Mono」のときはセンタースピーカーから音が出ません。（49）
- スピーカーの設定をしてください。（35〜39）

サラウンドバックスピーカーから音が出ない

- リスニングモードによってはサラウンドバックスピーカーから音が出ません。（48, 49）
- EXモードをONに設定してください。（52）
- 再生するソースによっては音が出にくい場合があります。
- スピーカーの設定をしてください。（35〜39）

サブウーファーから音が出ない

- サブウーファー音声要素（LFE）の入っていないソフトを再生している場合は、サブウーファーから音が出ません。
- スピーカーの設定をしてください。（35〜39）

希望する信号フォーマットで音声出力ができない

- 音声信号の設定の確認を行ってください。再生する信号によって「Auto」、「Multich」、「Analog」、「DTS」、「PCM」を選択します。（47）
- 接続した機器でのデジタル出力の設定を確認してください。DVD対応のゲーム機など、機器によっては初期設定がOFFになっていることがあります。
- 入力される信号によっては選択できないリスニングモードがあります。（50）

DTS-ES Discrete/Matrix、THX Surround EXが選択できない

- サラウンドバックスピーカーを接続していないとき、またはZONE 2として使用しているときは選択できません。

6.1チャンネル/7.1チャンネル再生にならない

- サラウンドバックスピーカーを接続しているとき、またはZONE 2として使用しているときは6.1チャンネル再生、7.1チャンネル再生はできません。

音量調整が99以下で終わる

- 各スピーカーの音量調整を行うと、音量最大値が変わることがあります。

ノイズが出る

- オーディオ用ピンコードと電源コードなどを束ねると音質が劣化しますので避けてください。
- 接続コードが影響を受けている可能性がありますので、接続コードの位置を動かしてみてください。

レイトナイト機能が働かない

- 再生ソースがドルビーデジタルか確認してください。（55）

マルチチャンネル音声が出力されない

- マルチチャンネル対応のDVDプレーヤーを使用しているか確認してください。
- 音声信号の種類を「Multich」にしてください。（57）

DTS信号について

- DTS信号を再生しているときは、本機のDTSインジケーターが点灯します。プレーヤー側での一時停止やスキップ操作時に発生するノイズを防ぐため、再生が終了してもDTSインジケーターが点灯したままになります。このため、DTS信号から急にPCM信号に切り換わるタイプのソフトは、PCMがすぐに再生されない場合があります。このときはプレーヤー側で再生を約3秒以上中断し、再び再生を行うと正常に再生されます。
- 一部のCDまたはLDプレーヤーでは、本機とデジタル接続をしても正しくDTS再生ができない場合があります。出力されているDTSデーターに何らかの処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など）が行われていると、本機が正しいDTSデーターとみなすことができず、ノイズを発生することがあります。

困ったときは

- DTS対応ディスクを再生しているときにプレーヤー側でポーズやスキップなどの操作をすると、ごく短時間ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。

映像

映像が出ない/乱れる

- 接続コードのプラグは奥まで差し込んでください。
- 接続した機器の映像出力端子と本機の接続に間違いがないか確認してください。
- 映像機器と本機をD端子接続している場合は、本機とテレビもD端子またはコンポーネント接続をしてください。（21）
- 映像機器と本機をCOMPONENT端子接続している場合は、本機とテレビもコンポーネントまたはD端子接続をしてください。（21）
- TVなど､モニター側での入力画面の切り換えを確認してください。
- Pure Audioになっていると映像は出ません。
- 42ページの設定により、VIDEO端子やS VIDEO端子に接続した機器の映像をD端子やコンポーネント端子で接続したTVなどのモニターに変換することができますが、ビデオデッキなど映像機器の信号に乱れが多い場合は、テレビで映像が乱れたり映像を表示しなくなる場合があります。この場合はD端子やコンポーネント端子で接続したTVなどのモニターに変換せず、VIDEOまたはS VIDEO端子で接続してください。
- ビデオデッキなど映像機器の信号に乱れが多い場合は、一部のプロジェクターやテレビで映像が乱れたり、映像を表示しなくなる場合があります。アップコンバート機能を使用せず、VIDEO端子またはS VIDEO端子接続を行ってください。

OSD画面表示が出ない／位置がおかしい

- 映像出力端子の設定を行ってください。（41）
- OSDの設定で、ご使用のモニターに合わせた設定をしてください。（67）
- ご使用のテレビなどのモニター側の設定を確認してください。
- コンポーネント映像が出力されているときは音量調整などの操作内容と、ネットオーディオに関する表示は表示されません。映像端子の設定を「Video」にすると表示されます。（42）

リモコン

リモコン操作ができない

- 電池の極性（＋/－）が正しく入っているか確認してください。
- 電池を3本とも新しいものと交換してみてください。
- リモコンと本体の間が離れすぎていないか、リモコンと本体のリモコン受光部の間に障害物がないかを確認してください。
- 本体のリモコン受光部に強い光（インバーター蛍光灯や直射日光）が当たっているとリモコン操作ができない場合があります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスが使用されていると正常に機能しない場合があります。
- リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。（43, 44）
- 他社製品の仕様により、記憶しているリモコンコードでは、一部の操作が働かない場合があります。
- 本機とリモコンコードが合っているか確認してください。

他機器の操作ができない

- オンキヨー製他機器とRIケーブル、オーディオ用ピンコードが正しく接続されているか確認してください。（RIケーブルだけでは連動しません。）
- リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。（43, 44）
- 入力表示が正しく設定されているか確認してください。（例 TAPE端子にMDレコーダーを接続した場合）（44）

リモコンの学習操作ができない

- リモコン送信部が正しく向き合っていることを確認してください。
- 学習できないリモコンを学習させようとしていませんか？コードを転送できないもの、1つのボタンで複数の指示を出すリモコンは学習できないことがあります。

録音

録音ができない

- 録音機器側で、デジタルやアナログなどの録音入力切り換えが正しくできているか確認してください。

ZONE 2

電源が切れる

- スリープタイマーが働いていませんか。本体でスリープタイマーを働かせると、ZONE 2でもスリープタイマーが働きます。ZONE 2だけスリープタイマーを設定するには81ページをご覧ださい。

音が出ない

- ZONE 2端子と録音・録画出力端子（REC OUT）は同じ回路を使用しているため、同時に使用できません。REC OUTボタンを押すと音が出力されなくなります。

スピーカーの設定でSurr Backが表示されない

- サラウンドバックスピーカーを接続していないとき、またはZONE 2として使用しているときは、表示されません。

インターネットラジオ

インターネットラジオもミュージックサーバー機能も使用できない

- ルータのLAN側ポートと本機の接続を確認してください。
- モデムとルータが正しく接続されているか確認してください。また、電源が入っているか確かめてください。
- Network Setupが正しく行われているか確認してください。

Music Serverを使用しているときに再生音が途切れる

- パソコンのメモリーを増やしてください。70ページの「必要なシステム」に対応しているか、お確かめください。パソコンで大きな容量のファイルをダウンロードしたりコピーしている場合は再生音が途切れる場合があります。このような時はパソコンをより高性能なものに変えるか、不要なアプリケーションソフトを終了してください。または、Net-Tune Central専用のサーバーPCを用意することをおすすめします。また、本機でWAVファイルを複数台で再生する場合は、ネットワークの負荷オーバーで再生音が途切れる場合があります。この場合はNet Audio専用にLANを敷設して一般のLAN回線と分けたり、ネットワークトラフィックを改善するスイッチングHUBやルータを追加することが問題の解決になることがあります。

インターネットラジオサイト（XiVA internet Radio Server）からステーションリストが取得できない

- 時間を置いて再度アクセスしてください。

mServerを選択したが再生しない。あるいは、つながらない。

- パソコンを立ち上げ､Net-Tune Centralを起動させてください。
- パソコンにMP3、WMA、WAVフォーマットの音楽ファイルを作り、Net-Tune CentralでPCの音楽ファイルのリストを作成してください。
- 本機のコンセントを抜いて、再度電源を入れてください。それでも改善しない場合は、Net-Tune Centralサーバーのパソコンを再起動してみてください。
- 「5-4. Client Setupサブメニュー」の「c. NTSP Port」でNet-Tune Centralと同じ数字にしてください。

アルバムが選択できない

- Net-Tune Centralの音楽ファイルリストにアルバム名をつけてください。

アーティスト名で選択できない

- Net-Tune Centralの音楽ファイルリストにアーティスト名をつけてください。

ジャンルが選択できない

- Net-Tune Centralの音楽ファイルリストにジャンル名をつけてください。

プレイリストが選択できない

- Net-Tune Centralにプレイリストを作ってください。

その他、オンキヨーのホームページにNET-TUNEに関するFAQが掲載されていますのでご参照ください。

その他

ヘッドホンを接続すると音が変わる/表示が消える

- Direct、Pure Audio以外のリスニングモードを選択している場合は、ヘッドホンを接続すると自動的にSTEREO出力になります。（46）

設定ができない

- 現在選ばれている入力がNet-Audioの場合、設定できないことがあります。
- Basicメニューには表示されない項目があります。Advancedメニューにしてください。（34）

音響設定ができない

- リスニングモードによっては、設定できない場合があります。

スピーカーの距離設定が希望通りにならない

- 設定する数値がホームシアターに適した数値に矯正されることがあります。

表示が出ない

- Pure Audioになっていると表示が消えます。
- コンポーネント接続で接続した機器の映像を出力しているときは、操作内容は表示されません。

■エラーメッセージ一覧

メッセージ	意味
“Not available With Headphones Use”	ヘッドホンが接続されているため、操作できません。
“Not available With Multichannel Use”	マルチチャンネルを使用しているため、操作できません。
“Not available In This Sp Config”	現在のスピーカー設定状況では働きません。
“Not available In Zone 2 Mode”	Zone 2モードを使用しているので、この設定はできません。
“Only available With Dolby D”	Dolby Digital以外の設定はできません。
“Not available in this Listening Mode”	現在のリスニングモードでは働きません。
“Not available with this signal”	現在の入力ソースでは、リスニングモードが選べません。
“Not available in Pure Audio mode”	Pure Audioになっているため、操作はできません。
“Surr Back/Zone 2 setting is Surr Back”	「0-2. Surr Back/Zone 2」の「a. Surr Back/Zone 2」設定が「Surr Back」になっているので働きません。
“Surr Back/Zone 2 setting is Zone 2”	「0-2. Surr Back/Zone 2」の「a. Surr Back/Zone 2」設定が「Zone 2」になっているので働きません。
“Not available with the Surr Back/Zone 2 setting”	現在の「0-2. Surr Back/Zone 2」の「a. Surr Back/Zone 2」の設定では操作できません。
“Not available with Muting”	ミューティング機能が働いているので操作できません。
“Zone 2 is not On”	Zone 2がOnになっていないので働きません。

メモリー保持について
本機には、メモリー保持用の予備電源装置が内蔵されています。これは、お客様が行ったスピーカーの設定や音響効果に関する設定などを停電時などに保護するためのものです。本機のコンセントを抜いた状態でメモリーが保持できるのは約2週間です。

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて、約5秒後にあらためて電源プラグを差し込んでください。

製品の故障により正常に録音・録画できなかったことによって生じた損害（CDレンタル料等）については保証対象になりません。大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音・録画できることを確認の上、録音・録画を行ってください。

すべての内容をお買い上げ時の設定内容に戻すには
電源を入れた状態でVIDEO 1 ボタンを押したままSTANDBY/ONボタンを押してください。
表示部に「CLEAR」が表示され、スタンバイ状態になります。

用語集

音声フォーマット

サラウンド（Surround）
ドルビーデジタルやDSPの音声モードなどを用いた臨場感のある音の総称。

ドルビーデジタル（Dolby Digital）
ドルビー社によって開発されたデジタルマルチチャンネル音声規格。モノラルから5.1チャンネルまでに対応しています。　プログラム間でセリフの平均レベルを一定に保つダイアログノーマライゼーション、視聴環境の制約に対応してダイナミックレンジを調整するダイナミックレンジ圧縮、スピーカーの数に合わせて出力チャンネル数を最適化するダウンミックスなど数々の機能が採り入れられています。DVD-Videoの標準音声、米国DTVの標準音声として採用されています。

ドルビーデジタルサラウンドEX（Dolby Digital Surround EX）
ドルビー社とルーカスフィルムTHXで共同開発された新しい音響フォーマット。
映画館の壁面に配置されるサラウンドチャンネルスピーカー、左右側面と背面の3つのセクション（左サラウンド、右サラウンド、バックサラウンド）に分割します。これによりサラウンドの空間表現力、定位感が高められ、360度の回転や頭上を通過するような移動音効果をよりリアルに体感できます。バックサラウンドチャンネルは左サラウンド、右サラウンドに振り分けることもできるため、通常の5.1チャンネルとして、既存のドルビーデジタル環境で再生することが可能です。

ドルビープロロジック（Dolby Pro Logic）
ドルビー社によって開発されたマトリックスタイプのサラウンドデコード技術。
2チャンネル（Lt/Rt）にマトリックスエンコードされた4チャンネル（L/C/R/S）信号を方向性強調を用いてもとの4チャンネル信号に復元します。センターチャンネルスピーカーを使用することで、正面で視聴していなくても画面からセリフが聞こえるようになります。

ドルビープロロジックII（Dolby Pro LogicII）
プロロジックを更に改良したマトリックスデコード技術。
これまでのプロロジックとの大きな差としては、サラウンドチャンネルがステレオであること（プロロジックはモノラル）、その再生帯域がフルバンド（プロロジックは7kHzの帯域制限）であることです。
したがって、あらゆるステレオ音源を5.1chであるかのような立体音場で楽しむことができます。
映画の再生に適した「ムービー」モード、音楽再生に適した「ミュージック」モードがあります。

DTSデジタルサラウンド（DTS Digital Surround）
米国のDTS社が開発したデジタルサラウンドフォーマット。コヒレントアコースティックス符号化と呼ばれる算法を使用し、圧縮率は通常4:1程度と比較的低くなっています。映画館ではフィルムにプリントされたタイムコードに同期してCD-ROMに記録された音声が再生されます。

DTS-ES エクステンディッドサラウンド (DTS-ES Extended Surround)
従来のDTS5.1chシステムにセンターバックサラウンド（CS）チャンネルを加えたもので、かつてない音像・定位感を再現します。DTS-ESには「DTS-ESディスクリート6.1ch」と「DTS-ESマトリックス6.1ch」の2種類があり、どちらも下位互換性を有しているため従来のDTS5.1ch対応機器での再生も可能です。

DTS-ES　ディスクリート6.1 (DTS-ES Discrete 6.1)
5.1チャンネル音声データに拡張データとしてセンターサラウンドチャンネル音声データを付加し、この方式に対応したDTSデジタルサラウンドデコーダーによって完全に独立した6.1チャンネル音声を再生するDTSシステム。

DTS-ES　マトリックス6.1 (DTS-ES Matrix 6.1)
映画館におけるDTS-ESと同様に、あらかじめ左右サラウンドチャンネルにマトリックスエンコードされたセンターバックサラウンドチャンネルを、マトリックスデコーダーを使って復元して6.1チャンネルとする方式のDTSシステム。マトリックスデコーダーとしてNeo:6に対応した機器を使用します。

Neo:6
DTS社によって開発された、デジタル・アナログを含む全ての2チャンネルソースを6チャンネルサラウンドにするマトリックスデコード技術。映画に適した「シネマ」モードと音楽に適した「ミュージック」モードが用意されています。また、DTS-ES マトリックス 6.1のセンターサラウンドチャンネル信号の抽出にも使用されます。

MPEG-2 AAC
AAC(Advanced Audio Coding)は、AT&T社、ドルビー社、フラウンホーファー・インスティテュート・フォー・インテグレーティド・サーキット（Fraunhofer IIS）、そしてソニー株式会社の4社の高品質マルチチャンネル音声符号化のための最先端技術を組み合わせたもので、ISOとIECの共同管轄の下に、MPEG-2規格の一部として規格化された音声圧縮符号化方式です。
従来のＭＰＥＧ音声との後方互換性がないので、従来のMPEG音声デコーダーでは再生できません。わが国のデジタルテレビ音声方式として採用されています。

THX
THX社が設立した品質基準で、映画館でも家庭でも、制作者が意図したとおりのサラウンド効果を忠実に再現することを目的とした規格に準拠したモードです。
THX技術開発により、映画館よりも小さな家庭用ホームシアターで再生しても変わらない音響効果を再現できるように映画館用サウンドから家庭用音楽への変換時に起こる空間のエラーを修正しています。
THX Cinema（シネマ）モード、THX Surround（サラウンド）モードがあります。

THX Cinema（シネマ）
映画館のような広い場所で再生することを想定して録音編集された劇場用映画を見るときに適しています。

THX Surround（サラウンド） EX
ドルビーラボラトリーズとTHX社で共同開発されたホームシアター用フォーマットです。ドルビーデジタルEXの技術で記録。従来の左右フロント、センター、左右サラウンド、サブウーファーの各チャンネルに加えて、視聴者の背後に新たな音場を作り出し、総計7.1チャンネルとなります。

音声

アナログ
カセットデッキやビデオデッキ、レコードプレーヤーの音を一般にアナログ音声と呼びます。

デジタル
DVDやCDの音源を一般にデジタル音声と呼びます。

光（OPTICAL）デジタル
DVDやCDなどのデジタル信号を入出力するための信号で光ケーブルを使用して接続します。
アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。接続する機器にOPTICAL端子がある場合に使用できます。
音質は同軸デジタルと同等です。

同軸（COAXIAL）デジタル
DVDやCDなどのデジタル信号を入出力するための信号でＲＣＡタイプのピンコードを用いて接続します。
アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。接続する機器にCOAXIAL端子がある場合に使用できます。
音質は光デジタルと同等です。

サンプリング周波数
アナログ信号をデジタル信号に変換する時の精度。44.1ｋHzは1秒間に44100回、96ｋHzは1秒間に96000回アナログ信号を読みとってデジタルに変換します。

ダイナミックレンジ
信号を正しく変換する最大のレベルと、雑音等機器の性質で制限させる最小レベルの差。

ビットストリーム
ドルビーデジタルやDTSフォーマットのデジタルデータ。

LFE（Low Frequency Effect）
ドルビーデジタルやDTSの低周波数効果音のこと。
一般にディスクなどの信号に入っているとサブウーファーが効果的に働きます。

5.1chサラウンド
視聴位置前方に設置するセンタースピーカー1つ、フロントスピーカー2つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー2つで5ch（チャンネル）、サブウーファーは他のスピーカーよりも再生できる音域が10分の1のため、この6本のスピーカーを使って再生することを5.1chサラウンドと言います。

6.1chサラウンド
視聴位置前方に設置するセンタースピーカー1つ、フロントスピーカー2つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー2つ、真後ろに設置するサラウンドバックスピーカー1つで6ch（6チャンネル）、サブウーファーは他のスピーカーよりも再生できる音域が10分の1のため、この7本のスピーカーを使って再生することを6.1chサラウンドと言います。

映像

コンポジット
映像の入出力を行う標準的な信号。テレビやビデオデッキには赤・白・黄の丸い端子が装備されていますが、その黄色端子が映像を意味します。コンポジット信号を入出力するには黄色のピンコードを使用します。

Ｓビデオ
輝度信号（Y信号）と色信号（C信号）、同期信号などを複合した形で扱う信号。
コンポジット信号より良い映像を楽しめます。接続にはＳビデオコードを使用します。テレビにＳ端子がある場合使えます。

コンポーネント
輝度信号（Y信号）と色信号（C信号）を2つに分けた色差信号をそれぞれ独立して扱う信号。
Ｓ信号よりも良い映像を楽しめます。接続には専用のコンポーネントケーブルをご使用ください。テレビにコンポーネント端子がある場合使えます。画質はSビデオより良く、D端子と同レベルです。

D端子
ケーブル1本で簡単にコンポーネント接続でき、より高品位な映像が楽しめます。テレビにD端子がある場合使えます。
D1～D4までの解像度のランクがあり、D4がもっとも高画質です。画質はSビデオより良く、コンポーネントと同レベルです。映像機器のアスペクト比など、制御信号を送ることができます。

主な仕様

総合

電源・電圧：AC100V・50/60Hz
消費電力：513W
待機時電力：2.5W
最大外形寸法：435（幅）×175（高さ）×459（奥行）mm
質量：20.5kg

●映像入力：
D4：2（D4 VIDEO INPUT 1/2）
コンポーネント：2（COMPONENT VIDEO INPUT 1/2）
S：6（DVD、VIDEO 1/2/3/4、VIDEO 5（前面パネル））
コンポジット：6（DVD、VIDEO 1/2/3/4、VIDEO 5（前面パネル））

●映像出力：
D4：1（D4 VIDEO OUTPUT）
コンポーネント：1（COMPNENT VIDEO OUTPUT）
S：3（VIDEO 1/2、MONITOR OUT）
コンポジット：4（VIDEO 1/2、MONITOR OUT/ZONE 2）

●音声入力：
デジタル：8（OPTICAL×5、COAXIAL×3）
アナログ：10（PHONO、CD、TAPE、VIDEO 1/2/3/4、VIDEO 5（前面パネル）、TUNER、DVD）
マルチchアナログ：7.1ch

●音声出力：
デジタル：2（OPTICAL×2）
アナログ：3（TAPE、VIDEO 1/2、ZONE 2）
プリ出力：7.1（FRONT L/R、SURR L/R、CENTER SUB SURR BACK/ZONE 2、L/R）
スピーカー出力：7
ヘッドホン出力：1

●その他
Ethernet端子

アンプ（音声）部

定格出力：
全てのチャンネル（2チャンネル駆動時）
145W（6Ω 1kHz、全高調波歪率0.1%以下）
110W（8Ω 20Hz〜20kHz、全高調波歪率0.08%以下）
実用最大出力：180W（6Ω、EIAJ）
全高調波歪率：0.08%（定格出力時）
ダンピングファクター：60（フロント、8Ω）
入力感度/インピーダンス：
DIGITAL INPUT (COAXIAL)：0.5Vp-p/75Ω
DIGITAL INPUT (OPTICAL)：−24dBm
LINE (CD、VIDEO 1、2、3、TAPE、TUNER)：200mV/47kΩ
PHONO：2.5mV/47kΩ
DVD (FRONT L/R、CENTER、SURR L/R：200mV/47kΩ
DVD (SUBWOOFER)：36mV/47kΩ
出力電圧/インピーダンス：
REC OUT (VIDEO 1、2、TAPE)：200mV/470Ω
PRE OUT：1V/470Ω
周波数特性：
10Hz〜100kHz：＋1dB/−3dB（ダイレクトモード）
トーンコントロール最大変化量：
Bass ：±10dB（50Hz時）
Treble ：±10dB（20kHz時）
PHONO最大許容入力：
120mV RMS（1kHz、0.5% THD）
SN比：
LINE ：110dB IHF-A、0.5V入力（ダイレクトモード）
PHONO ：80dB IHF-A、5mV入力（ダイレクトモード）
スピーカー適応インピーダンス：4Ω〜16Ω

映像部

入力感度・出力電圧/インピーダンス：
1.0Vp-p/75Ω（コンポジット、S VIDEO Y信号）
0.7Vp-p/75Ω（コンポーネント CB/PB、CR/PR）
0.286Vp-p/75Ω（S Video C信号）
コンポーネント映像周波数特性：5Hz〜50MHz

リモコン RC-564M

方式：赤外線
信号到達距離：約5m
使用電池：単3形、R6（1.5V）乾電池3個

※仕様および外観は予告なく変更することがあります。

修理について

■保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より3年間です。

■調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。

- ▶ お名前
- ▶ お電話番号
- ▶ ご住所
- ▶ 製品名　DTX-7
- ▶ できるだけ詳しい故障状況

■オンキヨー修理窓口について

詳細は付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

■保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

■保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。

ONKYO

オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内

オンキヨー製品についてのご購入相談はお近くの販売店へ、修理については、お買い求めの販売店へご依頼ください。
万一お困りの場合には、下記の窓口へご相談くださるようお願いいたします。

お 客 様 ご相談窓口	**カスタマーセンター** 受付 9:30〜17:30（土日祝、弊社休日除く） **■カタログのご請求、製品についてのご相談** ＊e-mail ：ホームシアター/オーディオ製品 →customer@onkyo.co.jp ＊TEL ：ナビダイヤル 0570-01-8111（全国どこからでも市内料金で通話いただけます） または072-831-8111（携帯電話、PHSから）へどうぞ。 ＊FAX ：072-831-8124 ＊はがき：〒572-8540 大阪府寝屋川市日新町2-1 オンキヨー株式会社 カスタマーセンター行

オンキヨー製品情報、ユーザー登録ホームページへ→http://www.onkyo.co.jp

快適なオーディオライフをお手伝い。ネットショップへ→http://www.e-onkyo.com

修 理 窓 口 修理のご依頼は、取扱説明書の「困ったときは」、「故障かな？と思ったときは」または「故障？と思ったときは」の項目をご確認のうえご依頼ください。転居されたり、贈物でいただいたものの故障でお困りの場合は、下記へご相談ください。

東京サービスセンター	大阪サービスセンター
TEL 03-3861-8121 FAX 03-3861-8124 〒111-0054 東京都台東区鳥越1-2-3 ハマスエビル	TEL 072-831-8080 FAX 072-831-8124 〒572-8540 大阪府寝屋川市日新町2-1

2003年2月現在　　お客様相ご談窓口・修理窓口の名称、所在地、電話番号は変更になることがございますのでご了承ください。

Integra

ご購入されたときにご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日： 　　年　　月　　日

ご購入店名：

Tel.　　(　　)

メモ：

Integra®

オンキヨー株式会社

本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

ONKYO HOMEPAGE
http://www.onkyo.com/jp/

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：カスタマーセンター
ナビダイヤル　0570(01)8111（全国どこからでも市内通話料金で通話いただけます）
または　072(831)8111（携帯電話、PHSから）

SN 29343576

G0310-1